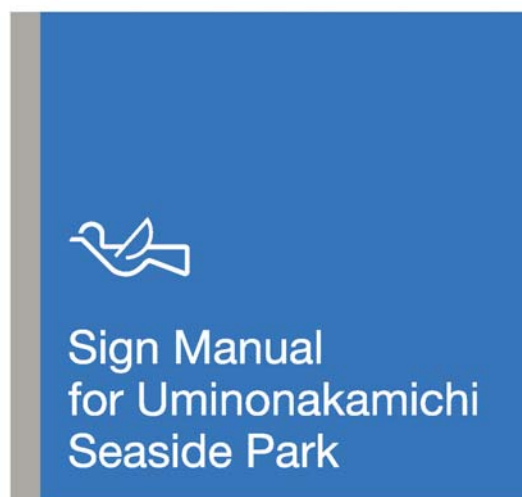




海 の 中 道 海 浜 公 園
サインマニュアル

平成 30 年度版

平成 31 年 3 月
国 営 海 の 中 道 海 浜 公 園 事 務 所

目 次

1. はじめに	1
2. 海の中道海浜公園におけるサインの基本理念	
2.1 サインマニュアルの前提となる考え方	2
2.2 基本理念と実施方針	3
2.3 サインマニュアルのポイント	4
2.4 先を予測させる見通しの確保（案）	5
2.4.1 目的地への見通しの確保（参考）	6
2.4.2 ランドマークとなる施設を強調（案）	8
3. サインマニュアルの対象範囲	
3.1 本マニュアルで規定するサイン	10
3.2 各サインの位置づけと役割	11
3.3 サイン体系	12
3.4 サイン設置時のチェックリスト	13
4. サイン計画の基盤となる空間区分	
4.1 公園利用者の空間認識に基づくエリア区分の変化	15
5. 配置の考え方	
5.1 各サインの設置の考え方	18
5.2 各サインについての考え方	19
5.2.1 A1：全体案内サインの配置	19
5.2.2 A2：地区案内サインの配置	20
5.2.3 B1：歩行者誘導サインの配置	21
5.2.4 C：自転車誘導サインの配置	22
5.2.5 A2・B・Cサインの設置フロー	29
5.3 視距と表記文字のサイズ	30
5.3.1 マップ面における文字の大きさの設定	31
5.3.2 誘導サインにおける文字等の大きさの設定	32
5.4 設置にあたっての配慮事項	35
5.4.1 表示スペース	35
5.4.2 表示高さの配慮	36
5.4.3 勾配・階段を示すピクトグラムの配置	37

5.4.4 公園への眺望への配慮	38
5.4.5 案内サイン（A1、A2）の設置向き	39
5.4.6 公園との調和・維持管理への配慮	40

6. 表記する施設名称

6.1 マップ面における施設名称の表記方法	41
6.1.1 マップ面を使用するサイン	42
6.1.2 公園ガイドとの連動	43
6.1.3 マップ面に表示する施設一覧	43
6.1.4 現在位置表示の考え方	45
6.2 誘導サインにおける施設名称の表記方法	46
6.2.1 誘導表示するサイン	46
6.2.2 誘導表示する施設一覧	47
6.2.3 誘導表示に表記する施設の考え方	49
6.3 施設名称及び外国語表記	52
6.3.1 外国語表記の考え方	52
6.3.2 外国語表記の翻訳	53
6.3.3 公園施設の4ヶ国語表記一覧	54
6.4 指定書体（フォント）	55
6.5 指定ピクトグラム	57
6.6 指定色	58

7. サイン標準仕様

7.1 設計条件	59
7.2 標準仕様	60
・ A1：全体案内サイン H2400×W4000	61
・ A2：地区案内サイン H2400×W4000	64
・ B1：歩行者誘導サイン（版タイプ） H2400×W800	67
・ C1：自転車誘導サイン H2000×W800	69
・ C2：自転車誘導サイン（ラウンドアバウト） H2000×W1000	71
・ D1：駐車場内誘導サイン	73
・ E1：記名サイン（自立型） H1400×W350	75
・ E2：記名サイン（壁面設置型） H700×W350	77
・ F1：催事情報サイン（常設型） H2000×W2500	79
・ F2：催事誘導サイン（仮設型） H900×W200（参考図）	81
・ F3：催事案内サイン（仮設型） H1600×W1200（参考図）	83
・ G1：規制・警告・誘導サイン（自立型） H1400×W350	85
・ G2：規制・警告・誘導サイン（移動型） H350×W700	86

8. 通り名で道案内	88
9. トイレサイン	89
9.1 トイレサインの種別と役割	89
9.2 トイレサインの設置基準	90
参考資料 1. 新旧対応表	99
参考資料 2. 印刷の仕様	100
参考資料 3. A1、A2、B1 サイン配置図	101
参考資料 4. サイクリングコース及び C1、C2 サイン配置図	103
参考資料 5. マニュアルの改訂作業	106
参考資料 6. マニュアルの改訂記録簿	107

1. はじめに

本公園は広域的レクリエーション施設として、広大な面積を有し、その中に特色ある施設を配置しています。本公園は、平成23年度で開園30周年を迎えましたが、社会的ニーズにお応えできるよう、すべての方にやさしい、ユニバーサルデザインに配慮した公園づくりを進めているところです。

しかしながら、昭和56年度より順次開園していることから、案内サインについても順次設置しており、サインの統一性がとれていないことと、必要に応じて追加設置したことに伴い、サインが乱立していることが課題となっております。また、開園30年の経過により、公園の木々が大きくなり、安らぎを与える一方で、見通しをさえぎり、公園のわかりやすさを阻害する要因になりつつあります。

そこで、このたび、平成6年度に作成された「海の中道海浜公園サインマニュアル」を改訂しました。まず、「公園自体を直感的にわかりやすくする」ことが重要なユニバーサルデザインの視点と捉え、園路の樹木の剪定や間伐を行う事で見通しの確保を行い、乱立傾向にあったサインを見直し、新たな体系として整理しています。また、これらの検討については、「ユニバーサルデザイン検討委員会」内に設置された「サインシステムの再構築プロジェクトチーム」からの助言によって、ケヴィン・リンチの手法を用いて利用者目線の空間認識や公園自体をわかりやすくする工夫などが検討され、ユニバーサルデザイン検討委員会において審議・承認されたものです。

本公園における案内のわかりやすさを向上させるにあたっては、ホームページや公園ガイド等の他の情報媒体と連携しつつ、サインを計画・設置していく必要があります。

本マニュアルは、本公園を利用者が分かりやすく快適に行動できるよう、サインの体系的な整備に資することを目的としています。

本マニュアルを活用し魅力的な公園づくりを推進します。

尚、本マニュアルの施行により、平成6年度版サインマニュアルは廃止とし、平成28年度版サインマニュアルを更新し、平成30年度版として運用します。

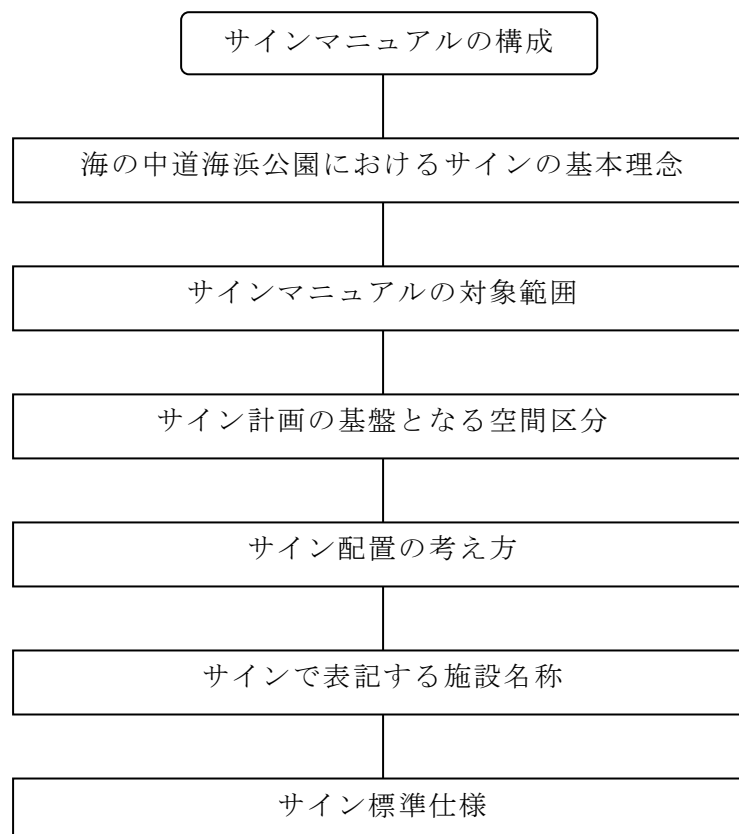
2. 海の中道海浜公園におけるサインの基本理念

2.1 サインマニュアルの前提となる考え方

- ユニバーサルデザインに関する基本情報は、来園前はホームページ、来園後は公園ガイドで提供する。
- 車椅子利用者、視覚障がい者、などサポートが必要な方は、基本的に介助者同伴で来園されるものと定義する。

【解説】

本公園におけるサインは、ユニバーサルデザインに基づき検討されているものであり、ユニバーサルデザイン検討委員会において、サインを検討するにあたり、上記設定がなされている。



2.2 基本理念と実施方針

○本公園のサインにおける基本理念と実施方針は以下のものとする。

基本理念	実施方針
①公園内での活動や生活を、情報の面から支援する。海の中道海浜公園の自然や見所など公園の魅力をより多くの方に感じていただけるよう、アクティビティ情報を提供する。	・サインに掲載する情報は、<u>段差や階段、スロープ、トイレまでの距離などの情報</u>も必要に応じて提供する。 ・パーソナルスペースとなるトイレには<u>視覚障がい者向けに点字サイン</u>を設置する。 ・外国語表記は、<u>基本的に4ヶ国語表記</u>（日本語、英語、中国語、韓国語）とし、言語に頼らない方法として<u>ピクトグラムを活用</u>する。 ・五感で感じる情報（アクティビティ情報）は、季節による変化などを考慮し、<u>おすすめ施設マップや催事サインなどで情報提供</u>する。
②サインに頼らなくても、案内ができるように、見通しを確保する。	・公園のわかりにくさにつながっていると考えられる場所での<u>植栽などの間伐や枝落とし</u>など、適切な樹木管理を行い、<u>先が予測できるように</u>する。 ・公園の特色ある施設がランドマークとして強調されるように、<u>見通しを確保する</u>。 ・<u>通りの名称や路面表示など</u>によって、誘導を補助する。
③公園スタッフが、おもてなしの心を持って公園利用者へ積極的に接し、案内・誘導を行う。	・スタッフが常駐する当公園ならではの取り組みとして、道に迷っている方や道案内を必要とされる方には、<u>公園スタッフが積極的に案内・誘導</u>する。
④公園利用者が案内サインで、わかりにくい場所や困っていることなどの情報を収集し、サインに頼らない手法により案内できるように検討する。	・<u>ご意見箱やスタッフの聞き取り</u>などで、案内の面でわかりにくい場所や困っているなどの<u>意見や利用状況等の情報を収集</u>する。 ・<u>利用者からの意見や利用状況などの情報を基に</u>、園内巡視を定期的実施し、ユニバーサルデザインの観点から、<u>わかりにくさにつながっている場所などの確認し、改善を行う</u>。（スパイラルアップの実施）

【解説】

上記、基本理念と実施方針については、ユニバーサルデザイン検討委員会の下部組織「サインプロジェクトチーム（平成23年度）」にて検討され、ユニバーサルデザイン検討委員会にて承認されているものである。

2.3 サインマニュアルのポイント

①公園自体を分かりやすくすることで、サインを設置することなく、案内が可能。

⇒利用者の空間認識の見地から、サインがなくても目的地（目標物）が分かる

- ・空間の境界（エッジ）や主要な交差点（ノード）、各エリアによる区分（ディストリクト）などのメリハリによる分かりやすさの向上（P13 参照）

②「公園ガイド」をセルフガイドツールとして積極的に活用。

⇒“現在地”の認識に重点を置く案内方法

- ・全体案内サイン及び地区案内サインの配置の見直しと適切な現在地表示

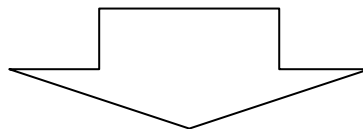
⇒サインを最小限に、そして、シンプルに、配置

- ・誘導サインの配置見直し
- ・誘導サインの重複解消

③季節の見所やイベントなどの利用情報を提供し、四季の公園の楽しみ方を提案

⇒各ゲートでの情報提供

⇒おすすめ施設マップと催事サインの連動性を高めて、誘導



園内をわかりやすくするためには、

サインだけですべてを解消しようとしな

ことが重要である。

2.4 先を予測させる見通しの確保（案）

○公園利用者を円滑に案内するためには、目的地が明確となるよう、樹木の伐採等による見通しの確保を実施する。

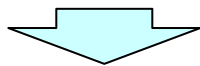
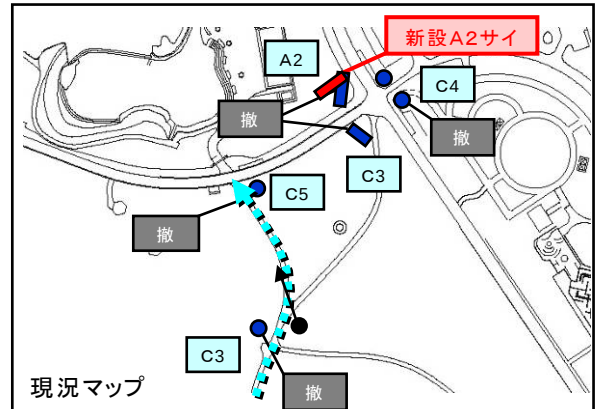
【解説】

公園の案内性の向上のためには、目的地及び目印となる施設等が視認しやすいことが重要であり、認識しやすい空間であることで、サインの設置を最小限にすることが重要である。

2.4.1 目的地への見通しの確保（参考）

①動物の森（例）

園路沿いの木々の下枝の伐採及び低木の一部を取り除くことで、動物の森のポールが視認できることとなり、サインを設置せずとも、目的地が理解できる。



動物の森通り中間点から動物の森方向を望む。低木ならびにいくつかの木々を伐採することで、動物の森への視認性が向上する。

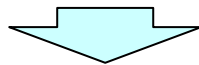
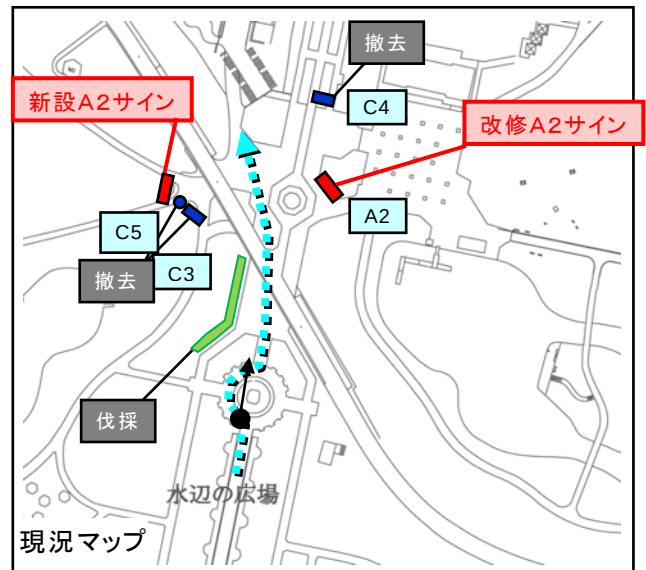
②フラワーミュージアム前（対策済み）

フラワーミュージアム入口前の花時計周辺は園路が複雑に交わる地点であり、利用者の迷いやすいポイントとなっている。特に、西口からフラワーミュージアム入口は植栽により向こう側が予測できないため、移動の判断が難しい。そのため、植栽を伐採し、フラワーミュージアム入口が見えることで、スムーズな利用動線ができると考えられる。また改修、新設される A2 サインにより大芝生広場、動物の森への園路も判断しやすくなると考えられる。



植栽により、園路を認識できない。

フラワーミュージアム入口の方向がわからない。



植栽の剪定により、フラワーミュージアム入口を認識しやすくなった。



新設されたA2サイン

2.4.2 ランドマークとなる施設を強調（案）

①ホテル・ザ・ルイガンズ 前（対策済み）

以前は、ホテルのエントランスが見えず、また自動車の移動導線も認識しづらかったため、他の駐車場を利用する場面や逆走する場合も見られた。そのため、ホテル前面の植栽が伐採され、ホテルへの見通しが一変するとともに、ホテルの外観が特徴あるランドマークとして認識しやすくなったと考えられる。



現在の状況（植栽によりホテル入口やサインが認識できない。）



新たにサインを設置せずとも、ホテルの入口、ホテル駐車場の入口が容易に確認できる。

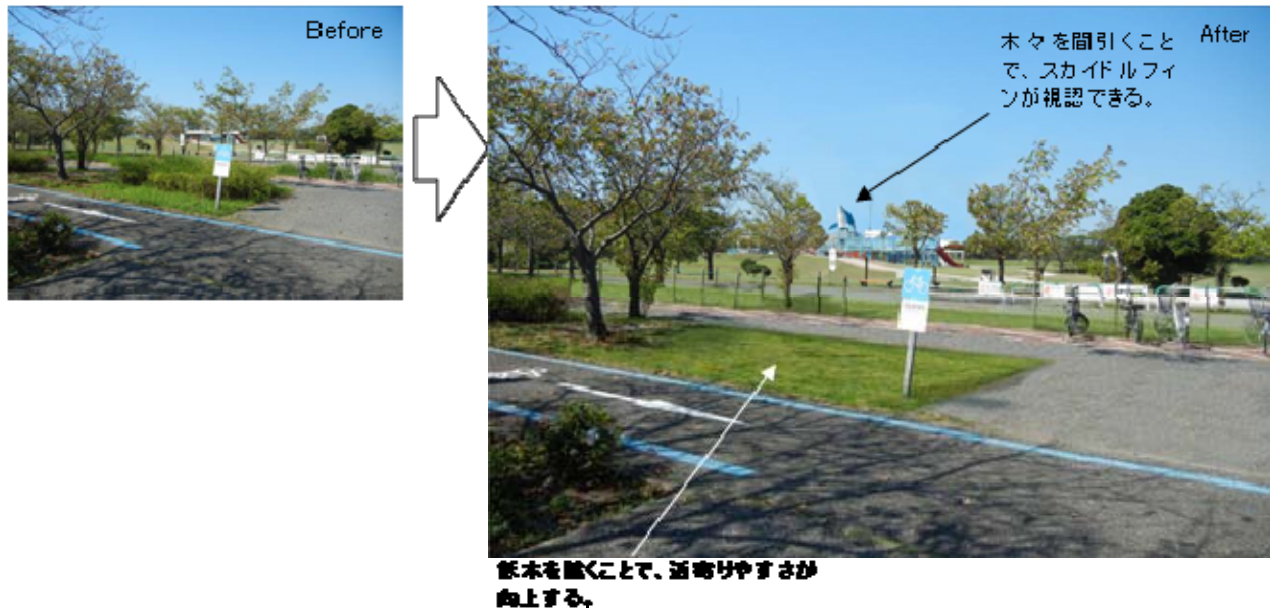
②西口～子供の広場（例）

西口のスカイシェルター付近は、公園を一望できる眺望点の一つであり、ここから周辺施設への見通しが確保されることで、園路方向を直感的に認識できると考えられる。



③スカイドルフィン（例）

スカイドルフィンは特徴的な形をした遊具で、公園利用者から目印の一つとして認識されていると考えられる。また、周囲をサイクリングロードが走っているが、サイクリングロードからの視認性は良くない。そこで、木々を間引くだけで、スカイドルフィンの視認性が向上し、わかりやすくなる。また目印としてもスカイドルフィンが活きると考えられる。



3. サインマニュアルの対象範囲

3.1 本マニュアルで規定するサイン

○本マニュアルで規定するサインとして、以下の条件を満たすこととし、表-3.1.1 に示すものを対象とする。

■公園共通条件

- ・公園の位置に限らず、デザインの統一化が求められるもの
- ・情報の秩序化が求められるもの
- ・公園のデザインコードに準拠する必要があるもの（海中らしさを演出するもの）
- ・一定のルールに基づく必要があるもの
- ・必要に応じた仮設等臨時のサイン

表-3.1.1 規定するサイン

コード	サイン種別	該当頁
A1	全体案内サイン	54
A2	地区案内サイン	57
B1	歩行者誘導サイン	60
C1	自転車誘導サイン	62
C2	自転車誘導サイン（ラウンドアバウト）	64
—	自転車路面サイン	
D1	駐車場内誘導サイン	66
E1	記名サイン（自立型）	68
E2	記名サイン（壁面設置型）	70
F1	催事情報サイン（常設型）	72
F2	催事誘導サイン（仮設型）【参考】	74
F3	催事案内サイン（仮設型）【参考】	76
G1	規制・警告サイン（自立型）	78
G2	規制・警告・誘導サイン（移動型）	79

（規定外サイン（例））

- ・仮設サイン：施設管理者がイベント時等に設置する仮設のサインなど（F1～3）
- ・学習サイン：花や木の名前、施設の使い方など
- ・各施設の記名サイン：動物の森のトーテンポールなど
- ・通り名で道案内（11. 通り名で道案内にて整理）
- ・トイレサイン（12. トイレサインにて整理）

※規定外サインについては、設置する施設や空間に応じて個別に検討するものとする。

【解説】

サインマニュアルで規定する内容は、公園共通条件を設定している。

わかりやすさを向上させるためには、統一性が重要であることから、仮設サインの設置や個別施設のサインの設置にあたっては連絡調整会議等の関係機関において、協議・調整を行う。

3.2 各サインの位置づけと役割

○本マニュアルで規定するサインの位置付けと役割は、表-3.2.1 に示すとおりとする。

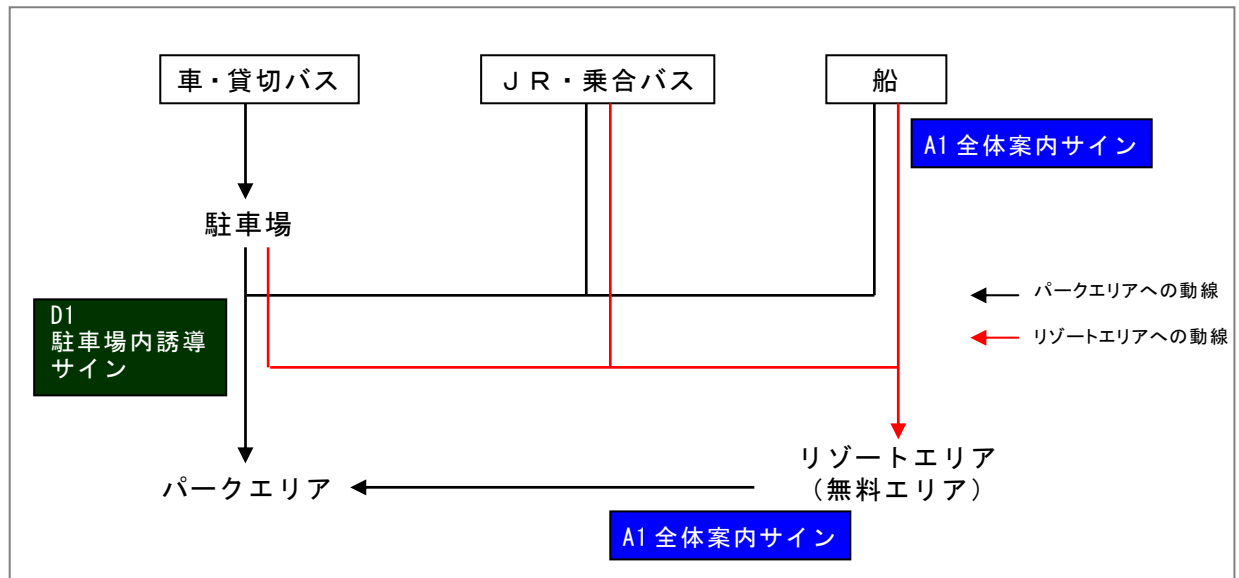
表-3.2.1 各サインの位置づけと役割

区分	位置づけ	役割
A1	全体案内サイン	・公園の全体像の把握 ・現在地の把握
A2	地区案内サイン	・現在地の把握 ・現在地周辺の施設状況の把握 ・主要な施設への園路方向の把握 ・ゲート情報の把握
B1	歩行者誘導サイン	・現在地周辺の施設状況の把握 ・主要な施設の園路方向の把握 ・ゲート情報の把握
C1	自転車誘導サイン	・サイクリングコース上の主要な施設方向の把握 ・ゲート情報の把握
C2	自転車誘導サイン (ラウンドアバウト)	・サイクリングコースのロータリーの方向の把握
—	自転車路面サイン	「安全で快適な自転車環境創出ガイドライン」に基づく自転車道への路面表示
D1	駐車場内誘導サイン	・現在地の把握 ・ゲート情報の把握 ・出口の案内
E1	記名サイン(自立型)	・施設情報の把握
E2	記名サイン(壁面設置型)	
F1	催事情報サイン(常設型)	・イベント情報の案内
F2	催事誘導サイン(仮設型)【参考】	
F3	催事案内サイン(仮設型)【参考】	
G1	規制・警告サイン(自立型)	・注意、禁止事項の発信
G2	規制・警告・誘導サイン(移動型)	

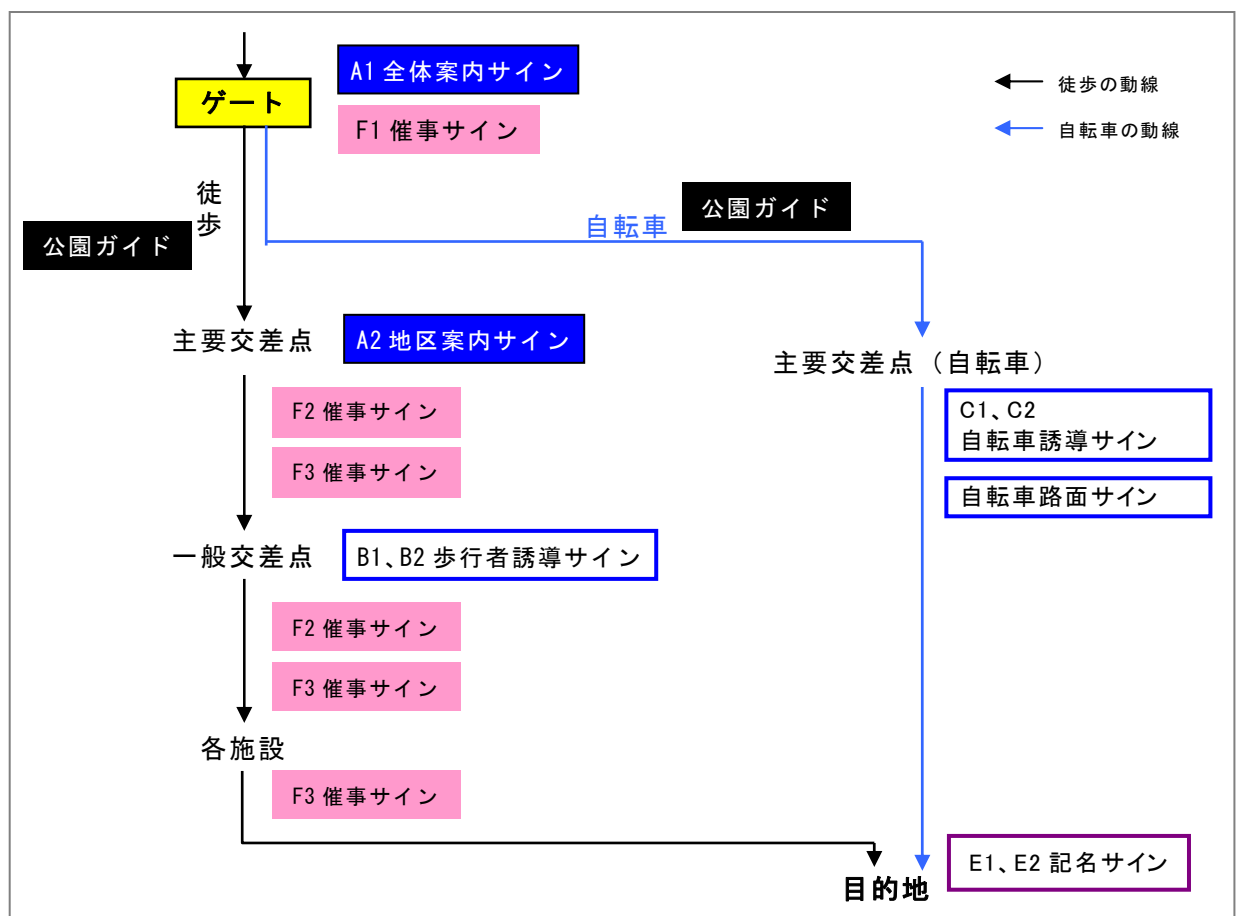
※学習サインや各施設の記名サイン等については、それぞれの目的に合致させるものとして除外した。

3.3 サイン体系

○本マニュアルで規定するサインの体系は、下図のとおりとする。



各交通手段からパークエリア・リゾートエリアまでのサイン体系図



パークエリア内のサイン体系図

3.4 サイン設置時のチェックリスト

- サインを新たに設置する場合（新設・増設・更新）については、事前確認チェックを行う。
- 一度撤去したサインを再度設置する場合や利用者ニーズにより新たに設置する場合は、再設置確認チェックを行う。
- 仮設サインの設置についても同様に事前確認チェックを行う。
- サインの設置、撤去に関しては全ての案件についてチェックシートを確認の上、連絡調整会議、管理運営委員会等で確認を行う。

【解説】

サインの設置・撤去に関しては、サインの基本理念実施方針に基づき協議と行うものとし、必ずチェックリストを用いてチェックを行い、連絡調整会議、管理運営委員会等で確認を行うものとする。

①チェックリスト（１）：事前確認（案内・誘導サイン等・チェックリスト）

サインを立てる前に再確認（案内・誘導サイン・チェックリスト）

①サインの設置について

- ☐ サインを立てなくても、分かりやすい空間づくりで対応できませんか？
- ☐ サインの情報が、近隣サインと重複していませんか？
- ☐ 近隣のサインを改良することで、サイン設置を回避できませんか？
- ☐ サインの設置について、連絡調整会議、管理運営委員会、ユニバーサルデザイン検討委員会等で確認しましたか？

②サインの種類について

- ☐ 設置を検討されているサインの種類は、必要な種類が選択されていますか？
- ☐ サインの設置位置は、十分、現地を確認した上で設定していますか？
- ☐ 全体案内サイン、地区案内サインは、マップ表示の向きと設置の向きを合わせていますか？
- ☐ 誘導サインは、利用者から見える面を考慮していますか？
- ☐ 誘導サインは、矢印の向きは、園路方向を示していますか？（方角を示してはいけません。）

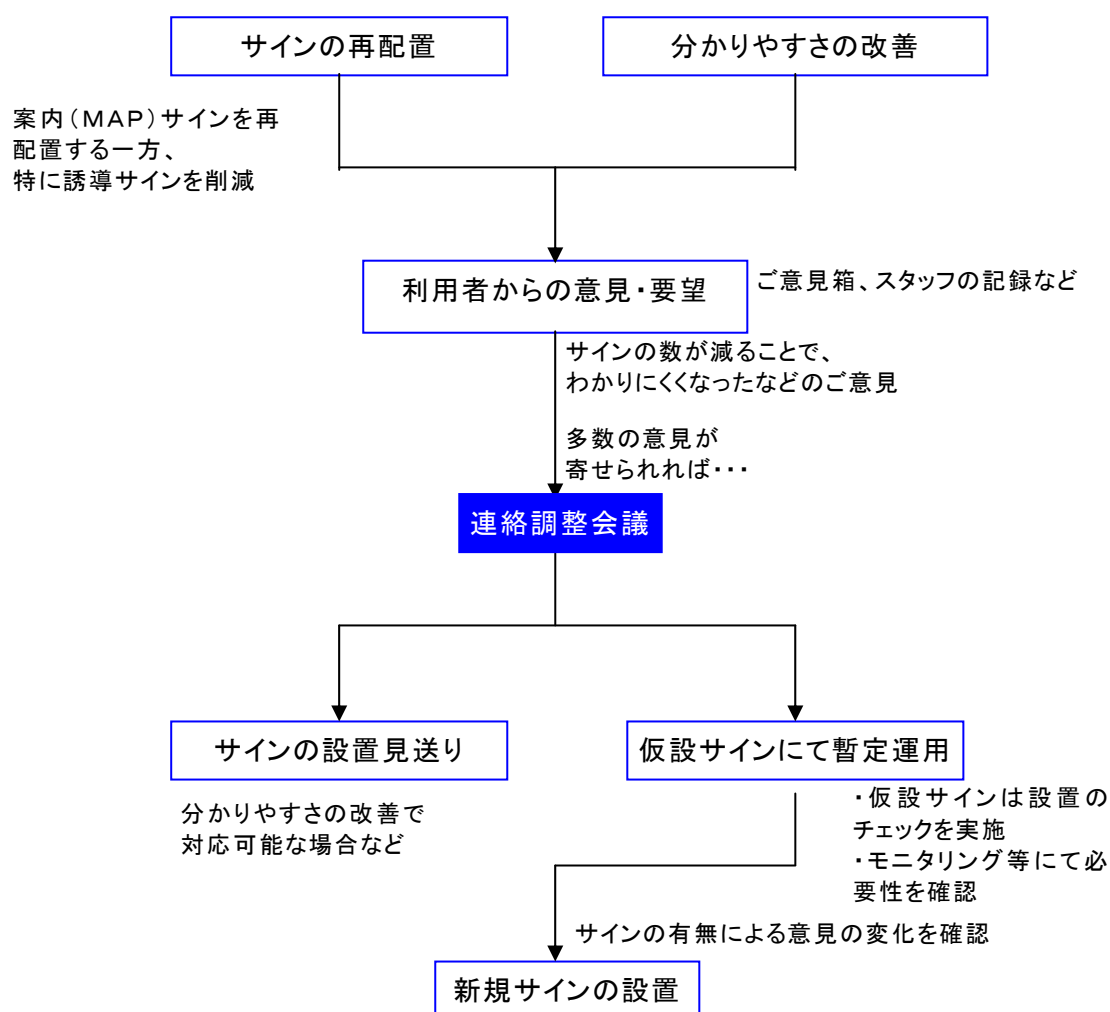
②チェックリスト（２）：再設置の場合の確認

“リバウンド”防止のために

サインシステムの再構築によって、特に誘導サインを削減する方向となる。

一度削減した場所やわかりにくい場所、案内の追加が必要と考えられる場所、または、利用者からのニーズが高い場所等については、F2 催事サインで暫定的に誘導し、効果が確認できれば新設することを検討する。

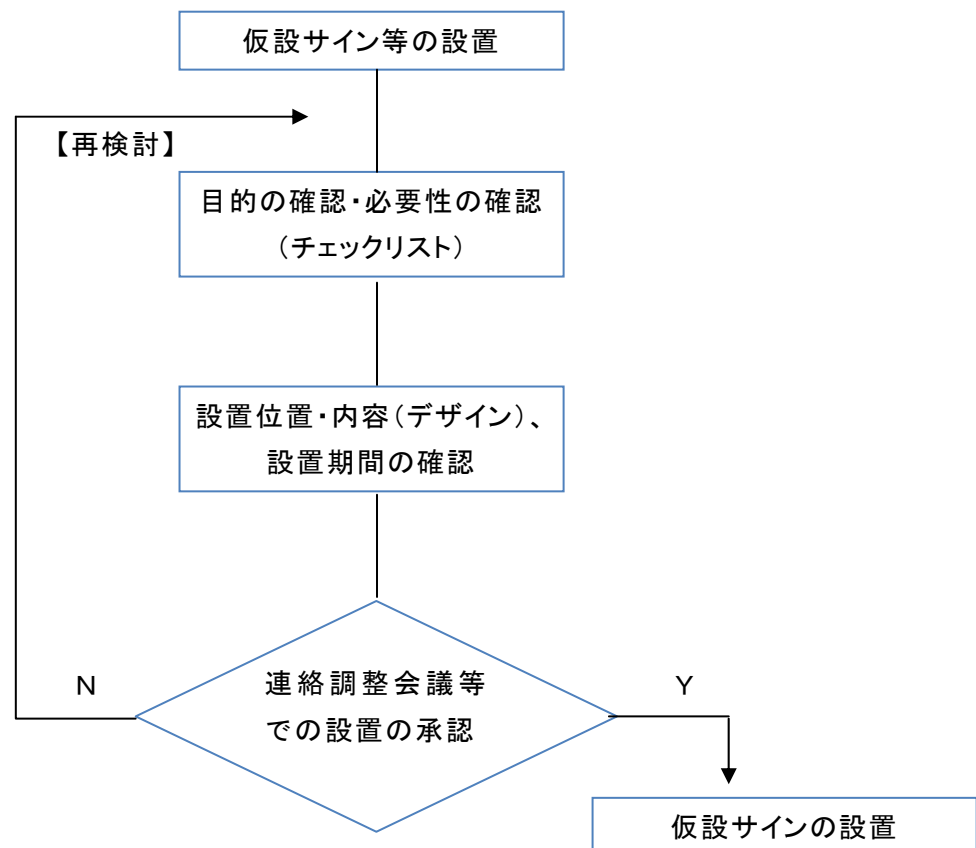
その際、ケヴィン・リンチの空間認識に基づいた設置箇所を選定し、関係機関と調整後設定することが必要である。



③チェックリスト（3）：事前確認（仮設サイン・規格外サイン・チェックリスト）

仮設サイン・規格外サインを立てる前に確認（チェックリスト）

- ☐ 仮設サイン・規格外サインの設置の必要性が明確となっていますか？
- ☐ 仮設サイン・規格外サインの設置目的から設置位置、設置期間が明確になっていますか？
- ☐ 仮設サイン・規格外サインのデザイン・仕様について海の中道海浜公園におけるサインの基本理念に合致していますか？
- ☐ 仮設サイン・規格外サインの設置について、連絡調整会議、管理運営委員会、ユニバーサル委員会で確認しましたか？



図ー3.1.1 仮設サイン等の設置フロー図

4. サイン計画の基盤となる空間区分

4.1 公園利用者の空間認識に基づくエリア区分

○サイン計画を立案するにあたり、公園利用者の空間認識に基づくエリア区分を
図-4.1.1のとおりとする。

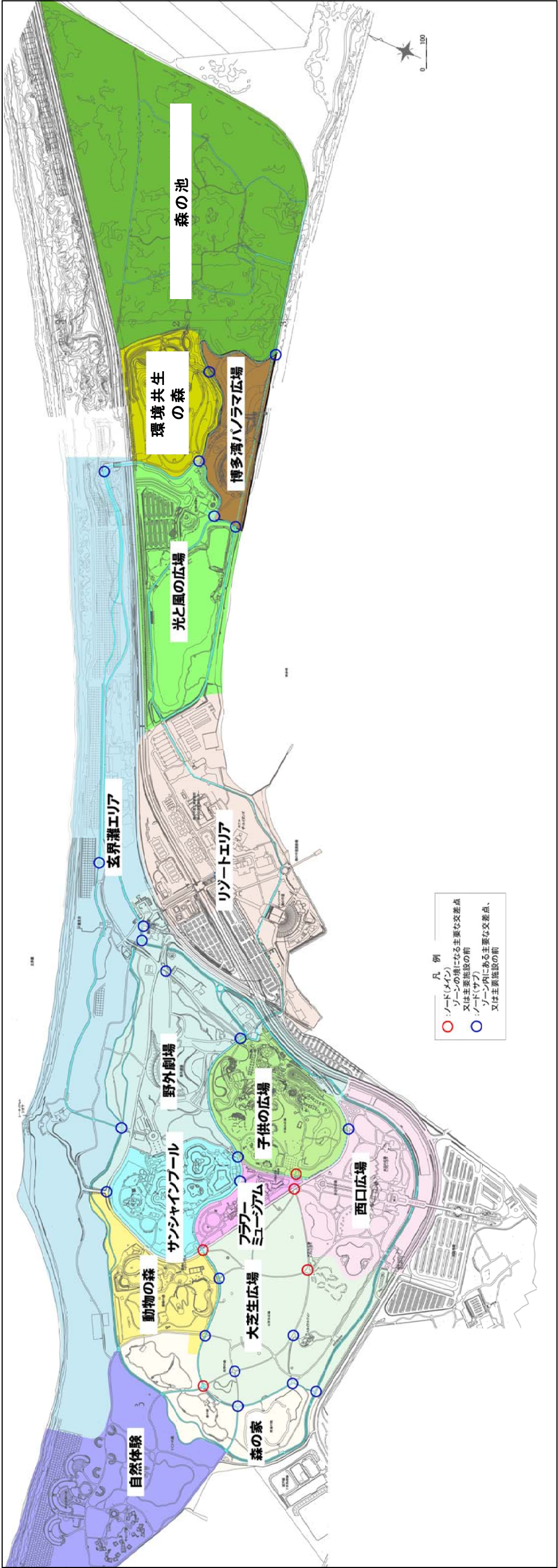


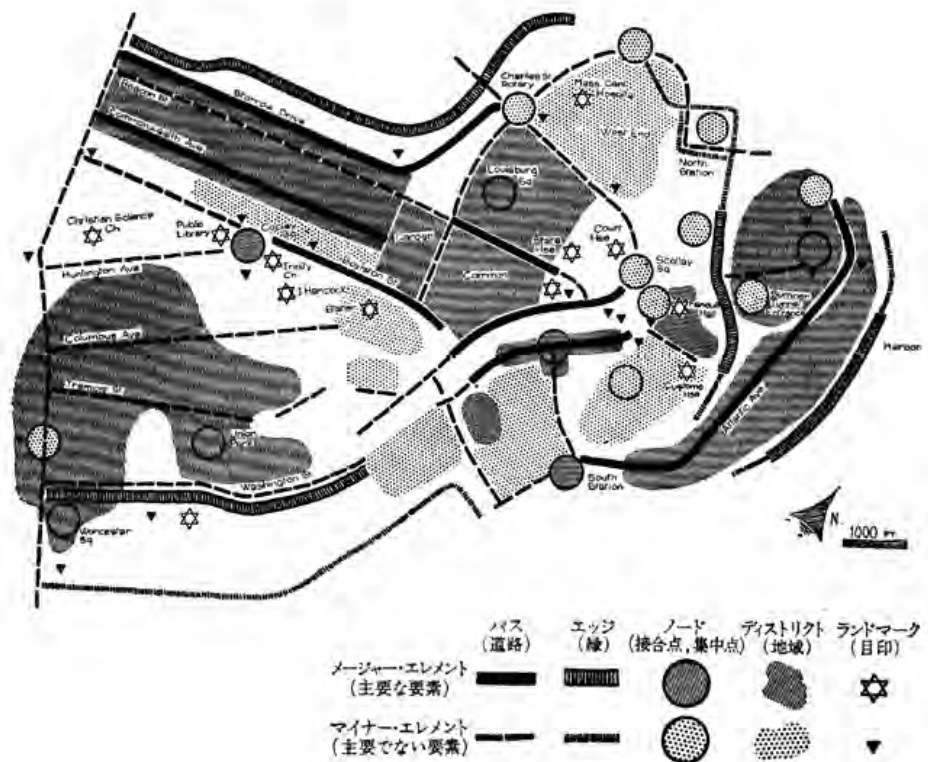
図-4.1.1.1 サイン計画の基本とする空間区分（エリア構成）

【解説】

公園の開園範囲の拡大、また公園施設の改修（新設・撤去等）に伴い、公園の空間構成が変化していることから、より詳細にしたエリア区分をサイン計画の基図とする。特に、子供の広場周辺の施設の改修及び環境共生の森の供用範囲の拡大など、公園利用の形態が変化したことを考慮した。平成30年度現在の施設状況等により設定したものであり、今後の公園整備において必要に応じて設定を見直すこととする。

【参考】ケヴィン・リンチの手法による空間認識

- ・公共空間のイメージを形成する手法の一つ。
- ・空間イメージによって、その空間の中で要領よく行動するとされる。
- ・視覚的形態によって区分する手法。



パス	人が通る道筋のこと。
エッジ	人がその線を越えては移動しないもの。(地形・景観など)
ディストリクト	共通する特徴が見られる比較的大きな領域。(商店街、博多湾など)
ノード	パスとパスのつながり。(交差点、出入口、駅など)
ランドマーク	移動の目印になるもの。(山や塔など。同一空間にある必要はない。)

図－4.2.2 ボストンの視覚的形態図

5. 配置の考え方

5.1 各サインの設置の考え方

○本マニュアルで規定する各サインの設置の考え方は、表-5.1.1のとおりとする。

表-5.1.1 各サインの設置の考え方

コード	サイン種別	設置の考え方（設置場所）	役割
A1	全体案内サイン	パークエリアはゲートの前後、リゾートエリアはメインのノード（※利用者が公園へ入ったと認識される場所）	・公園の全体像の把握 ・現在地の把握
A2	地区案内サイン	主要な空間、主要な園路交差部、主要施設の近傍	・現在地の把握 ・現在地周辺の施設状況の把握 ・主要な施設への園路方向の把握 ・ゲート情報の把握
B1	歩行者誘導サイン	A2 サインではカバーできない、または分かりにくい園路交差部（メインとなるノード）	・現在地周辺の施設状況の把握 ・主要な施設への園路方向の把握 ・ゲート情報の把握
C1	自転車誘導サイン	サイクリングコース脇。サイクリングコースの複雑な分岐点	・サイクリングコース上の主要な施設方向の把握 ・ゲート情報の把握
C2	自転車誘導サイン （ラウンドアバウト）	サイクリングコースのロータリー部	・サイクリングコースのロータリーの方向の把握
D1	駐車場内誘導サイン	場内の通行帯付近	・現在地の把握 ・ゲート情報の把握 ・出口の案内
E1	記名サイン（自立型）	スロープや駐輪場など、その施設の直近	・施設情報の把握
E2	記名サイン （壁面設置型）	トイレや授乳室など、その施設の壁面	
F1	催事情報サイン （常設型）	ゲートの近傍	・イベント情報の案内
F2	催事誘導サイン （仮設型）【参考】	各ゲートならびにイベント等の会場や施設へと誘導する園路	
F3	催事案内サイン （仮設型）【参考】	各ゲートならびにイベント等の会場や施設へと誘導する園路	
G1	規制・警告サイン （自立型）	恒久的な規制が必要な場所	・注意、禁止事項の発信
G2	規制・警告・誘導サイン （移動型）	一時的または利用上設置が必要な場所	

5.2 各サインについての考え方

5.2.1 A1：全体案内サインの配置

- A1 サイン（全体案内サイン）は、パークエリアは各ゲートの前後に設置する。
- リゾートエリアは主要園路の交差部に設置する。
- 提供する情報（公園マップ）は、公園ガイドと連動させる。

【解説】

A1 サイン（全体案内サイン）は、公園利用者が公園の全体像の把握、現在地の確認、目的地の選定及び確認を行うために、各入場口（ゲート）の前後に設置するものである。また入場口がないリゾートエリアについては、メインとなるノード（園路の交差部）に設置するものである。提供する情報は、公園ガイドと連動させる。



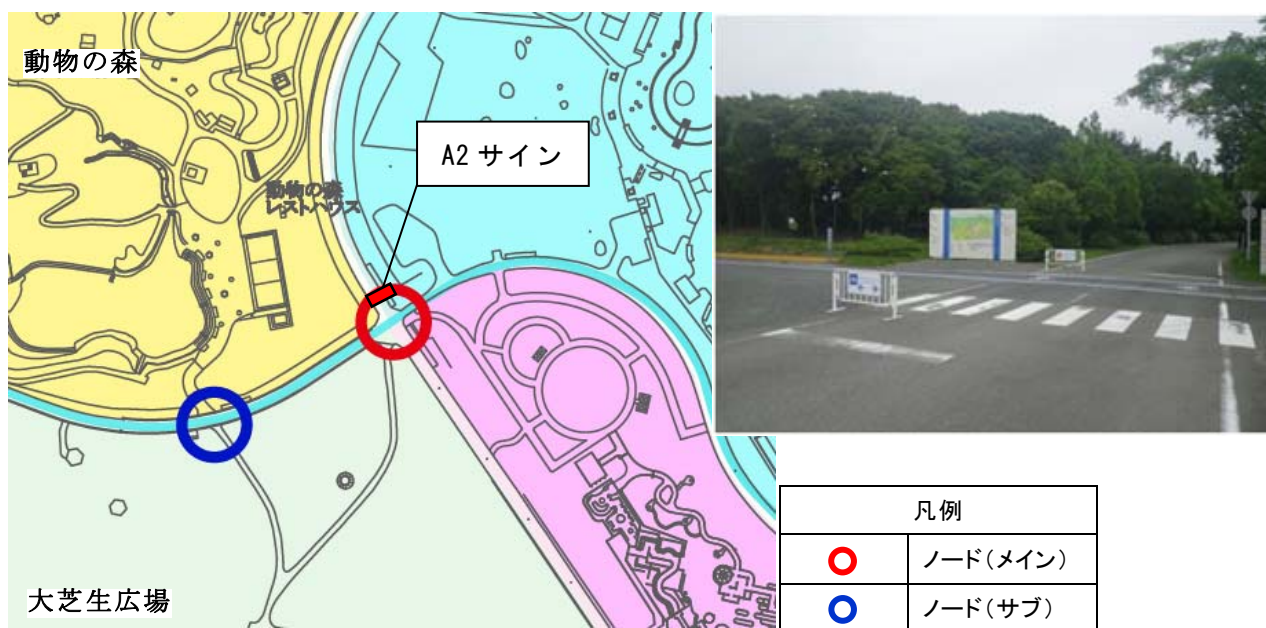
図ー5.2.1 西口のA1サインの設置状況

5.2.2 A2：地区案内サインの配置

- A2 サイン（地区案内サイン）は、エリア区分におけるエリアの接点に位置する主要園路の交差部（ノード）に設置する。
- 提供する情報は、マップ面は公園ガイドと連動させることとし、袖部にはゲート情報及び各エリアの園路方向を表示する。

【解説】

A2 サイン(地区案内サイン)は、公園利用者が各入場口から目的に向かう途中で、現在地の確認、現在地周辺の状況の確認、目的地の選定・確認を行うために、パークエリアの主要なノード（エリアの接点で園路の主要交差部）に設置する。提供する情報は、公園マップは、公園ガイドと連動させ、袖部には入出口、エリアの園路方向を示す。



図ー5.2.2 動物の森付近A2サインの設置例

5.2.3 B1：歩行者誘導サインの配置

○B1 サイン（歩行者誘導サイン）は、エリア区分におけるエリアの接点で園路の主要交差部（サブノード）に設置する。

○提供する情報は、ゲート情報及び現在地のエリア周辺の主要施設の園路方向を表示する。

【解説】

B1 サイン（歩行者誘導サイン）は、歩行での公園利用者が目的に向かう途中で通過する園路の交差部で、現在地周辺の状況の確認、目的地の園路方向の確認を行うために、サブとなるノード（エリアの接点で園路の主要交差部）に設置するものである。提供する情報は、各入出場口やエリア周辺の主要施設の園路方向を示す。



図－5.2.3 B1 サインの設置例

5.2.4 C：自転車誘導サインの配置

○C1 サイン（自転車誘導サイン）は、サイクリングコース上の主要な分岐点に設置する。

○C2 サイン（自転車誘導サイン：ラウンドアバウト）は、サイクリングコースに設置されているラウンドアバウト（ロータリー部）に設置する。

【解説】

C サイン（自転車誘導サイン）は、サイクリングコース上で自転車利用者が目的に向かう途中で通過する園路の交差部で、目的地の園路方向の確認を行うために、サブとなるノード（エリアの接点でサイクリングコースの主要交差部）に設置するものである。提供する情報は、各入出場口やエリア周辺の主要施設の園路方向を示す。



図ー5.2.4 C1 サインの設置例

【参考】自転車誘導サイン（C2：ラウンドアバウト）の設置位置

- ①サイクリングコースの視認性を確認
- ②樹木伐採等の視界確保
- ③新たな規格の自転車用サイン（C2）、路面標示等、円滑に判断・移動できるための工夫

【解説】

公園のサイクリングコースには、自転車の円滑な移動ができるようラウンドアバウト（ロータリー）が数か所設置されている。通常の交差点と異なり、円を周回しながら分岐することとなるため、曲がる方向と目的地の方角が合致しないこともあり、サインの重要性が高い場所の一つである。また、一般の道路には自転車のラウンドアバウトが少なく、公園利用者が慣れていないことも考えられる。

そのため、遠方からも目視可能な箇所にC2サインを設置し、先にラウンドアバウトがあることを案内することが有効と考えられる。また、自転車移動の特性上、対向車の有無、園路の方向、路面標示など多くのものが視界に入るため、サインを見て一瞬で理解することは難しい。

そこで、ラウンドアバウトにサインを設置する場合は、サイクリングコースの視認性を確認した上で、樹木伐採等の視界確保、路面標示等、円滑に判断・移動できるための工夫が必要である。



参考－ラウンドアバウトのサインの設置位置の検討（例）

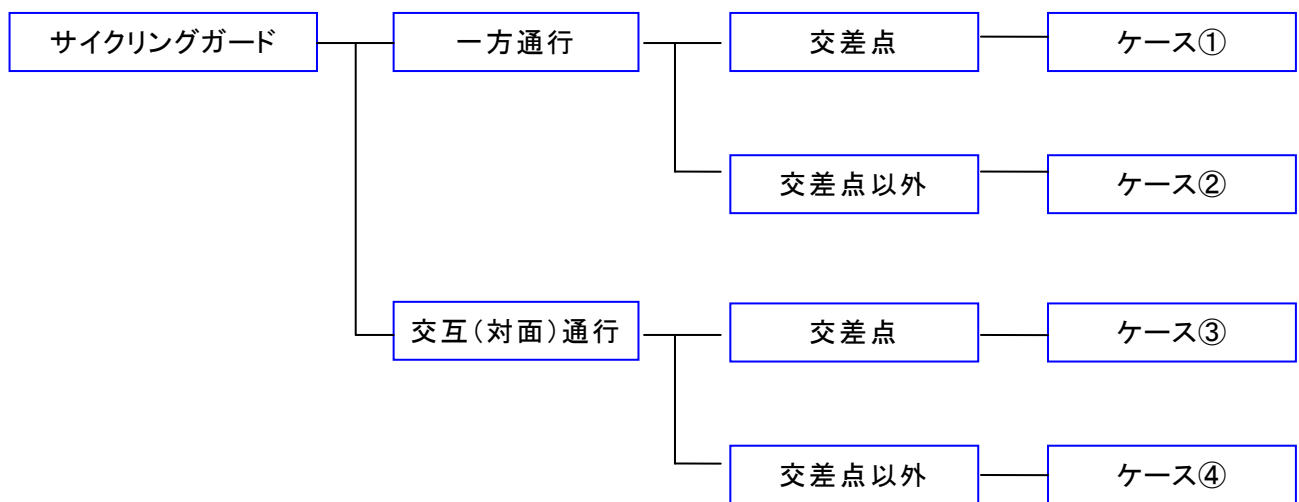
【参考】自転車道路面表示サインの設置

- ①「安全で快適な自転車環境創出ガイドライン」に基づく路面表示サインの対応。
- ②自転車道における事故防止、自転車利用者の意識づけ。

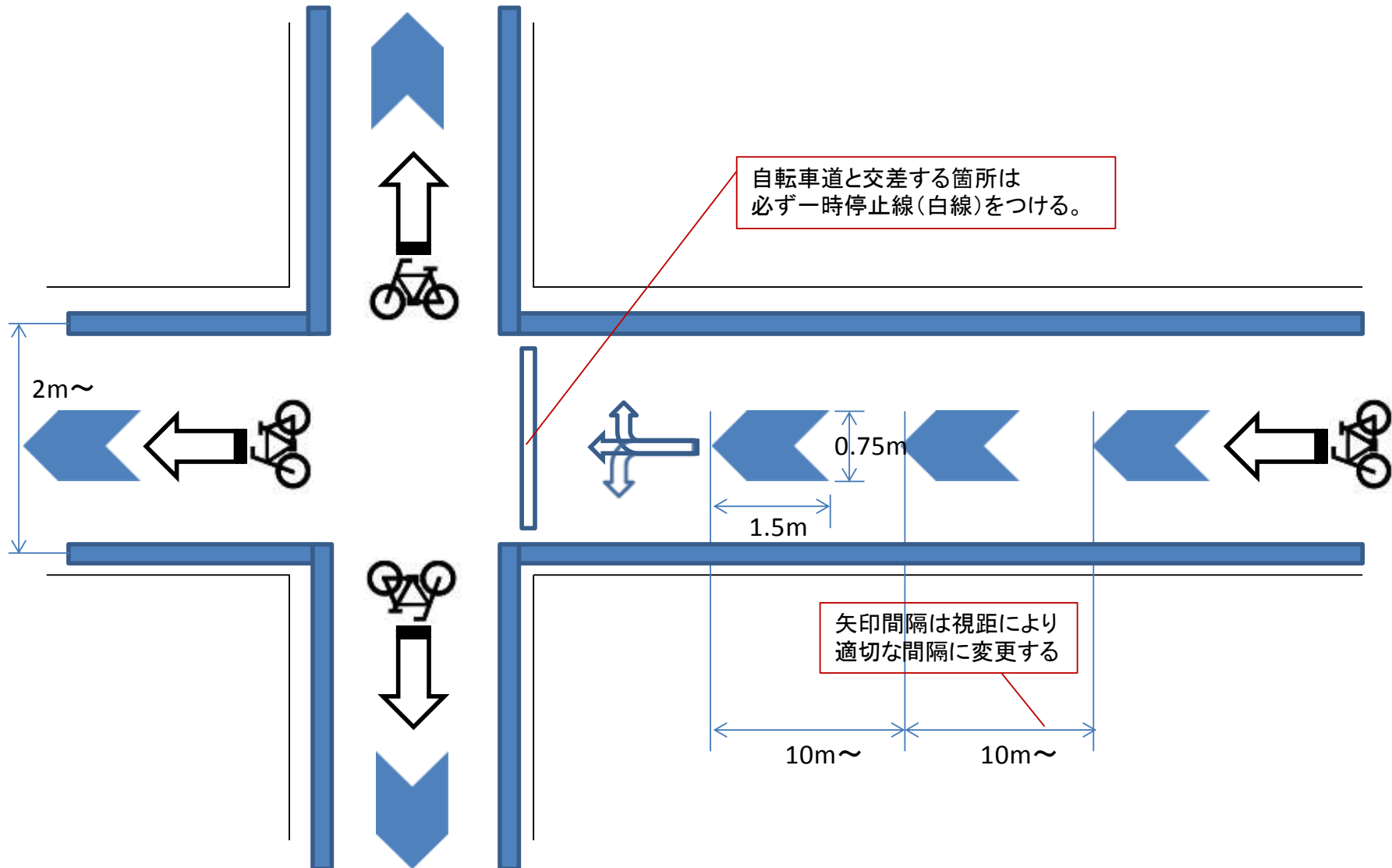
【解説】

「安全で快適な自転車環境創出ガイドライン」の一部改訂（平成 28 年 7 月）に基づき。今後路面塗装の改装に合わせて、路面表示の設置を行うものとする。

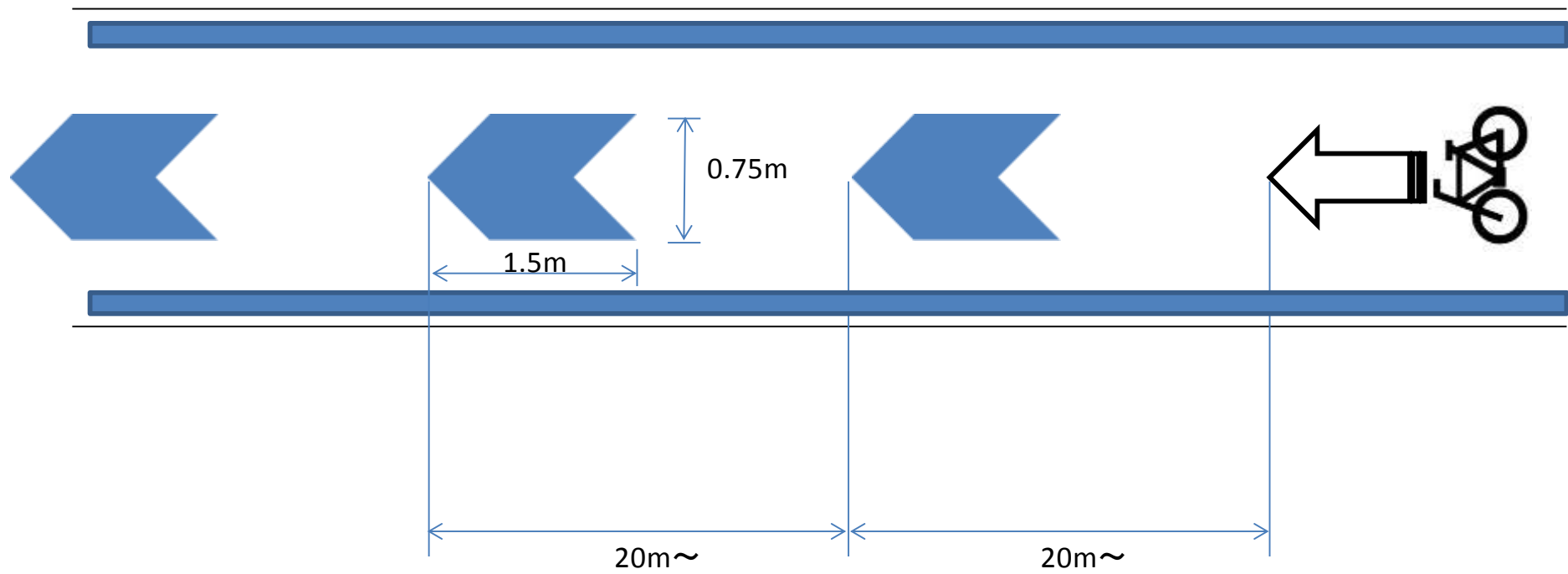
尚、設置パターンは以下のとおりとするが、表示の設置間隔等詳細については試行などを行い決定する。



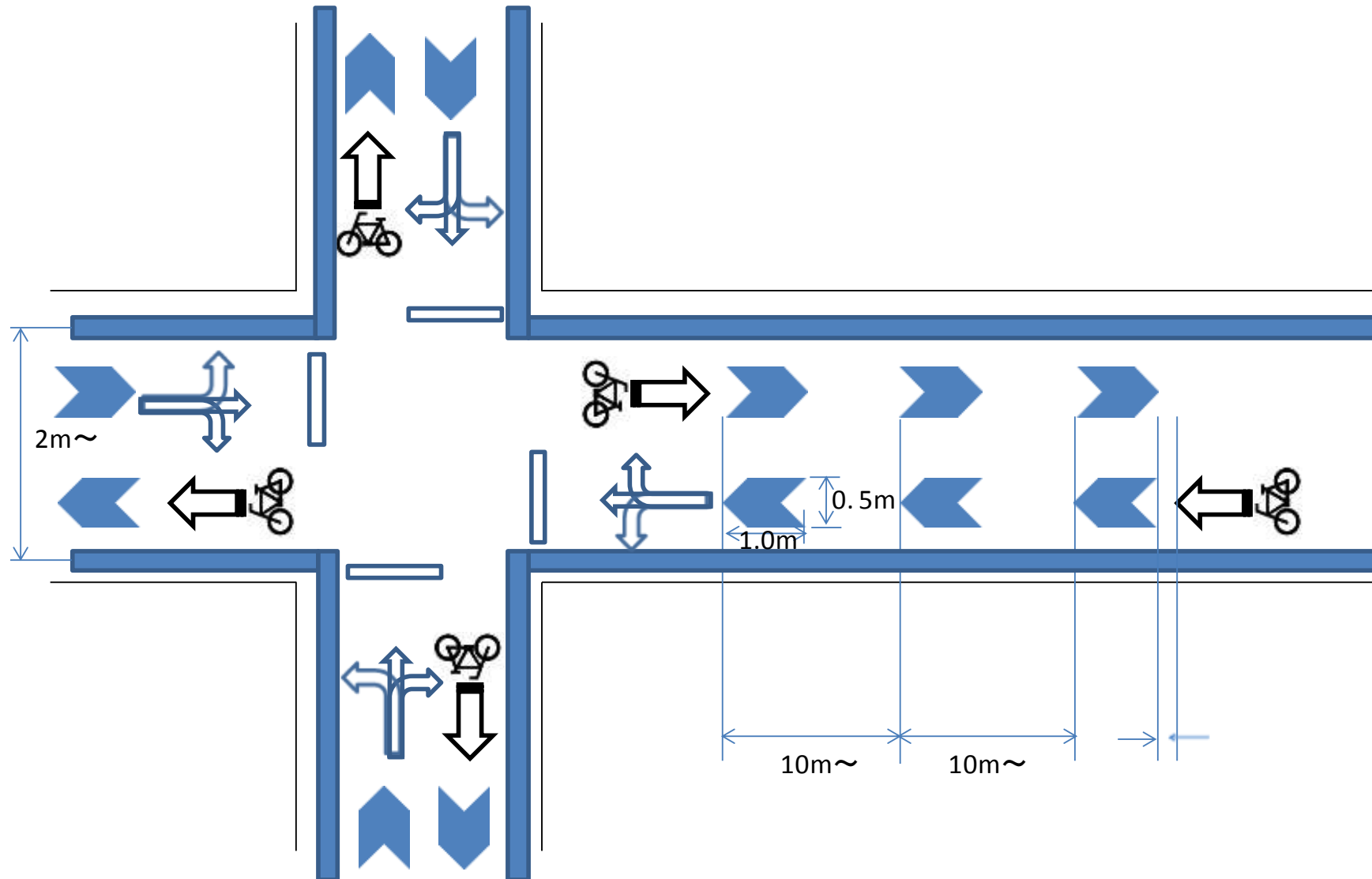
ケース① 一方通行・交差点付近



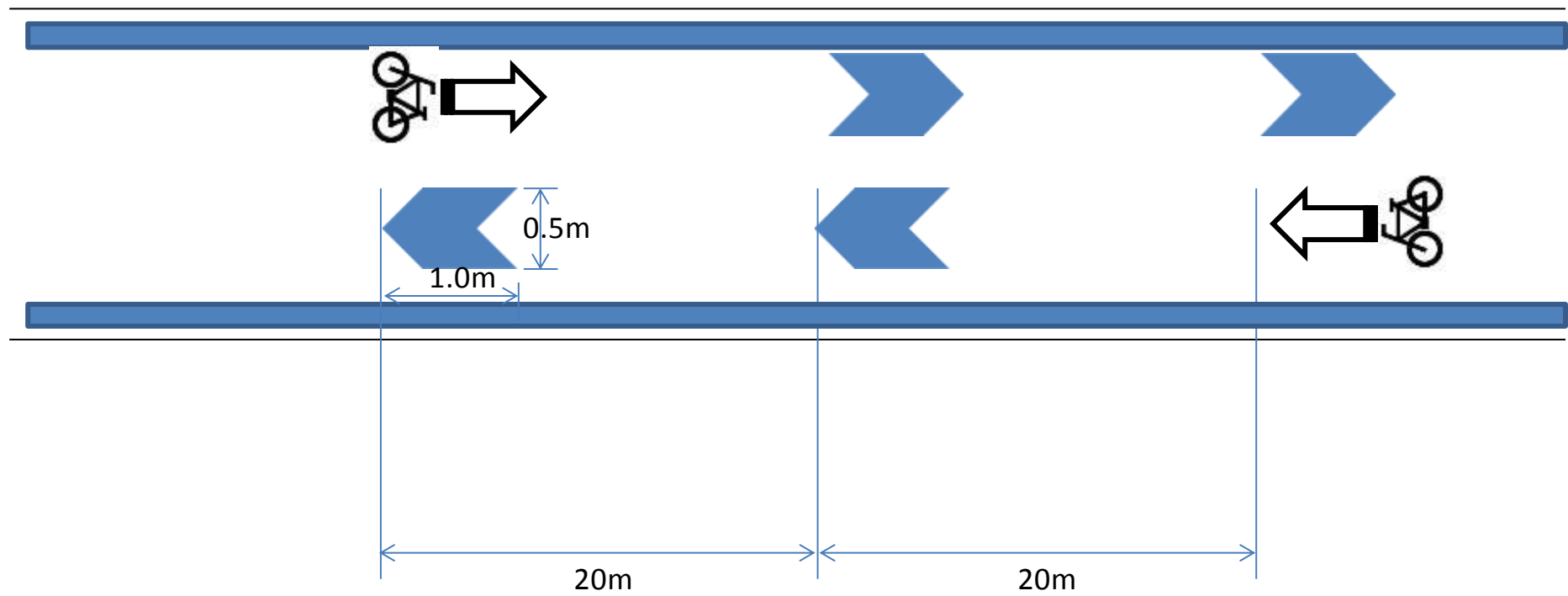
ケース② 一方通行・交差点以外



ケース③ 交互通行・交差点付近

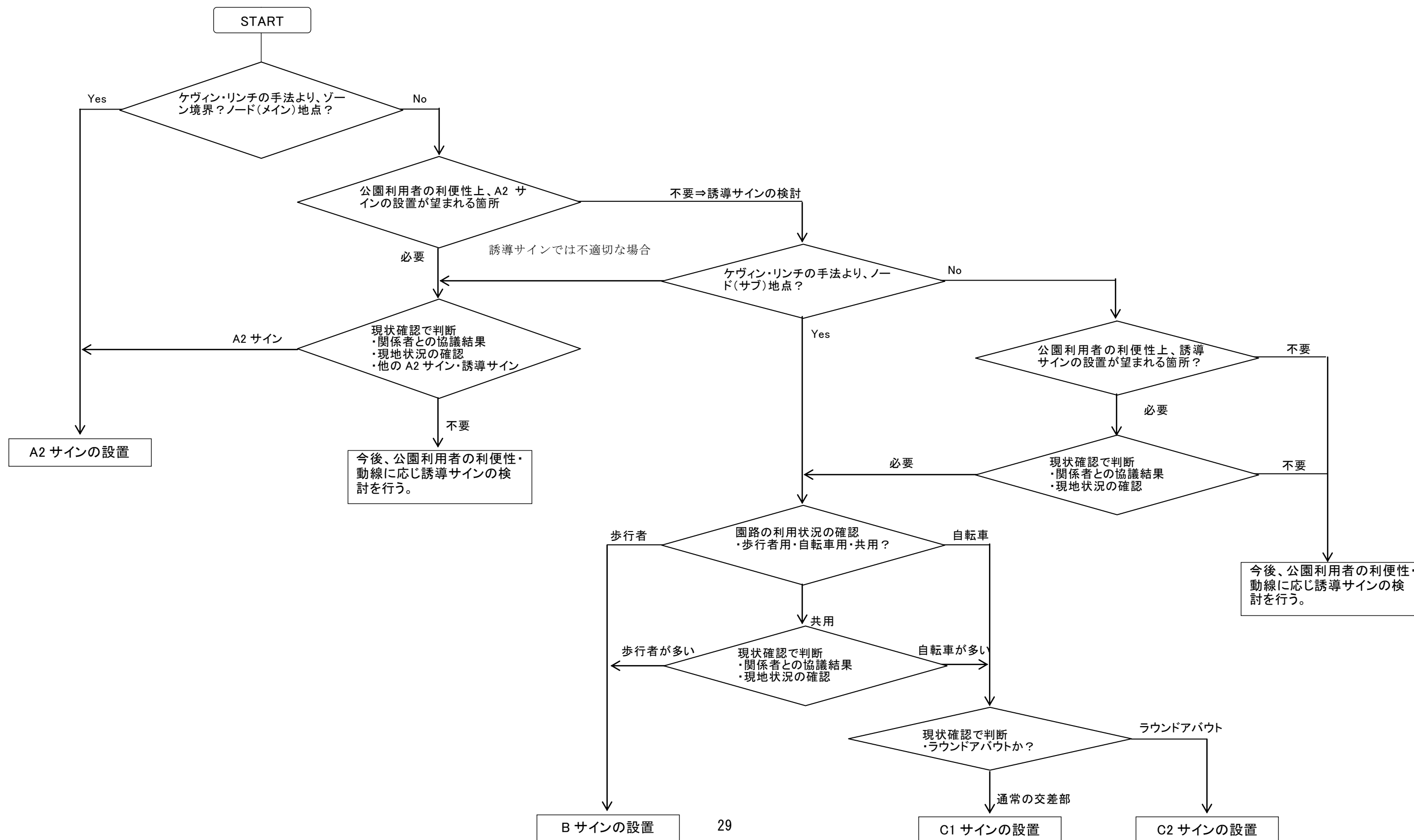


ケース④ 交互通行・交差点以外



5.2.5 A2・B・Cサインの設置フロー

- 地区案内サイン（A2）と誘導サイン（B・C）は下図のフローに基づき設置するサインの種別を判断する。
- 現地条件と照らし、下図のフローに合致しない場合は、関係者間で協議の上、判断する。



5.3 サインの視距と表記文字のサイズ

- 公園サインについては、必要な視距を確保すること。
- 必要な視距を確保するために、周囲の樹木の下枝刈や伐採等を適宜実施すること。
- 視距に適応した文字サイズを使用すること

【解説】

公園で使用する案内サインや誘導サインについては、エリアの境界に位置する主要な交差点に設置されることから、サイン自体が認識されることが重要である。

そのため、設置にあたっては、主要園路から認識できるか、樹木等により視界が遮られていないか等を確認した上で、視距を確保する必要がある。必要に応じて、樹木の下枝刈や伐採等を行うことが重要である。

また、サインの特性や視距に応じて、表示する文字等の見易さを確保する必要がある。

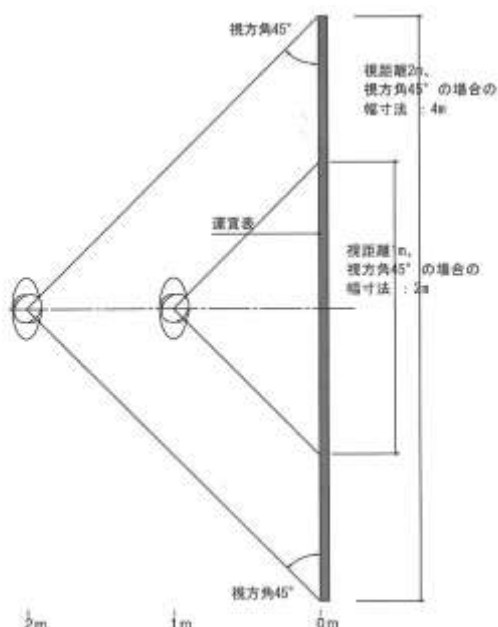
5.3.1 マップ面における文字の大きさの設定

①マップ表示の視距

○マップ面を有する全体案内サイン（A1）及び地区案内サイン（A2）の表示文字は、視距 1m 以上を確保する。

【解説】

全体案内サイン（A1）のマップ面の横幅は 3.6m、地区案内サイン（A2）のマップ面の横幅は 2.4m であるため、マップ面全体を見渡すためには、盤面から 1.2m（A2）～1.8m（A1）程度、離れた位置から見るることとなる。



図－5.3.1 水平方向の視方角の限界（移動円滑化ガイドライン）

公園のマップ面は情報量が多いため、主要施設の表示については、盤面の文字を視認できる大きさを確保することとする。施設の詳細等については、盤面に近づくことで視認できると考えられるが視距 1m 以上のサイズを確保することとする。

表－5.3.1 マップ面に用いる文字の大きさ

カテゴリー	和文字高さ	視認できる視距	備考
エリア名・主要施設	20mm 以上	5m	レベル 1～3 については、P40、41 を参照
レベル 1 施設	15 mm 以上	3m	
レベル 2～3 施設	10 mm 以上	1m	

※マップ面については、版面サイズの関係上、外国語表記を入れることで煩雑になるため、また、外国語版公園ガイドと照合すれば理解できるため、外国語表記を入れないこととする。

5.3.2 誘導サインにおける文字等の大きさの設定

①地区案内サイン（A2）袖部、歩行者誘導サイン（B1）

○地区案内サイン（A2）袖部、歩行者用誘導サイン（B1）の表示文字は視距 5m 以上を確保する。

【解説】

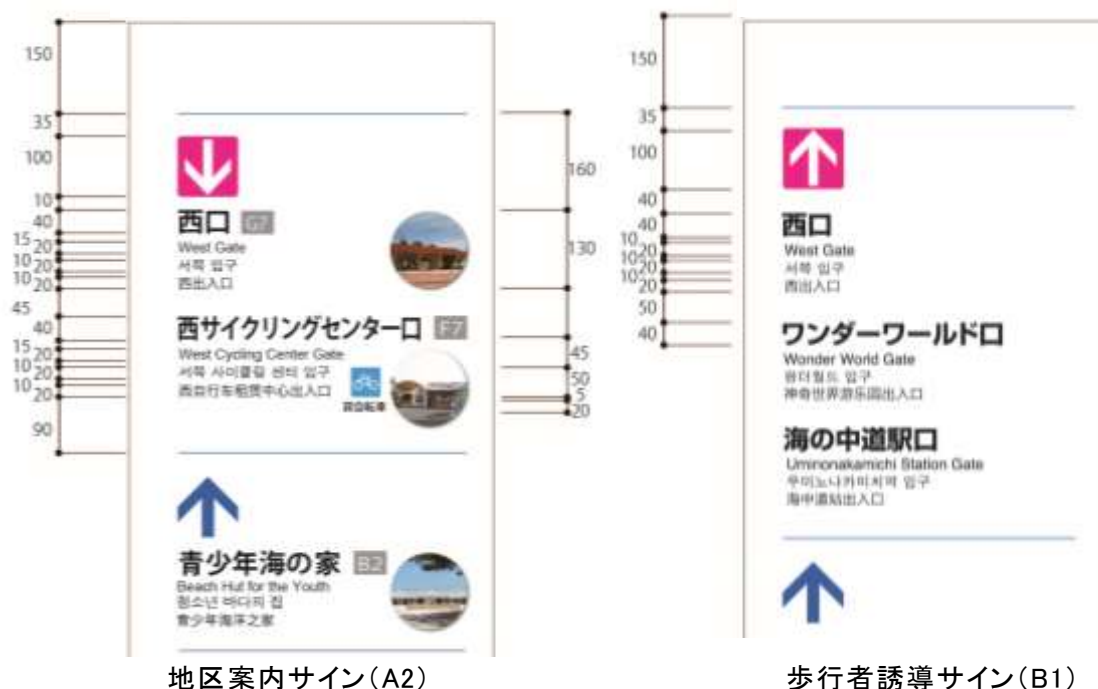
地区案内サイン（A2）はサインの直近で見られると考えられるが、マップ面に人がいた場合は、少し離れた位置から見るものと想定する。また、歩行者誘導サインも同様に、サインを目にしてある程度近づいた段階で、園路方向が判断できるように、概ね 5m 以上の視距を確保することとする。そのため、表示する文字等の大きさを以下のとおり設定する。

表－5.3.1① 地区案内サイン（A2）及び歩行者誘導サイン（B1）の表示の大きさ

区分	文字・表示高さ	視認可能な視距
矢印	100 mm	8m
和文	40 mm	10m
英語、中国語、韓国語	20 mm	7.5m
ピクトグラム	40 mm	3m

注 1）上記のサイズを基本とするが、盤面に表示する情報量に応じて、微調整できることとする。

注 2）外国語表記は、道路標識の基準に基づき、和文の 1／2 の大きさとしており、設定する視距では十分視認できる大きさである。



図－5.3.1① 地区案内サイン（A2）及び歩行者誘導サイン（B1）の表示例

②自転車誘導サイン（C1、C2）

○自転車誘導サイン（C1、C2）の表示文字は、視距 10m 以上を確保する。

【解説】

自転車誘導サイン（C1、C2）は、歩行者誘導サインと異なり、移動しながら視認することが前提となる。公園内のサイクリングコースは、貸自転車の自転車であればそれほど速度が出ることは想定しにくいため、A 種の自転車道と同等と想定し、設計速度を 15 km/h と設定すると、必要な視距は 7m と設定される（自転車道等の設計基準解説）。

当公園においては、サイクリングコース沿いの木々により視界が限定されること、一部複雑なコースがあること等を考慮し、必要な視距を 10m と設定する。自転車誘導サインにおいては、移動時に判断できることを重視し、情報量を最小限にし、外国語表記は英語のみとする。

表－5.3.1② 自転車誘導サイン（C1、C2）の表示の大きさ

区分	文字・表示高さ	視認可能な視距
矢印	180 mm	15m
和文	80 mm	20m
英語	40 mm	15m

注 1）上記のサイズを基本とするが、盤面に表示する情報量に応じて、微調整できることとする。

注 2）外国語表記は、道路標識の基準に基づき、和文の 1／2 の大きさとしており、設定する視距では十分視認できる大きさである。



自転車誘導サイン（C1）

自転車誘導サイン（C2:ラウンドアバウト）

図－5.3.1② 自転車誘導サイン（C1、C2）の表示例

③自転車路面表示サイン

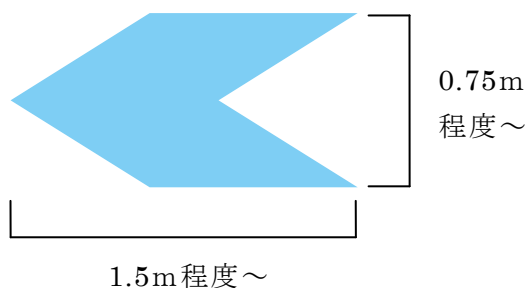
○自転車ルート of 路面表示サイン of 表示は、以下を基本とし、今後、現地の状況を踏まえて試行等により確認を行いつつ設置する。

【解説】

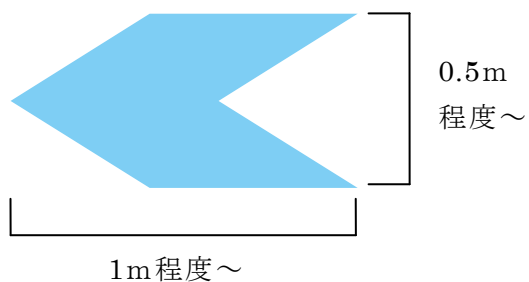
「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に基づく自転車ルート of 路面表示サインは、ガイドラインに基づいて以下の表示内容とする。

但し、現況状況を踏まえ、適宜調整を図り設置する。

【一方通行】



【交互通行】



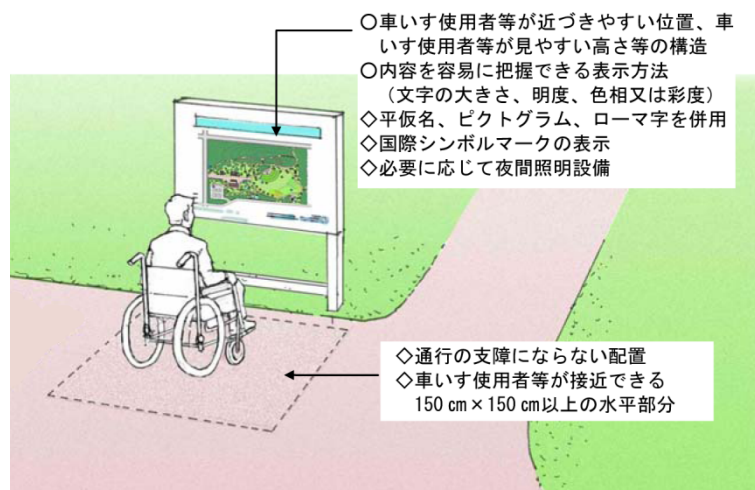
5.4 設置にあたっての配慮事項

5.4.1 表示スペース

○サインの設置にあたっては、ユニバーサルデザインの原則に考慮し、健常者や車いす使用者が近づきやすい位置、車いす使用者が見やすい高さ等の構造とする。

【解説】

全体案内サイン（A1）、地区案内サイン（A2）においては、車いす使用者が容易に接近できるよう、表示面の方向に 150cm×150cm 以上の水平部分を園路動線に支障のないように設けることとする。



図－5.4.1 表示スペースの確保（移動円滑化ガイドラインより）

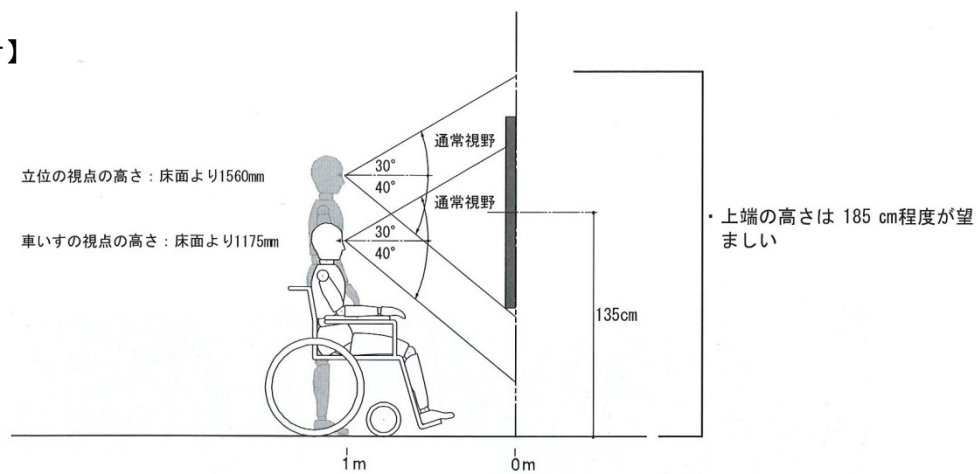
5.4.2 表示高さの配慮

○案内サイン、誘導サイン、記名サインについては、車椅子利用者にも配慮した表示高さとする。

【解説】

近くから視認する案内サインの場合 4～5m 以下に視距離を設定し、表示高さの上端を 240cm、下端を 20cm 程度と設定する。また、サインが園路に突出しないように設置し、突出する場合は柵などを設置することとする。

【参考】



図－5.4.2 視距離 1m の場合の垂直方向の視野限界

(『みんなのための公園づくり』 社団法人日本公園緑地協会 2008.2)

5.4.3 勾配・階段を示すピクトグラムの配置

○施設を示すピクトグラムとは別に、移動円滑性を示すピクトグラムを表示したサインを必要に応じて追加する。

【解説】

階段や急な坂道周辺、また、どうしても遠方の施設を表示する場合には距離などを表示することも重要である。

対象となる園路は、動物の森展望台周辺、子どものとりで周辺、野外劇場西側、スカイシェルター東側、冒険の池の橋などがある。

○階段



○傾斜路



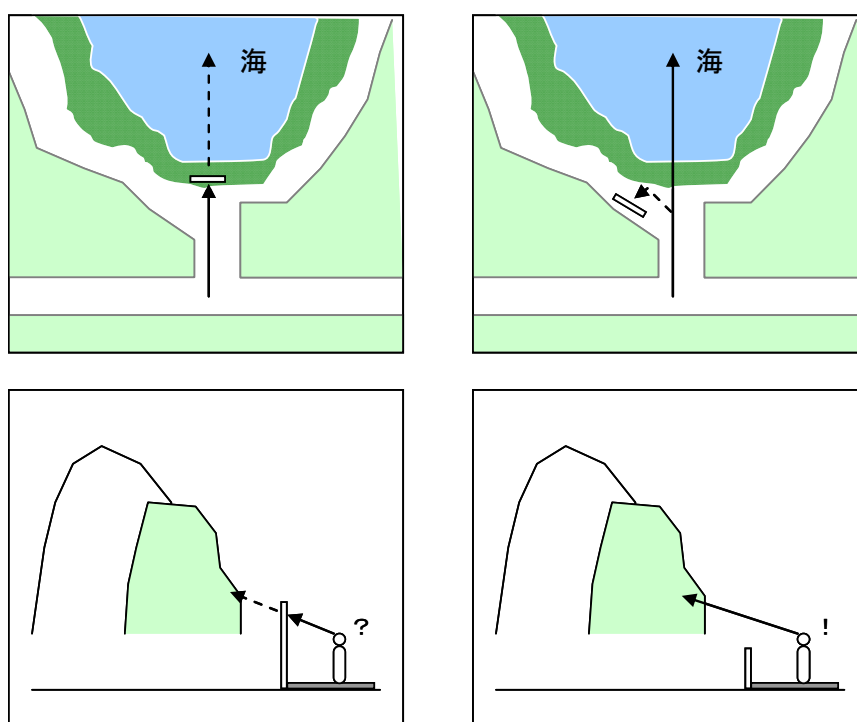
図－5.4.3 階段・勾配の表示例

5.4.4 公園の眺望への配慮

○サインの設置位置の選定にあたっては、周囲景観や利用者の動向を確認し、眺望や景観への阻害とならないよう配慮する。

【解説】

特に当公園のビューポイントとなっている海の松原周辺などにおいては、眺望をさえぎらないようにサインを設置することが望ましい。



図ー5.4.4 眺望を確保するためのサインの配慮例

5.4.5 案内サイン（A1、A2）の設置向き

○公園ガイドのマップと連動させる必要がある、案内サイン（A1、A2）については、公園ガイドのマップ面の向きと整合を図るため、北北西が上になるように設置する。

【解説】

利用者の多くがゲートで手にすると考えられる公園ガイドは、公園マップが示されており、公園マップは北北西が上になるように描かれている。そのため、公園ガイドのマップと連動させる必要がある案内サインについては、設置する際、マップの向きを考慮して設置することが望ましい。



図－5.4.5 案内サインの設置向き

5.4.6 公園との調和・維持管理への配慮

○サイン設置箇所の地表面について、公園景観との調和、見易さの確保、維持管理の観点から、舗装または石張り等の工夫を行う。

【解説】

サインの設置にあたっては、一体的な公園整備や景観との調和の観点から、公園や周辺施設との調和が必要である。そのため、サインの基礎コンクリートがむき出しになり、コンクリート面が目立つ場合などは、敷石や洗い出し等の工夫を加えることが望ましい。その際、ユニバーサルデザインの観点から、1m程度までは近づけるようにしておく必要がある。



図－5.4.6 基礎部の工夫のイメージ

また、サインの基礎部周辺は、草が生えにくいように考慮することも重要である。サインの基礎部周辺に草が繁茂すると、草刈の際、サインに傷が生じたり、十分に草刈できないこともあるため、維持管理を考慮し、基礎を地表面に合わせることを基本とする。



図－5.4.7 サインの基礎部に繁茂する草でサインが見えづらくなっている例

6. 表記する施設名称

○サインに表記する公園施設については、サインの種別に応じて、施設の序列を考慮し、表示する。

【解説】

公園サインにおいて表記する施設名は、HPや公園ガイド（地図表記、地図写真、おすすめ（ガイドに紹介してある施設））等を基本として、ヒエラルキー（優先順位）を設定し、サインの種別に応じて表記内容を設定する。

6.1 マップ面における施設名称の表記方法

6.1.1 マップ面を使用するサイン

マップ面を有するサインは、全体案内サイン（A1）と地区案内サイン（A2）の2種類となる。

全体案内サイン（A1）については、公園の全体像を把握しながら、目的地を選定・確認することを目的としている。そのため、公園全体のマップ面を表示することが必要となる。

地区案内サイン（A2）については、各入出場口から目的地に向かう途中で、現在地の把握、目的地の確認等を行うことを目的としており、マップ面は限定的な範囲を示すものとなる。

■全体案内サイン （A1）



■地区案内サイン （A2）



図－6.1.1 全体案内サイン（A1）と地区案内サイン（A2）

6.1.2 公園ガイドとの連動

全体案内サイン（A1）及び地区案内サイン（A2）は、手元にある公園ガイドと連動させることで、公園利用者が自分自身で目的地をガイドするセルフガイドを促進させることとなる。

そのため、公園ガイドのマップ面とサインのマップ面は同一のものを使用することとする。

また、開園範囲の変更や施設の改修等により、マップ面の表示に変更が生じた場合は、公園ガイドの修正・変更と合わせて、可能な範囲でサインのマップ面の表示についても修正・変更を行うことが望ましい。

6.1.3 マップ面に表示する施設一覧

① レベル別表示施設

全体案内サイン（A1）及び地区案内サイン（A2）に表示する施設については公園ガイドと連動させることを前提とするが、以下に示す施設を表示することとする。

表－6.1.1① マップ面に表示する施設一覧

No.	エリア名 【主要な施設名】	施設名	
		レベル1施設	レベル2施設
1	動物の森	動物の森	
— 2		動物の森（正門）	
— 3		動物の森（北門）	
— 4		動物の森（東門）	
— 5			ふれあい動物舎
— 6			水鳥の池
— 7		動物の森レストハウス	
2	サンシャインプール	サンシャインプール	
— 2			プール管理棟
3	フラワーミュージアム	フラワーミュージアム	
— 2		バラ園	
— 3			花時計
4	大芝生広場	大芝生広場	
— 2		スカイドルフィン	
— 3			パターゴルフ場
— 4		花の丘	
— 5			四季の森
— 6		大芝生広場レストハウス	
5	子供の広場	子供の広場	
— 2		花栈敷	
— 3			シンフォニーガーデン
— 4			子供のとりで
— 5			森のトリム
— 6			水辺のトリム
— 7			遊べる噴水
— 8			芝生広場
— 9			冒険の池
— 10		ワンダーワールド	
— 11			ゴーカート
— 12			日本の名車歴史館
— 13		ワンダーシャトル（レストラン）	
— 14		くじらぐも“ふわんボリン”	
— 15			子供の広場管理棟
— 16		インフォメーション	
— 17		ちびっこ広場	
— 18			じゃぶじゃぶ池

表－6.1.1② マップ面に表示する施設一覧

No.	エリア名 【主要な施設名】	施設名	
		レベル1施設	レベル2施設
6	1 野外劇場	野外劇場	
	2	あじさいの小径	
7	1 リゾートエリア	マリンワールド海の中道	
	2	ホテル ザ・ルイガンズ	
	3	海の中道マリーナ&テニス	
	4		テニスコート
	5		港レストハウス
	6	海の中道渡船場	
	7	管理センター	
8	1 玄界灘エリア	潮見台	
	2	シーサイドヒルシオヤ	
	3	海の松原	
	4	うみなかみらい橋	
9	1 森の家	森の家	
	2		野鳥の池
	3		いこいの森
10	1 青少年海の家	青少年海の家	
11	1 西口広場	スカイシェルター	
	2	カネール	
	3		西口管理棟
	4		虹の池
	5		虹の花壇
	6		彩りの池
	7		彩りの花壇
	8		おもちゃ箱花壇
	9		ワクワク池
	10		西戸崎レストハウス
	11	水辺の広場レストハウス	
12	1 光と風の広場	ドッグラン	
	2		ドッグラン管理棟
	3		カモ池
	4		光と風の広場
	5	デイキャンプ場	
	6		光と風の広場管理棟(デイキャンプ受付)
	7	博多湾パノラマ広場	
13	1 環境共生の森	環境共生の森	
	2	みらいの森	
	3	里の家	
	4	展望デッキ	
	5		いのちの池
14	1 森の池	森の池	
	2	ビジター拠点	
	3	利活用拠点	

②ゲート表示

No.	エリア名 【主要な施設名】	施設名	
		レベル1施設	レベル2施設
ゲート 1	海の中道駅口	海の中道駅口	サイクリングセンター
ゲート 2	ワンダーワールド口	ワンダーワールド口	サイクリングセンター
ゲート 3	西口	西口	
ゲート 4	西サイクリングセンター口	西サイクリングセンター口	サイクリングセンター
ゲート 5	光と風の広場口	光と風の広場口	サイクリングセンター
		カモ池口	

③駐車場表示

No.	エリア名【主要な施設名】
ゲート 1	障がい者専用駐車場
ゲート 2	西駐車場A
ゲート 3	西駐車場B
ゲート 4	西駐車場C
ゲート 5	大型車駐車場
ゲート 6	ワンダーワールド口駐車場
ゲート 7	海の中道駅口駐車場
ゲート 8	マリンワールド駐車場
ゲート 9	光と風の広場駐車場

6.1.4 現在位置表示の考え方

全体案内サイン（A1）及び地区案内サイン（A2）には、より現在位置を詳細に認識できるように、現在位置の詳細表示を示すこととする。

①全体案内サイン（A1）の現在位置表示

全体案内サイン（A1）における現在位置表示は、現在位置及び周辺施設の詳細（ピクトグラム等）を表示するとともに、表示された園路の先にある主要な施設名を表記することとする。各入出場口の前後に設置することとなるため、駅や駐車場及び道路等も併せて表示することとする。



図－6.1.2①全体案内サインの現在位置表示（例）

②地区案内サイン（A2）の現在位置表示

地区案内サイン（A2）における現在位置表示は、現在位置及び周辺施設の詳細（ピクトグラム等）を表示するとともに、入出場口の方向、主要施設の方向等を表示することとする。



図－6.1.2②地区案内サイン（A2）現在位置表示（例）

6.2 誘導サインにおける施設名称の表記方法

6.2.1 誘導表示するサイン

誘導表示するサインは、地区案内サイン（A2）の袖部、歩行者誘導サイン（B1）、自転車誘導サイン（C1、C2）の4種類となる。

地区案内サイン（A2）については、各入出場口から目的地に向かう途中で、現在地の把握、目的地の確認等を行うことを目的としており、マップ面を見ながら、袖部の誘導表示で園路方向を確認するものである。

歩行者誘導サイン（B1）は、主要な交差点において、目的地となる施設や入出場口等の園路方向を示すものである。

自転車誘導サイン（C1）はサイクリングコースにおける主要な交差点、自転車誘導サイン（C2）はサイクリングコースに設置されているロータリー（ラウンドアバウト）部において、サイクリングコースに隣接する施設や入出場口等の方向を示すものである。

■地区案内サイン (A2)



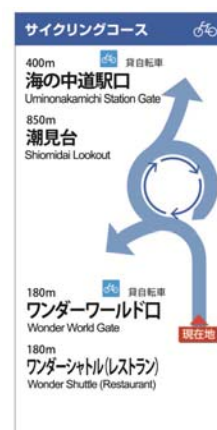
■歩行者誘導サイン (B1)



■自転車誘導サイン (C1)



(C2)



図－6.2.1 誘導サイン（A2 袖部、B1、C1、C2）

6.2.2 誘導表示する施設一覧

誘導表示を行う、地区案内サイン（A2）袖部、歩行者誘導サイン（B1）、自転車誘導サイン（C1・C2）はそれぞれ目的・役割が異なることから、それぞれのサインで表示内容は異なる。

誘導サインの共通表示としては、選定フローに基づき、公園利用者から問合せの多い入出口、主要施設を選定する。

①地区案内サイン（A2）袖部

地区案内サイン（A2）はマップ面を有するため、袖部で表示する施設は公園全体のエリアの園路方向を示し、施設群の大まかな方向を表示することが重要となる。そのため、袖部で表示する施設は、下表のエリア名を基本とする。

表－6.2.1① 地区案内サイン（A2）袖部で表示する施設一覧

No.	エリア名 【主要な施設名】	施設名	
		レベル1施設	レベル2施設
1	動物の森	動物の森	
2	サンシャインプール	サンシャインプール	
3	フラワーミュージアム	フラワーミュージアム	
4	大芝生広場	大芝生広場	
5	子供の広場	子供の広場	
7	リゾートエリア（マリンワールド海の中道）	マリンワールド海の中道	
9	森の家	森の家	
10	青少年海の家	青少年海の家	
12	光と風の広場		光と風の広場
13	環境共生の森	環境共生の森	
14	森の池	森の池	
ゲート 1	海の中道駅口	海の中道駅口	サイクリングセンター
ゲート 2	ワンダーワールド口	ワンダーワールド口	サイクリングセンター
ゲート 3	西口	西口	
ゲート 4	西サイクリングセンター口	西サイクリングセンター口	サイクリングセンター
ゲート 5	光と風の広場口	光と風の広場口	サイクリングセンター

②歩行者誘導サイン（B1）

歩行者誘導サイン（B1）は、主要な交差部（ノード）において現在位置（見ている位置）からの周辺施設の園路方向を示すものであるため、比較的近隣の主要施設からレベル1施設を表示する。

表－6.2.1② 歩行者誘導サイン（B1）表示する施設一覧

No.	エリア名 【主要な施設名】	施設名	
		レベル1施設	レベル2施設
1	動物の森	動物の森	
—	2	動物の森(正門)	
—	3	動物の森(東門)	
2	サンシャインプール	サンシャインプール	
3	フラワーミュージアム	フラワーミュージアム	
—	2	バラ園	
4	大芝生広場	大芝生広場	
—	2	スカイドルフィン	
—	3	花の丘	
—	4	大芝生広場レストハウス	
5	子供の広場	子供の広場	
—	2	花機敷	
—	3	ワンダーワールド	
—	4	ワンダーシャトル(レストラン)	
—	5	くじらぐも“ふわんボリン”	
—	6	インフォメーション	
—	7	ちびっこ広場	
6	野外劇場	野外劇場	
—	2	あじさいの小径	
8	玄界灘エリア	潮見台	
—	2	シーサイドヒルシオヤ	
—	3	海の松原	
—	4	うみなかみらい橋	
9	森の家	森の家	
11	西口広場	スカイシェルター	
—	2	カナル	
—	3	水辺の広場レストハウス	
ゲート	1 海の中道駅口	海の中道駅口	サイクリングセンター
ゲート	2 ワンダーワールド口	ワンダーワールド口	サイクリングセンター
ゲート	3 西サイクリングセンター口	西サイクリングセンター口	サイクリングセンター
ゲート	4 光と風の広場口	光と風の広場口	サイクリングセンター

③自転車誘導サイン (C1、C2)

自転車誘導サイン (C1、C2) は、サイクリングコースの主要な交差点やロータリー (ラウンドアバウト) 部に設置するものである。サイクリングコース上に設置するため、サイクリングコースに隣接するレベル1施設や進行方向にある入出場口等を表示する。

表-6.2.1③ 自転車誘導サイン (C1、C2) で表示する施設一覧

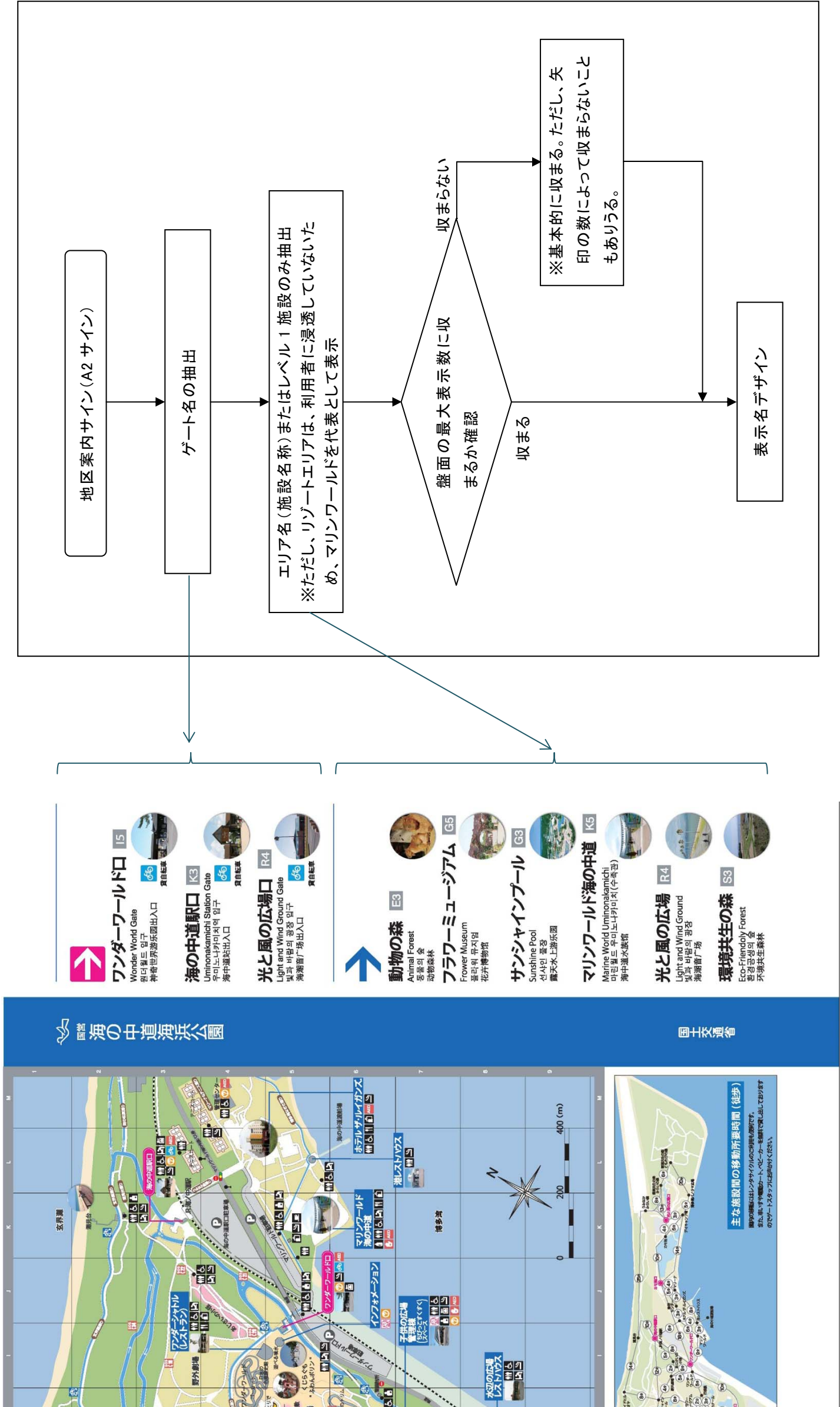
No.	エリア名 【主要な施設名】	施設名	
		レベル1施設	レベル2施設
1	動物の森	動物の森(正門)	
—	2	動物の森(北門)	
3	フラワーミュージアム	バラ園	
4	大芝生広場	スカイドルフィン	
5	子供の広場	ワンダーシャトル(レストラン)	
—	2	くじらぐも“ふわんボリン”	
7	リゾートエリア	マリンワールド海の中道	
8	玄界灘エリア	潮見台	
—	2	シーサイドヒルシオヤ	
—	3	海の松原	
—	4	うみなかみらい橋	
9	森の家	森の家	
12	光と風の広場	ドッグラン	
12	—	博多湾パノラマ広場	
13	環境共生の森	環境共生の森	
14	森の池	森の池	
—	2	ビジター拠点	
—	3	利活用拠点	
ゲート	1 海の中道駅口	海の中道駅口	サイクリングセンター
ゲート	2 ワンダーワールド口	ワンダーワールド口	サイクリングセンター
ゲート	3 西サイクリングセンター口	西サイクリングセンター口	サイクリングセンター
ゲート	4 光と風の広場口	光と風の広場口	サイクリングセンター
		カモ池口	

6.2.3 誘導表示に表記する施設の考え方

誘導表示を行う、地区案内サイン（A2）袖部、歩行者誘導サイン（B1）、自転車誘導サイン（C1・C2）に表記する施設の選定は、以下に示すフローに基づき選定することとする。

①地区案内サイン（A2）袖部

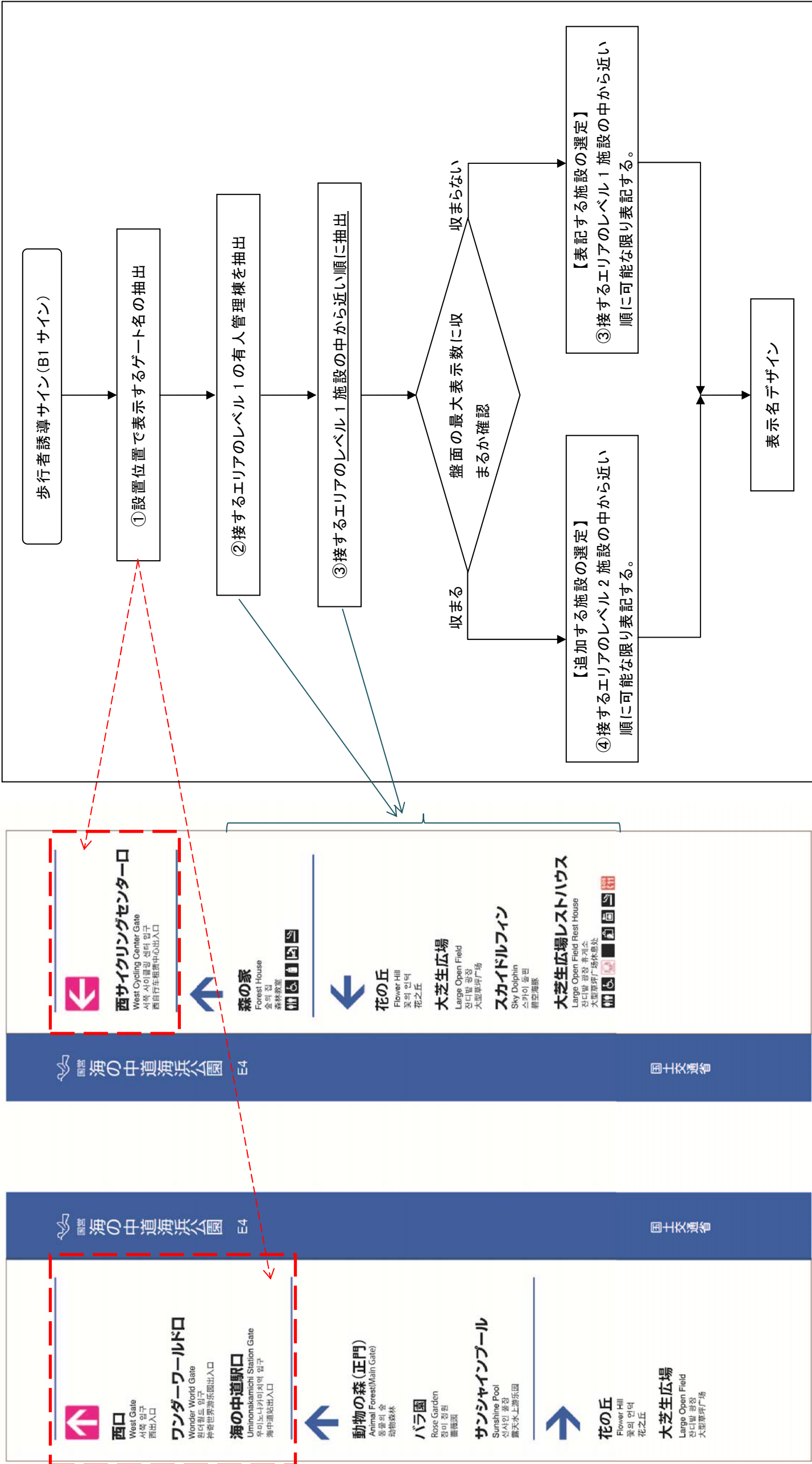
表記する施設名称は、公園の主要施設であり、全地点共通とする。また、盤面の大きさから表記できる最大施設数は、約9施設（片側）となる。



図－6.2.2① 地区案内サイン（A2）袖部で表示する施設の選定フロー

②歩行者誘導サイン（B1）

設置位置は、基本的にエリアとエリアの接点となるサブノード（交差点）になることから、設置位置に隣接するエリアのレベル 1 施設を表示することとする。表示できる最大施設数は約 9 施設（片面）となる。

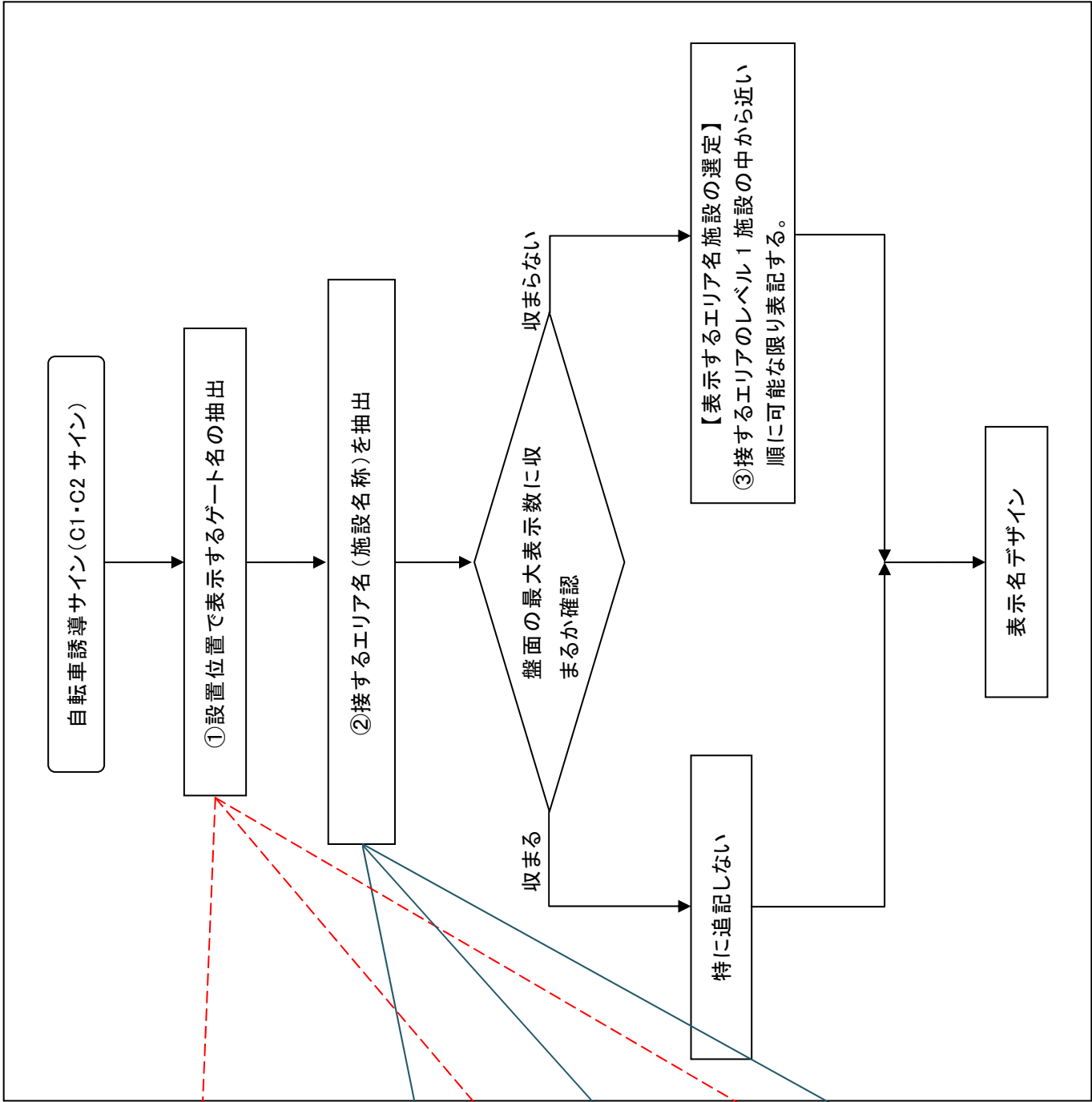
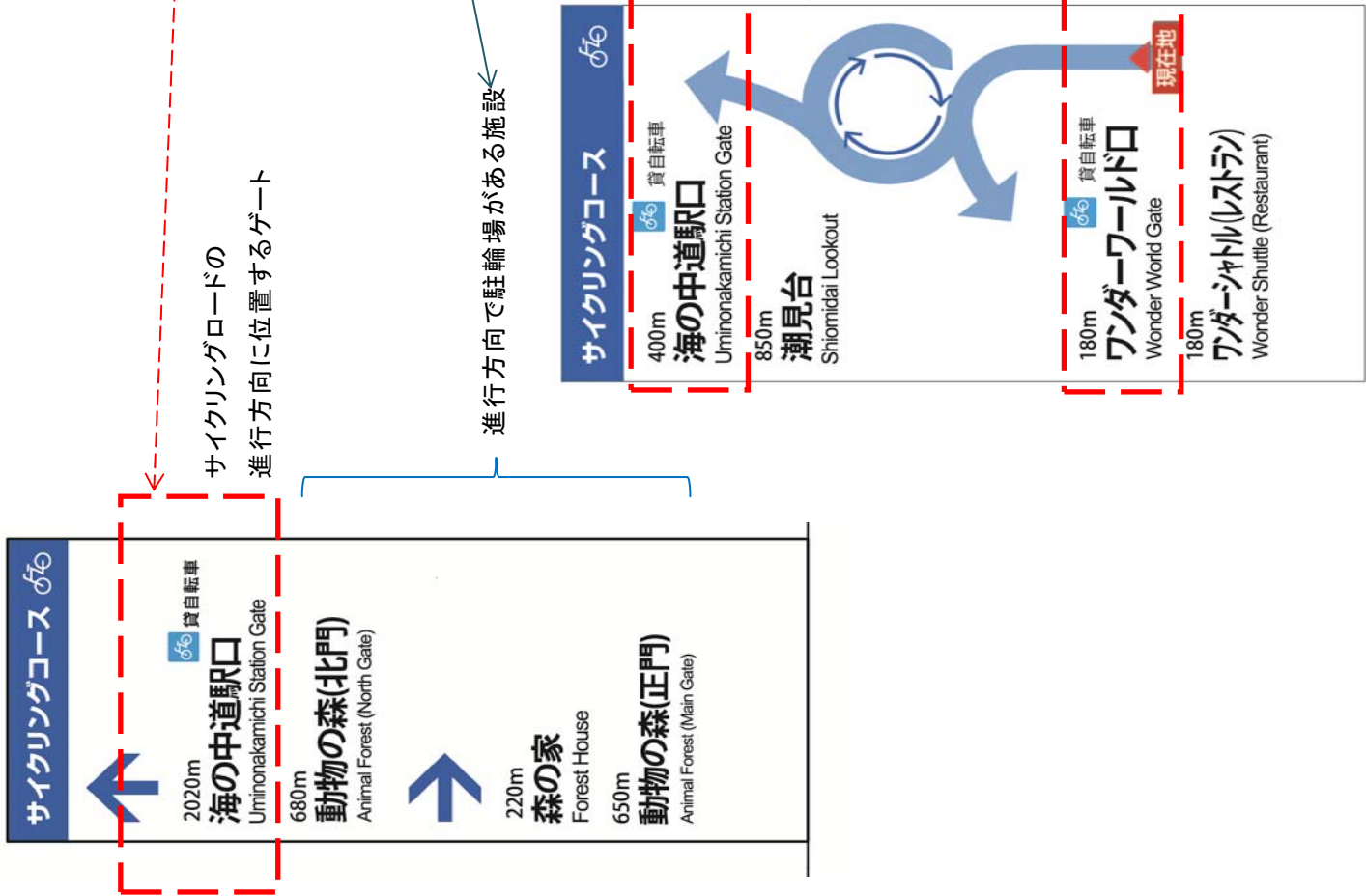


※注)接するエリアが複数ある場合は、最も多く表示するエリアの施設を削ることとするが、設置場所毎に検討することが望ましい。
また、レベル 1 施設の内、設置位置から見えている施設や、直近の施設は表記から外すこととする。

図－6.2.2② 歩行者誘導サイン（B1）で表示する施設の選定フロー

③自転車誘導サイン（C1、C2）

- ・設置位置は、基本的にエリアとエリアの接点となるサブノード（交差点）になる。
- ・その他の隣接するエリアのレベル 1 施設を表示する。
- ・表記できる最大施設数は、約 4 施設（片面）



図－6.2.2③ 自転車誘導サイン（C1・C2）で表示する施設の選定フロー

6.3 施設名称及び外国語表記

6.3.1 外国語表記の考え方

○公園サインについては、ユニバーサルデザインに基づき 4 ヶ国語表記を基本とするが、サインの盤面の大きさ等制約があるため、サインの種別ごとに設定する。

【解説】

外国語表記については、サインにおいてもユニバーサルデザインに基づき、4 ヶ国語表記を基本とする。ただし、サインにおいては、他の媒体と異なり情報量に制限があるため、下表のとおり設定する。

表－6.3.1 外国語表記のサインへの適用

	表記方法	
マップ面	表記しない。(版面サイズの関係上、外国語表記を入れることで煩雑になるため。また、外国語版公園ガイドと照合すれば理解できるため。)	
誘導表示	地区案内サイン (A2)	4 ヶ国語表記 (日本語、英語、中国語、韓国語)
	歩行者誘導サイン (B1)	4 ヶ国語表記 (日本語、英語、中国語、韓国語)
	自転車誘導サイン (C1、C2)	2 ヶ国語表記 (日本語、英語)

6.3.2 外国語表記の翻訳

- 外国語への翻訳にあたっては、違和感がないように翻訳する。
- 固有名詞の施設名で施設の内容がわからない施設は、対応する単語を追加する。

【解説】

外国語表記は、初めて来日した外国人にも分かるよう、以下の点に留意する。

例) 日本語：くじらぐも “ふわんポリン”
 英語：Whale Cloud "Fluff-Poline"
 韓国語：고래구름 "트램폴린"
 中国語：鲸鱼云 “蹦蹦床”

■外国語別の翻訳のルール

(1) 英語

- 外来語は英語で表記
- 施設名称はイメージ、内容がわかるよう、以下の3点に留意して翻訳
 - ①日本語名が、形容詞＋名詞の場合
 そのまま、形容詞＋名詞 （例：彩りの池 → Colorful Pond ）
 - ②日本語名が複数の名詞の場合
 そのまま、翻訳 （例：おもちゃ箱花壇 → Toy Box Flower Garden ）
 - ③日本語名が、名詞＋名詞の場合
 - (ア) 最初の名詞の翻訳が前にあってもおかしくない場合
 そのまま、翻訳（例：あじさいの小径 → Hydrangea Pathway ）
 - (イ) 最初の名詞の翻訳が前にあると違和感がある場合
 ○○ of ○○（例：いのちの池 → Pond of Life ）

(2) 中国語

- 擬音で表示される施設名は、似た発音と意味の漢字で翻訳

(3) 韓国語

- カタカナ、固有名詞の施設名は、音で表記

6.3.3 公園施設の4ヶ国語表記一覧

表-6.3.2 公園施設の4ヶ国語表記

No.	施設名称	英語	韓国語	簡体字	備考
1	あじさいの小径	Hydrangea Pathway	수국 편 오솔길	紫阳花小径	
2	遊べる噴水	Splash Fountain	즐거울 분수	戏水喷泉	
3	いこいの森	Forest of Relaxation	휴식의 숲	鸟鸣林	
4	いのちの池	Pond of Life	생명의 연못	生命之池	
5	彩りの池	Colorful Pond	알록달록 연못	缤纷池	
6	彩りの花壇	Colorful Flower Garden	알록달록 꽃밭	缤纷花坛	
7	インフォメーション	Information	안내소	问讯处	
8	うみなかみらい橋	Uminaka Future Bridge	우미나카미라이 다리	海中未来桥	
9	海の中道駅	Uminonakamichi Station Gate	우미노나카미치역 입구	海中道站出入口	
10	海の中道駅口駐車場	Uminonakamichi Station Gate Parking Lot	우미노나카미치역 입구 주차장	海中道站出入口停车场	
11	海の中道渡船場	Uminonakamichi Ferry Port	우미노나카미치 선착장	海中道渡船码头	
12	海の松原	Uminomatsubara	우미노마쓰바라 (바다의 숲밭)	海之松原	
13	大型車駐車場	Large Vehicle Parking Lot	대형차용 주차장	大型车辆停车场	
14	おもちゃ箱花壇	Toy Box Flower Garden	장난감 상자같은 꽃밭	玩具箱花坛	
15	カナル	Canal Water Fountain	커널 (분수공원)	水渠喷水公园	
16	カモ池	Duck Pond	오리들의 연못	鸭池	
17	カモ池口	Duck Pond Gate	오리들의 연못 입구	鸭池出入口	
18	環境共生の森	Eco-Friendly Forest	환경공생의 숲	环境共生森林	
19	管理センター	Management Center	관리 센터	管理中心	
20	管理棟(デイキャンプ受付)	Management Building (Registration Desk for Daytime BBQ Camp)	관리동 (당일치기 캠프 접수)	管理棟 (昼间野营接待处)	
21	くじらぐも“ふわんポリン”	Whale Cloud “Fluff-Poline”	고래구름“둥실폴린”	鲸鱼云“蹦蹦床”	
22	警備詰所	Guard Station	경비원 대기소	保安值班室	
23	ゴーカート	Go-Kart	고카트	卡丁车	
24	子供のとりで	Children's Fortress	어린이 요새	儿童城堡	
25	子供の広場	Children's Playground	어린이 광장	儿童广场	
26	子供の広場管理棟	Management Building for Children's Playground	어린이 광장 관리동	儿童广场管理棟	
27	こもれびの森	Forest of sunlight through the leaves of trees	나무 사이로 해가 비치는 숲	透过阳光的森林	
28	西戸崎渡船場	Saitozaki Ferry Port	사이토자키 선착장	西户崎渡船码头	
29	西戸崎レストハウス	Saitozaki Rest House	사이토자키 휴게소	西户崎休息处	
30	里の家(活動拠点施設)	Village House (Activity Facility)	고향집(활동 거점 시설)	乡间小屋(活动据点)	
31	サンシャインプール	Sunshine Pool	선샤인 풀장	露天水上游乐园	
32	シーサイドヒルシオヤ	Seaside Hill Shioya	시사이드 힐 시오야	海滨山庄“潮屋”	
33	潮見台	Shiomidai Lookout	전망대	观潮台	
34	四季の森	Forest of Seasons	사계절의 숲	四季森林	
35	じゃぶじゃぶ池	Jabujabu Pond	젖발젖발 연못	戏水池	
36	松球庵(茶室)	Shokyuan Tea Room	소큐안(차실)	松球庵(茶室)	
37	身がけ者専用駐車場	Handicapped Parking Lot	신체 장애인용 주차장	残疾人专用停车场	
38	シンフォニーガーデン	Symphony Garden	심포니 가든	音乐广场	
39	スカイシェルダー	Sky Shelter	스카이 대표소	蓝天了望台	
40	スカイドルフィン	Sky Dolphin	스카이 돌핀	蓝天海豚	
41	青少年海の家	Beach Hut for the Youth	청소년 바다의 집	青少年海洋之家	
42	ソフトクリームショップ (マリンワールド駐車場前売店)	Soft ice cream shop(Marine World Parking lot booking store)	소프트크림 가게	冰激凌店 (水族馆停车场前商店)	
43	大観覧車	Great Ferris Wheel	대관람차	大型观景车	
44	大芝生広場	Large Open Field	잔디밭 광장	大型草坪广场	
45	大芝生広場レストハウス	Large Open Field Rest House	잔디밭 광장 휴게소	大型草坪广场休息处	
46	ちびっこ広場	Kid's Playground	꼬마 광장	儿童广场	
47	デイキャンプ場	Daytime BBQ Campsite	당일치기 캠프장 (바베큐 장)	昼间野营场(烤肉场)	
48	ディスクゴルフ	Disk golf	데스크 골프	飞盘高尔夫	
49	テニスコート	Tennis Court	테니스 코트	网球场	
50	展望デッキ	Observation Deck	전망대	了望台	
51	動物の森	Animal Forest	동물의 숲	动物森林	
52	動物の森レストハウス	Animal Forest Rest House	동물의 숲 휴게소	动物森林休息处	
53	ドッグラン	Dog Run	애견 공원	狗狗运动场	
54	ドッグラン管理棟	Dog Run Management Building	애견 공원 관리동	狗狗运动场管理棟	
55	西口	West Gate	서쪽 입구	西出入口	
56	西口管理棟	West Gate Management Building	서쪽 입구 관리동	西出入口管理棟	
57	西サイクリングセンター口	West Cycling Center Gate	서쪽 사이클링 센터 입구	西自行车租赁中心出入口	
58	西駐車場A	West Parking Lot A	서쪽 주차장A	西停车场A	
59	西駐車場B	West Parking Lot B	서쪽 주차장B	西停车场B	
60	西駐車場C	West Parking Lot C	서쪽 주차장C	西停车场C	
61	虹の池	Rainbow Pond	무지개 연못	彩虹池	
62	虹の花壇	Rainbow Flower Garden	무지개 꽃밭	彩虹花坛	
63	日本の名車歴史館	Japan Vehicle History Museum	일본의 명차 역사관	日本名车历史馆	
64	パターゴルフ場	Put-Put Golf	골프 퍼팅장	迷你高尔夫球场	
65	花檠敷	Floral Art Garden	플라워 아트	花卉艺术	
66	花時計	Flower Clock	꽃 시계	花钟	
67	花の丘	Flower Hill	꽃의 언덕	花卉山岗	
68	博多湾パノラマ広場	Hakata-wan panoramic square	파노라마 광장	全景广场	
69	バラ園	Rose Garden	장미 정원	玫瑰园	
70	光と風の広場	Light and Wind Ground	빛과 바람의 광장	海潮音广场	
71	光と風の広場管理棟(デイキャンプ受付)	Light and Wind Ground Management Building (Daytime BBQ Campsite Reception desk)	빛과 바람의 광장 관리동 (당일치기 캠프 접수)	海潮音广场管理棟 (昼间野营接待处)	
72	光と風の広場口	Light and Wind Ground Gate	빛과 바람의 광장 입구	海潮音广场出入口	
73	光と風の広場駐車場	Light and Wind Ground Parking Lot	빛과 바람의 광장 주차장	海潮音广场停车场	
74	プール管理棟	Pool Management Building	풀장 관리동	游泳池管理棟	
75	フラワーミュージアム	Flower Museum	플라워 뮤지엄	花卉博物馆	
76	ふれあい動物舎	Petting Animal Farm	소통의 동물농장	温馨动物小屋	
77	冒険の池	Pond of Adventure	모험의 연못	冒险池	
78	ホテル ザ・ルイガンズ	Hotel THE LUIGANS	호텔 더루이گان즈	THE LUIGANS 大酒店	
79	マリナー	Marina	요트 정박장	游艇码头	
80	マリンワールド海の中道	Marine World Uminonakamichi	마린월드 우미노나카미치(수족관)	海中水族馆	
81	マリンワールド駐車場	Marine World Parking Lot	마린월드 주차장	水族馆停车场	
82	水鳥の池	Waterfowl Pond	물새들의 연못	水鸟池	
83	水辺のトリム	Waterside Playpark	물가의 놀이터	水边健身区	
84	水辺の広場レストハウス	Waterside Rest House	물가 휴게소	水边广场休息处	
85	港レストハウス	Port Rest House	항구 휴게소	海港休息处	
86	みらいの森	Future forest	미래의 숲	未来森林	
87	森の家	Forest House	숲의 집	森林教室	
88	野外劇場	Outdoor Theater	야외 극장	户外剧场	
89	野鳥の池	Wildbird Pond	들새들의 연못	鸟鸣池	
90	ワクワク池	Wakuwaku Pond	두근두근 연못	欢心池	
91	ワンダーシャトル(レストラン)	Wonder Shuttle (Restaurant)	원더셔틀(레스토랑)	神奇穿梭(餐厅)	
92	ワンダーワールド	Wonder World (Amusement Area)	원더월드	神奇世界游乐园	
93	ワンダーワールド口	Wonder World Gate	원더월드 입구	神奇世界游乐园出入口	
94	ワンダーワールド口駐車場	Wonder World Gate Parking Lot	원더월드 입구 주차장	神奇世界游乐园出入口停车场	
95	森の池	Forest Pond	숲의 연못	森林池塘	
96	ビジター拠点	Visitor Base	비지터 거점	访问者据点	
97	利活用拠点	Activity Base	활용 거점	活动据点	

6.4 指定書体（フォント）

- サインの表記に使用する書体については、ゴシック体を基本とする。
○デザインデータの作成にあたっては、文字データをアウトライン化（図化）する。

【解説】

サインに使用する書体については、ゴシック体を基本として、日本語、英語、中国語、韓国語を表示するものとする。サイン別のフォントの使用については、サイン別フォント種別表（31 頁）を参照することとする。

なお、校正時、印刷時にはフォントデータをアウトライン化（図化）し、文字化け等が発生しないようにすることとする。

また、文字配置にあたってはトラッキング（文字の均等割り）、カーニング（文字同士の間隔）を調整し、適切に配置することとする。

■ 基本書体／和文フォント：小塚ゴシック Pro B

大芝生広場大芝生
だいしばふひろば
ダイシバフヒロバ

■ 基本書体／和文フォント：小塚ゴシック Pro M, R

動物の森レストハウス

ワンダーワールド 子供の広場 動物の森 フラワーミュージアム

■ 基本書体／数字・英文フォント：Arial (Regular)

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
1234567890

表-6.4 サイン別フォント使用種別表

区分	使用フォント種別	書体使用例
A1. A2 マップ面	主要施設名称 レベル1施設：小塚ゴシック Pro B	森の家
	主要施設名称 レベル2施設：小塚ゴシック Pro R	野鳥の池
A2	施設名称（日本語）：小塚ゴシック Pro B	森の家
	施設名称（中国語）：Hiragino Sans GB w6	森林教室
	施設名称（韓国語）：Adobe Std M	잔디광장 쉼터
	施設名称（英語）：Arial Regular	Morinoie
B1	施設名称（日本語）：小塚ゴシック Pro B	森の家
	施設名称（中国語）：Hiragino Sans GB w6	森林教室
	施設名称（韓国語）：Adobe Std M	잔디광장 쉼터
	施設名称（英語）：Arial Regular	Morinoie
C1	施設名称（日本語）：小塚ゴシック Pro B	動物の森
D1	駐車場位置・目的地（日本語）：小塚ゴシック Pro B	志賀島
	駐車場位置・目的地（英語）：Arial Regular	Sikanoshima
E1	案内表記：小塚ゴシック Pro M	自転車置場
E2	案内表記：小塚ゴシック Pro M	自転車置場返却
F2	案内表記：小塚ゴシック Pro M	イベント受付
G1	案内表記：小塚ゴシック Pro M	立入禁止
	施設名称（中国語）：Hiragino Sans GB w6	禁地
	施設名称（韓国語）：Adobe Std M	출입 금지
	施設名称（英語）：Arial Regular	Off-limitts
G2	案内表記：小塚ゴシック Pro B	立入禁止
	施設名称（中国語）：Hiragino Sans GB w6	禁地
	施設名称（韓国語）：Adobe Std M	출입 금지
	施設名称（英語）：Arial Regular	Off-limitts

6.5 指定ピクトグラム

- サインに使用するピクトグラムは、JIS規格に準拠するものとする。
○新たにピクトグラムを作成する場合は、JIS規格に基づき作成する。

【解説】

ピクトグラムについては、JIS規格に規定するものを使用する。福岡市の福祉のまちづくり条例やユニバーサルデザインの観点から、当公園のサインに使用するピクトグラムを以下のとおりとする。また、下記に示されていないピクトグラムを使用する場合はJIS規格に準拠するものとする。

■ 指定ピクトグラム／優先度:高



- 1.トイレ
- 2.男子トイレ
- 3.女子トイレ
- 4.多目的トイレ
- 5.オストメイト
- 6.赤ちゃんの駅
- 7.授乳室
- 8.ベビーシート
- 9.公衆電話
- 10.レストラン
- 11.喫茶・軽食
- 12.売店
- 13.コインロッカー
- 14.喫煙コーナー
- 15.案内所
- 16.貸自転車
- 17.駐輪場
- 18.非常電話
- 19.救護施設
- 20.AED
- 21.駐車場
- 22.傾斜路
- 23.階段
- 24.立入禁止
- 25.自転車進入禁止
- 26～33.矢印
- 34～41.ゲート矢印
- 42.情報コーナー
- 43.案内サイン
- 44.身障者用駐車場
- 45～47.ふくおかまごころ駐車場

6.6 指定色

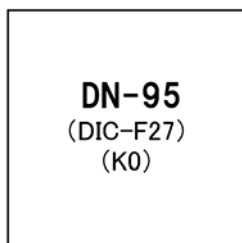
○サインに使用する指定色は以下のとおりとする。

【解説】

サインに使用する基本カラーについては、盤面の背景色、文字色、アクセントカラーを示す。アクセントカラーは、サインの支柱等に使用するものである。

サインの色味については、屋内と屋外では見え方が異なる場合があるため、屋外で色を確認することが望ましい。

■ サインにて使用する基本カラー



サイン表示盤面カラー
また下地が濃い色の場
合のヌキ表示に使用



表示文字カラー
サイン本体のアクセント
カラー



サイン本体のアクセント
カラー
その他矢印や一部ピクト
などにも使用

■ サブカラー



禁止または強調表示カ
ラーとして一部ピクト
グラムに使用

指定ピクトグラムの番号
(3, 18, 19, 20, 25, 26)



一部ピクトグラムに使用
指定ピクトグラムの番号(15)



一部ピクトグラムに使用
指定ピクトグラムの番号(21)



一部ピクトグラムに使用
指定ピクトグラムの番号(6)



一部ピクトグラムに使用
指定ピクトグラムの番号
(38, 39, 40)



一部ピクトグラムに使用
指定ピクトグラムの番号(16)

日本塗装工業会 指定色
(DIC：旧 大日本インキ化学工業 指定カラー)
(CMYK：4色分解表示)

7. サイン標準仕様

- 公園サインに使用するサインは、標準仕様に準拠して設置するものとする。
- 既設サインの再利用や資機材・設置場所等により、標準仕様に寄らない場合は、適宜変更しても良い。

【解説】

公園サインとして規定するサインの標準仕様は、次ページ以降に示すとおりとするが、既設のサインの表示面の貼り替えや既設サインの再利用等を積極的に進めることとし、その際、標準仕様と合致しないことも想定される。

次ページ以降に示す標準仕様は参考扱いとし、資機材の調達状況や設置場所の条件等に応じて、その場に応じて適宜変更できるものとする。

7.1 設計条件

○サインの設置にあたっては、盤面に加わる風荷重及び自荷重に対して十分安定性を確保する。

【解説】

サインの設計条件として風荷重及び自荷重に対する安全を確保するものとする。用いる風荷重については、各種指針で設定されているものの中で、当該サインの形状に適応し、最も大きな道路標識の風速を基本風速として算定する。

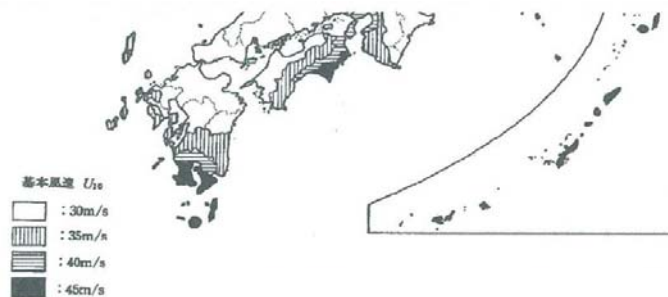
基本風速 $V_0 = 50\text{m/s}$

サイン設置高の風速 $V_z = V_0 \times (Z/10)^\alpha$

※ α はべき指数であり、平均値 $1/8.5 = 0.12$ を採用した。

平坦な地形の草原、海岸地帯	1/10～1/7	平均 $1/8.5 = 0.12$ を採用
田園地帯	1/6～1/4	
森林地帯、市街地	1/4～1/2	

サインに作用する風荷重 $P_0 = C_d \cdot V^2 \cdot g/16$



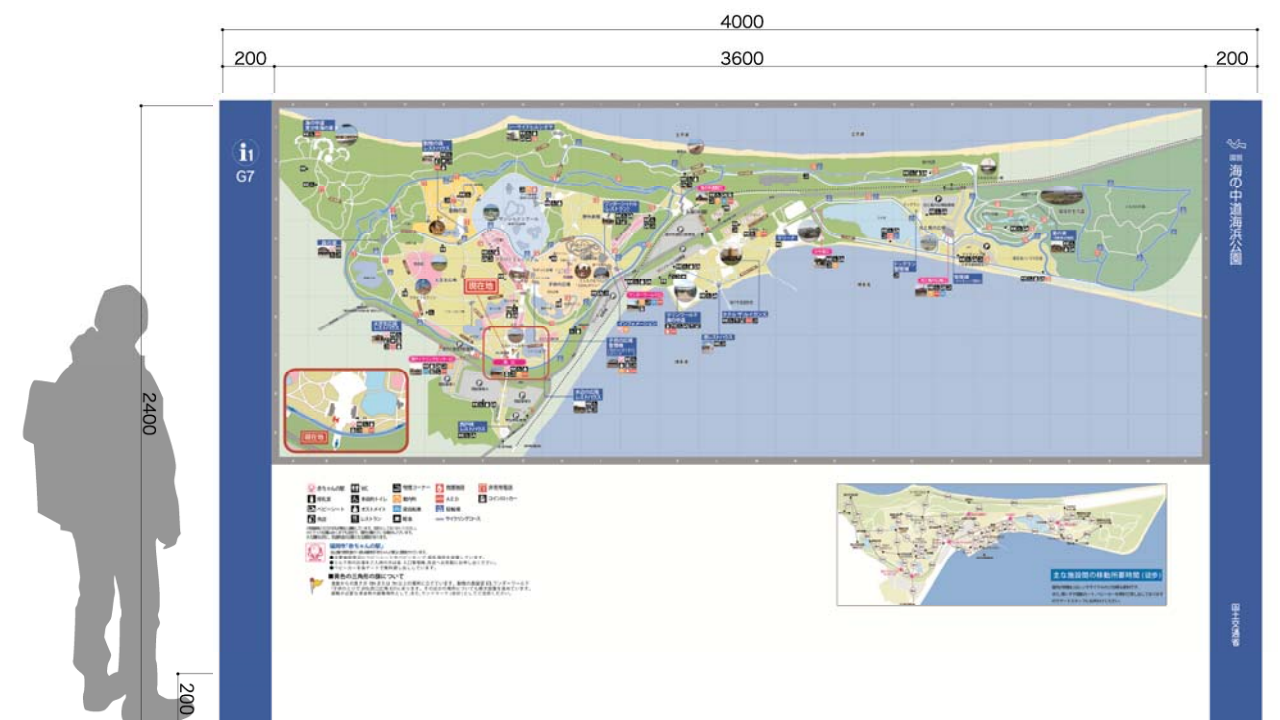
参考－1 道路橋耐風設計便覧 $V = 30\text{m/s}$



参考－2 基本風速 U_{10} に対する風速マップ $V = 36\text{m/s}$

7.2 標準仕様

■A1：全体案内サイン H2400×W4000

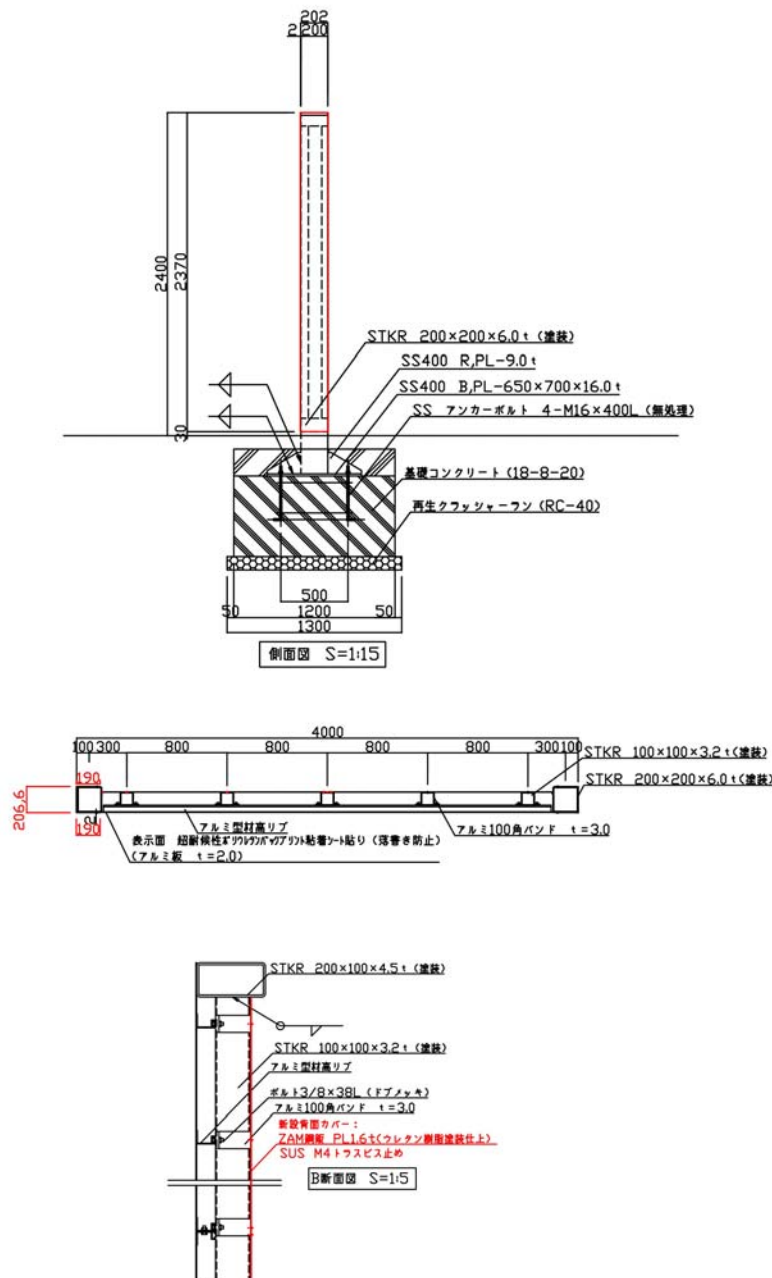


S=1/30

制作設置基準

本体仕様	スチール加工ドブツケ塗装仕上げ・アルミ
表示仕様	超耐候性ポリウレタンバックプリント粘着シート貼り(落書き防止)
寸法	H2400 W4000
塗装色	柱/D72-40T
表示色	文字/ダークグレー(黒)
設置場所	各ゲートの園内側等
表示内容	公園の全体マップ及び現在地、位置図
その他	マップの方向と版面の向きを整合させること。(北北西方向) 位置図は表示する施設名称とリンクさせること。

【参考】A1 構造図(2)



特記事項

鋼材は基礎コンクリートに埋設される部分を除き、溶融亜鉛メッキ処理のうえ見え掛かり部分をウレタン樹脂塗装仕上げとする。

表示面内容・塗装色は監督員と協議の上、決定する。

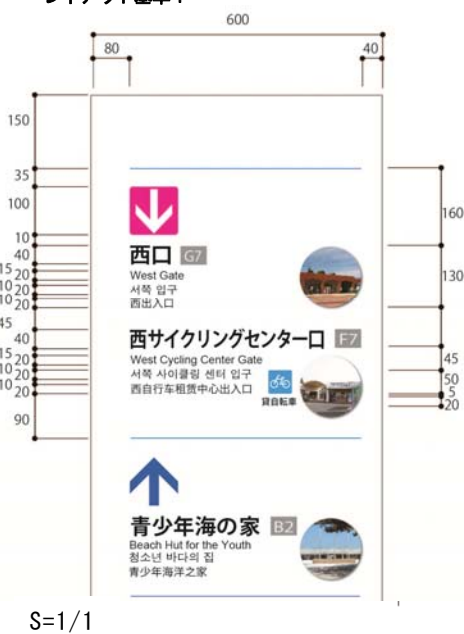
アルミ材は素地（無塗装）とする。

この製品は（社）日本公園施設業協会の団体加入する生産物賠償責任保険制度を適用すること。

この製品は（社）日本公園施設業協会の加入する、SPL表示およびISO9001認証取得した企業で製造された製品とする。

※基礎部が上記に寄らない場合は、現地状況に応じて設計すること。

■A2：地区案内サイン H2400×W4000



ゲート案内は盤面最上段に配置するものとし、施設案内とは別に左側盤面では「上→左→下」、右側の板面では「上→右→下」を基本とする。また、最短のルートを案内する。
尚、色づかいについても他との使い分けを行うため、マゼンタに白矢印とする。

制作設置基準

【参考】A2 構造図(1)



特記事項

鋼材は基礎コンクリートに埋設される部分を除き、溶融亜鉛めっき処理のうえ免え鋼が腐食部分にウレタン樹脂塗装を仕掛けとする。
文字・表示面内容・塗装色は監督員と協議の上、決定する。

特記無きアルミ材は素地（無塗装）とする。

アルミ材の塗装は、ウレタン樹脂塗装仕上げ

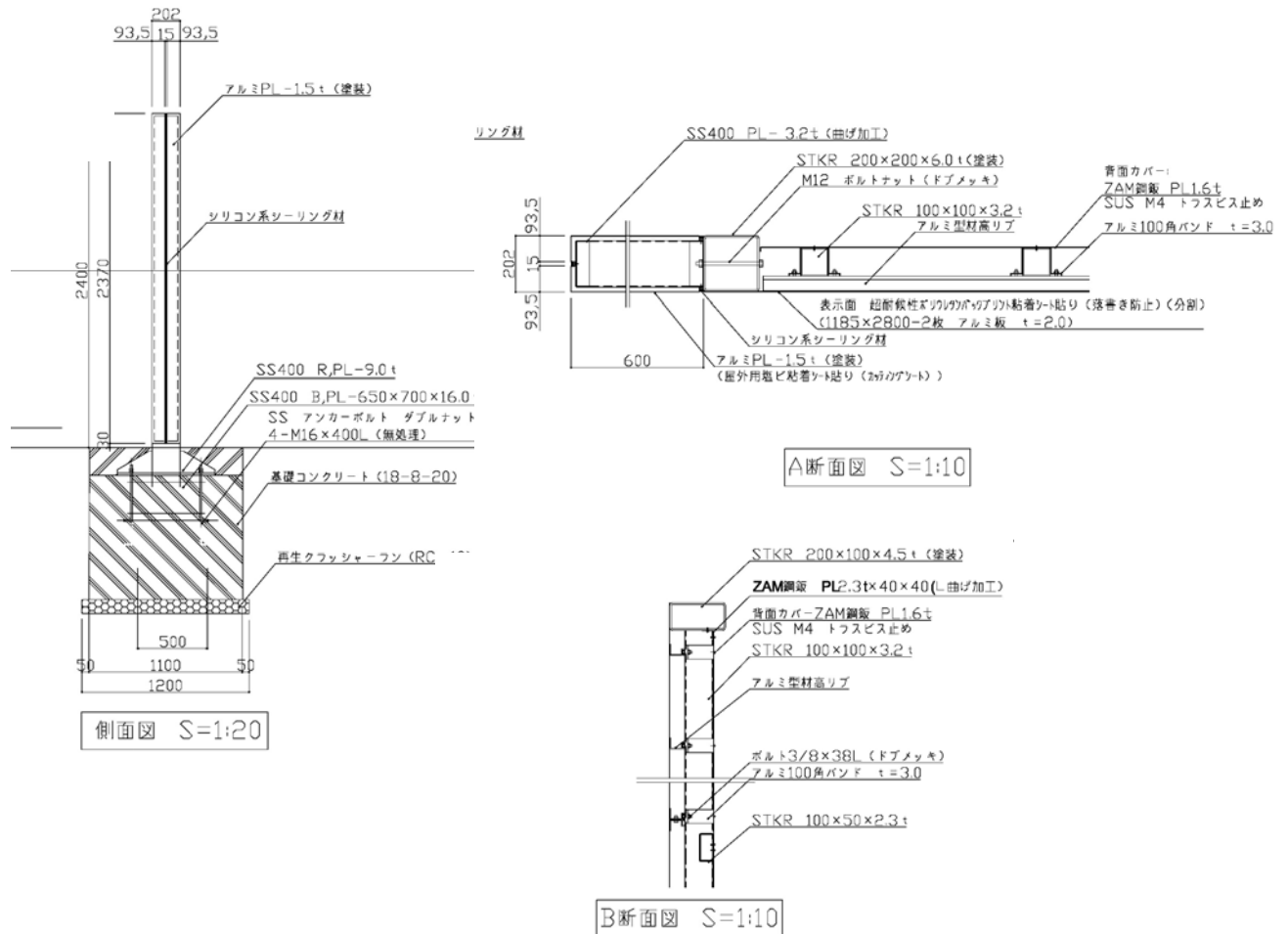
この製品は（社）日本公園施設業協会の団体加入する

この製品は (社) 日本公園施設業協会の加入する、SPL表示およびISO9001認証取得した企業で製造

この製品は、(注)日本公園施設業協会の加入する、GIL表示およびISO9001認証取得した企業で製造された製品とする。

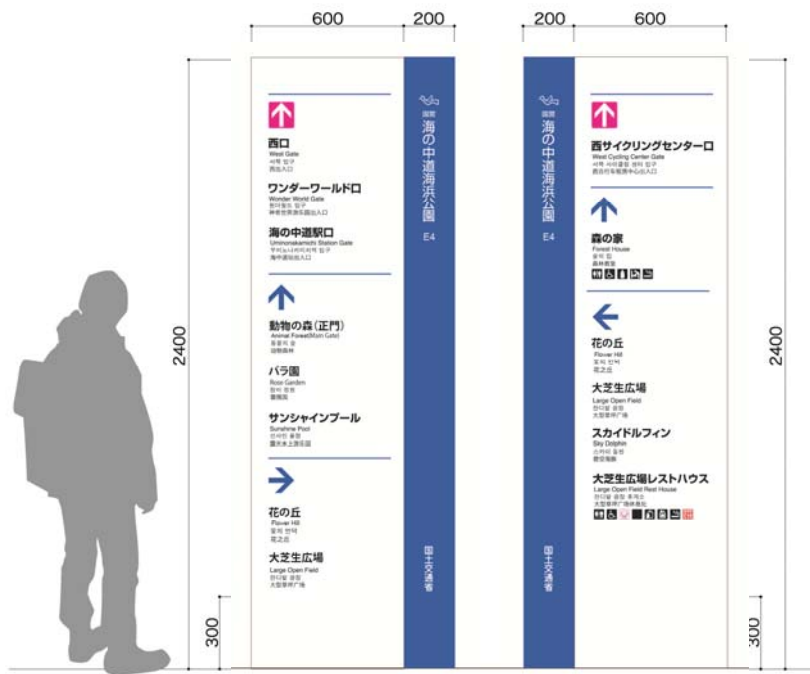
※基礎部が上記に寄らない場合は、現地状況に応じて設計すること。

【参考】A2 構造図(2)



※基礎部が上記に寄らない場合は、現地状況に応じて設計すること。

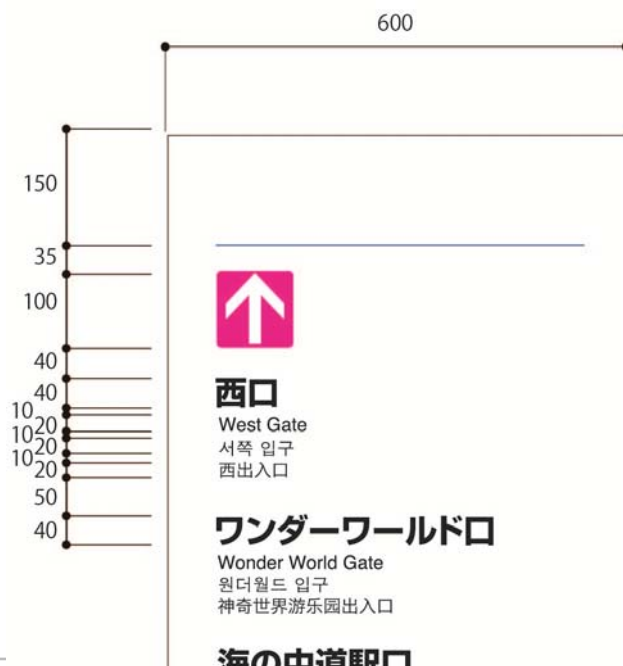
■ B 1 : 歩行者誘導サイン (版タイプ) H2400×W800



S=1/30

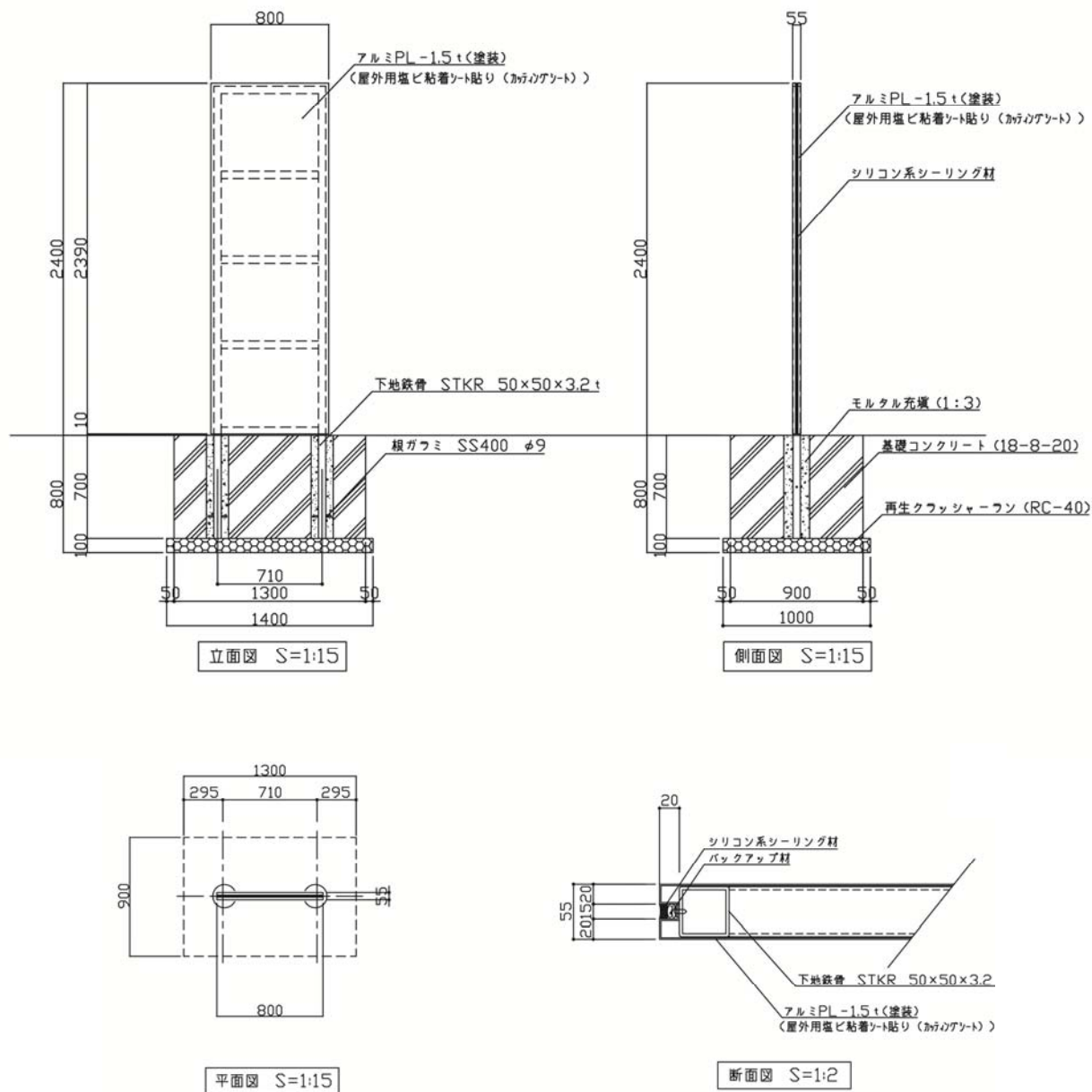
制作設置基準	
本体仕様	スチール加工ドブツケ塗装仕上げ・アルミ
表示仕様	屋外用塩ビ粘着シート貼り(カッティングシート)
寸法	H2400 W4000
塗装色	板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	園路交差部
表示内容	主要施設の方角
その他	園路にはみ出さないよう設置すること 視距 5m以上とすること

方向の表記は「上→右→左」の順に表記することとする。
また、最短のルートを案内する。
「↓」方向のゲートは、来た方向に戻ることに及び裏面にあるため表示しない。



S=1/10

【参考】B1 構造図



特記事項

鋼材は基礎コンクリートに埋設される部分を除き、溶融亜鉛メッキ処理とする。

アルミ材の塗装は、見え掛かり部分をウレタン樹脂塗装仕上げとする。

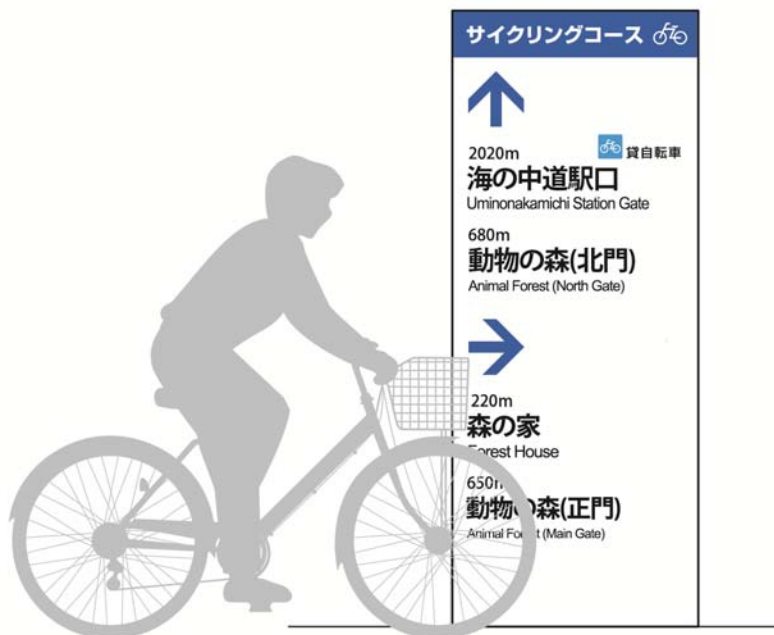
文字・表示面内容は監督員と協議の上、決定する。

この製品は（社）日本公園施設業協会の団体加入する生産物賠償責任保険制度を適用すること。

この製品は（社）日膜・施設業協会の加入する、SPL表示およびISO9001認証取得した企業で製造された製品とする。

※基礎部が上記に寄らない場合は、現地状況に応じて設計すること。

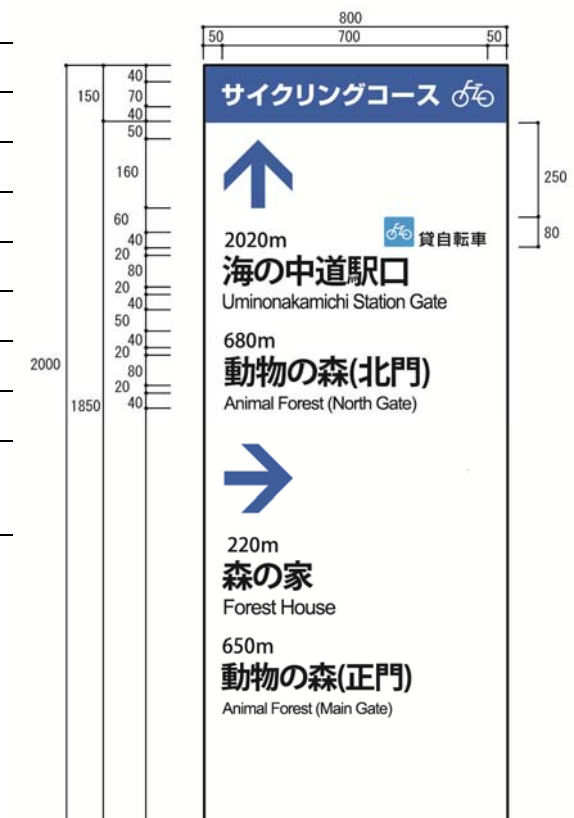
■ C 1 : 自転車誘導サイン H2000×W800



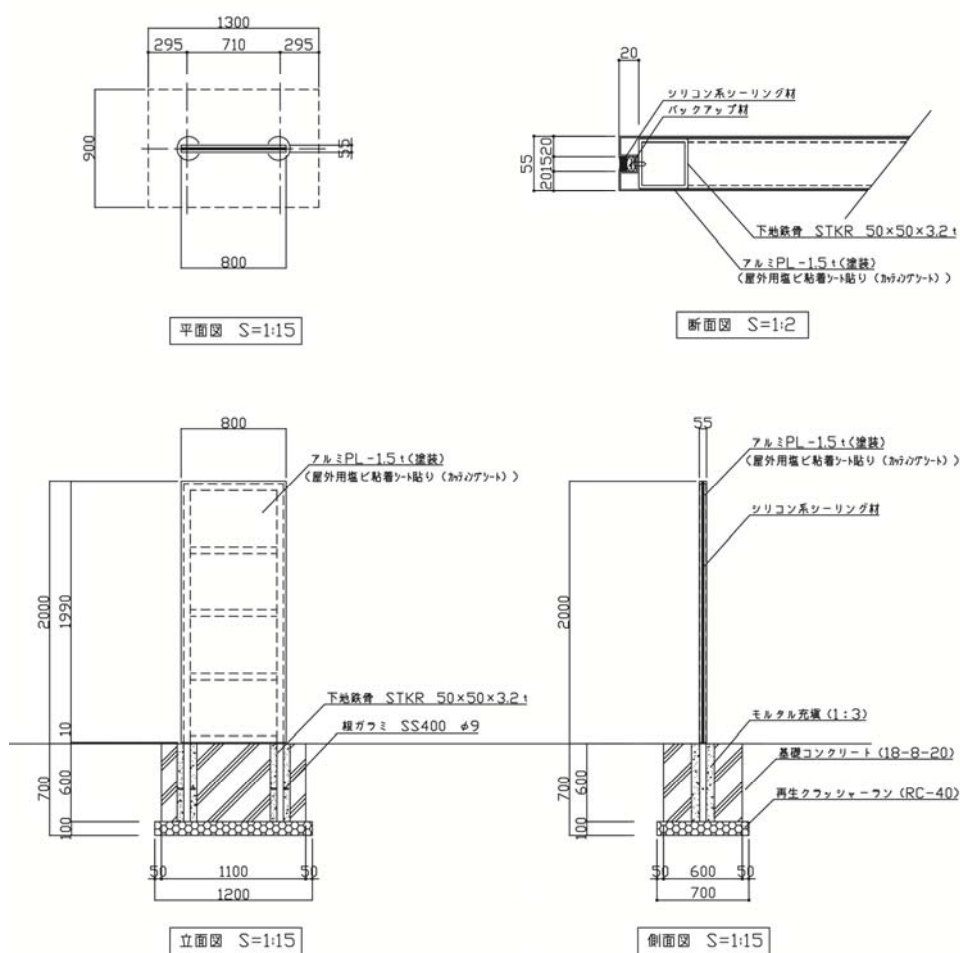
0

制作設置基準

本体仕様	スチール加工ドブヅケ塗装仕上げ・アルミ
表示仕様	屋外用塩ビ粘着シート貼り(カッティングシート)
寸法	H2000 W800
塗装色	板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	自転車道の主要交差点 等
表示内容	主要施設の方角
その他	自転車道にはみ出さないように設置する。 設計速度 15km/h、視距 10m 以上とする。



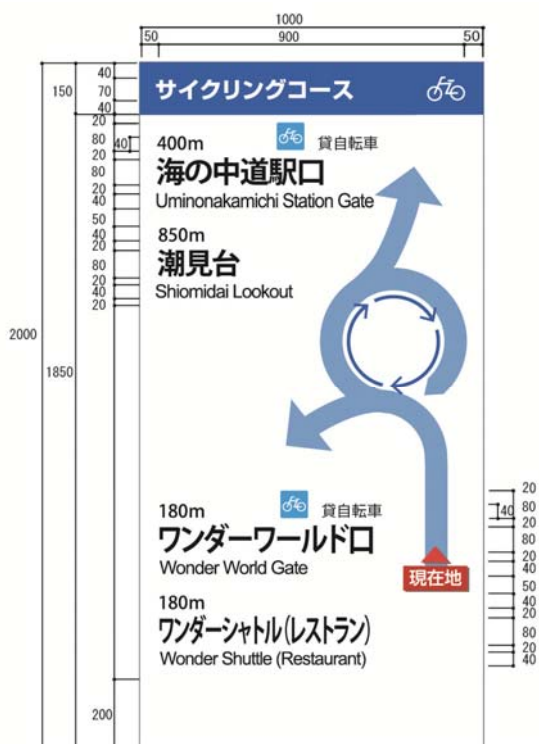
【参考】C 1 構造図



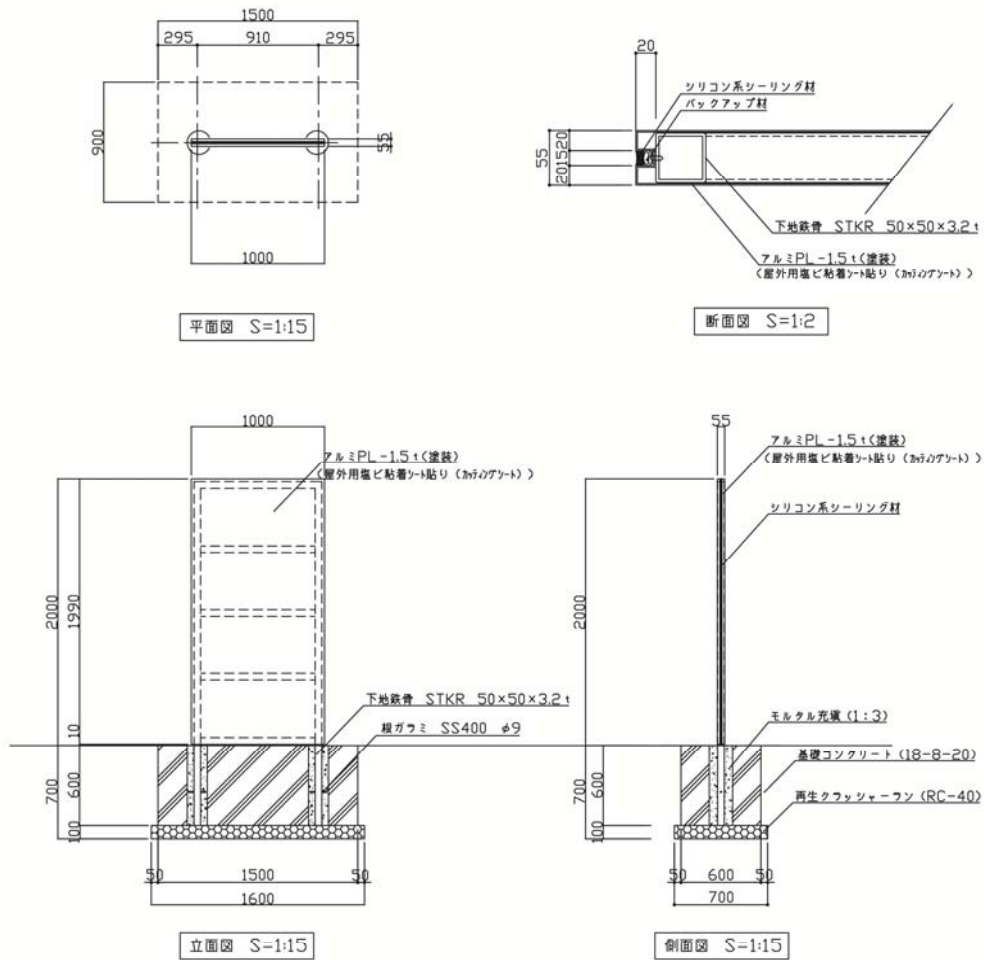
■ C 2 : 自転車誘導サイン (ラウンドアバウト) H2000×W1000



制作設置基準	
本体仕様	スチール加工エンドブツケ塗装仕上げ・アルミ
表示仕様	屋外用塩ビ粘着シート貼り(カッティングシート)
寸法	H2000 W1000
塗装色	板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	自転車道の主要交差点 等
表示内容	主要施設の方角
その他	自転車道にはみ出さないように設置する。 設計速度 15km/h、視距 10m 以上とする。



【参考】C2 構造図



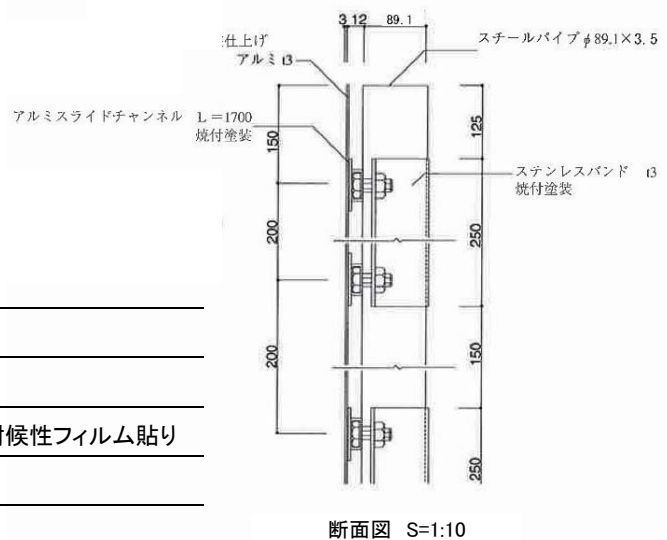
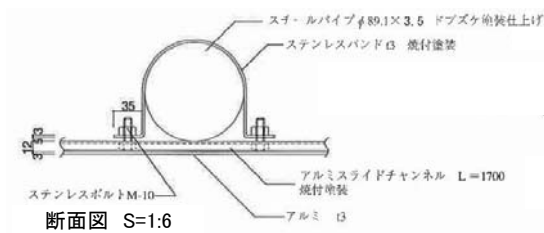
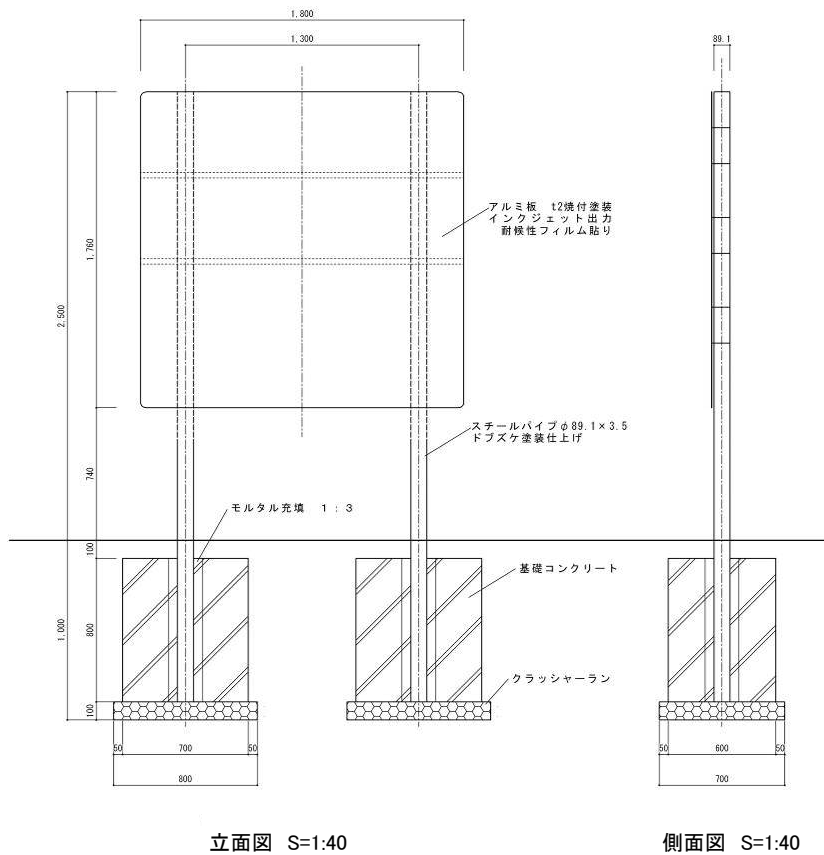
※基礎部が上記に寄らない場合は、現地状況に応じて設計すること。

■ D 1 : 駐車場内誘導サイン

(西駐車場の誘導サイン例)



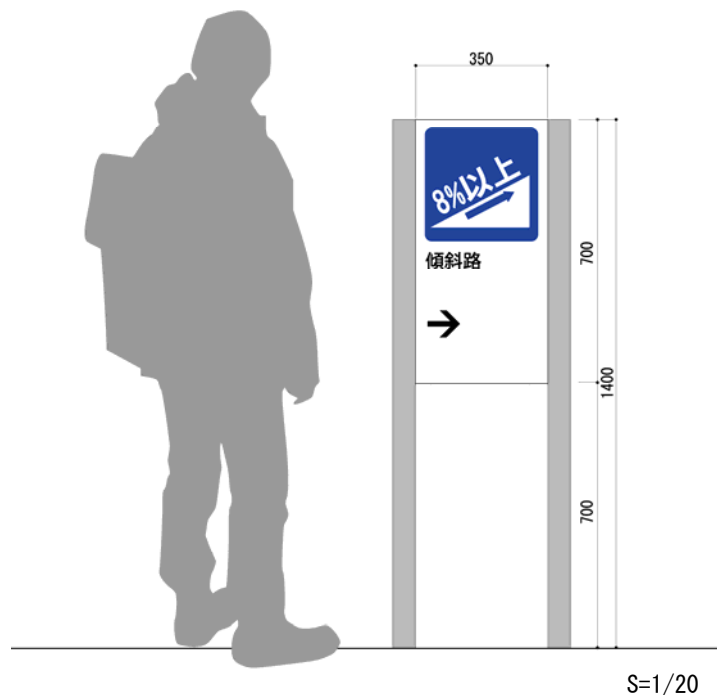
【参考】D 1 構造図



制作設置基準

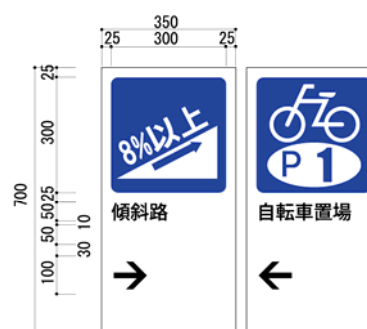
本体仕様	スチール加工ドブズケ塗装仕上げ
表示仕様	屋外用粘着シート・インクジェット出力・耐候性フィルム貼り
寸法	H450～1760 W1800
塗装色	柱／D72-40T 板面／D72-40T
表示色	文字／DN-95
設置場所	駐車場
表示内容	駐車場方向、出口方向、方面方向
その他	自動車を運転しながら判読することを考慮し、設置位置を決定する。原則として、視距 30m を確保することとする。

■ E 1 : 記名サイン（自立型） H1400×W350

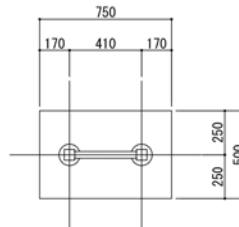


制作設置基準	
本体仕様	スチール加エドブツケ塗装仕上げ
表示仕様	屋外用粘着シート・インクジェット出力 耐候性フィルム貼り
寸法	H1400 W350
塗装色	柱／D72-40T 板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	対象となる施設の周囲 等
表示内容	施設の名称・機能
その他	原則としてピクトグラム表示とする。

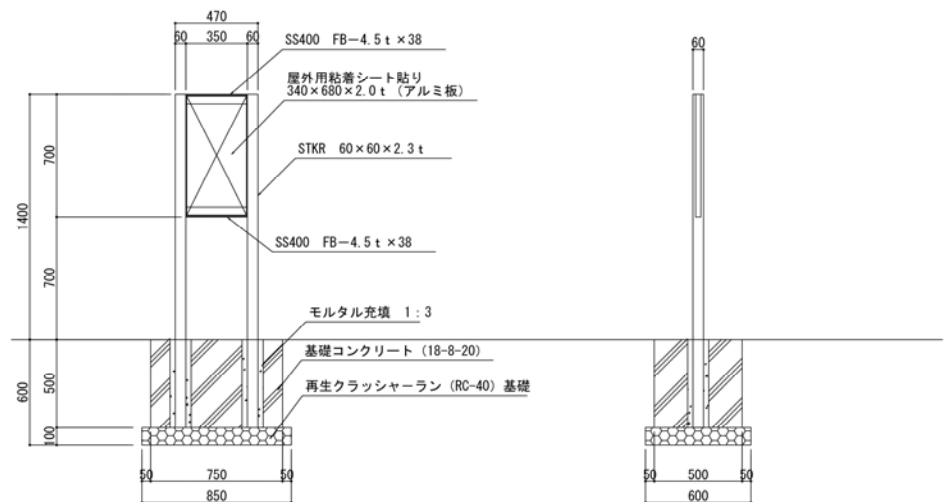
レイアウト基準
2～5文字の表記はマニュアル準拠の文字詰め
6文字以上の表記は適宜改行と5%刻みの長体を併用し調整



【参考】E 1 構造図

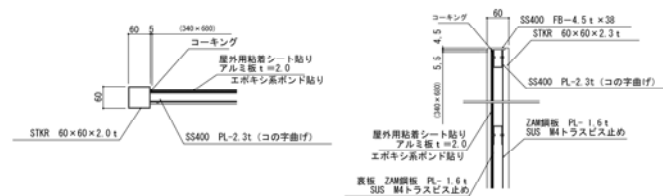


平面図 S=1:40



立面図 S=1:40

側面図 S=1:40



片面タイプ詳細図 S=1:20

※基礎部が上記に寄らない場合は、現地状況に応じて設計すること。

■ E 2 : 記名サイン（壁面設置型） H700×W350

レイアウト基準

2～5文字の表記はマニュアル準拠の文字詰め
6文字以上の表記は適宜5%刻みの長体を併用し調整
例外的に設置取付箇所に応じて横位置サインを併用



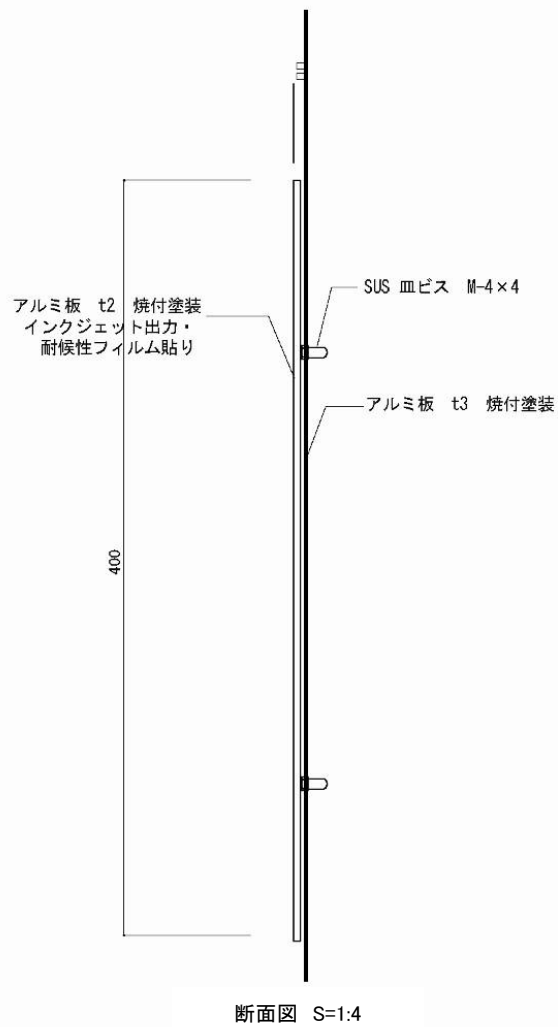
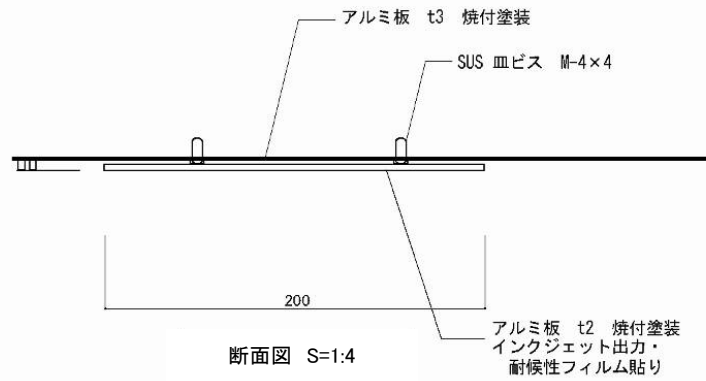
S=1/15



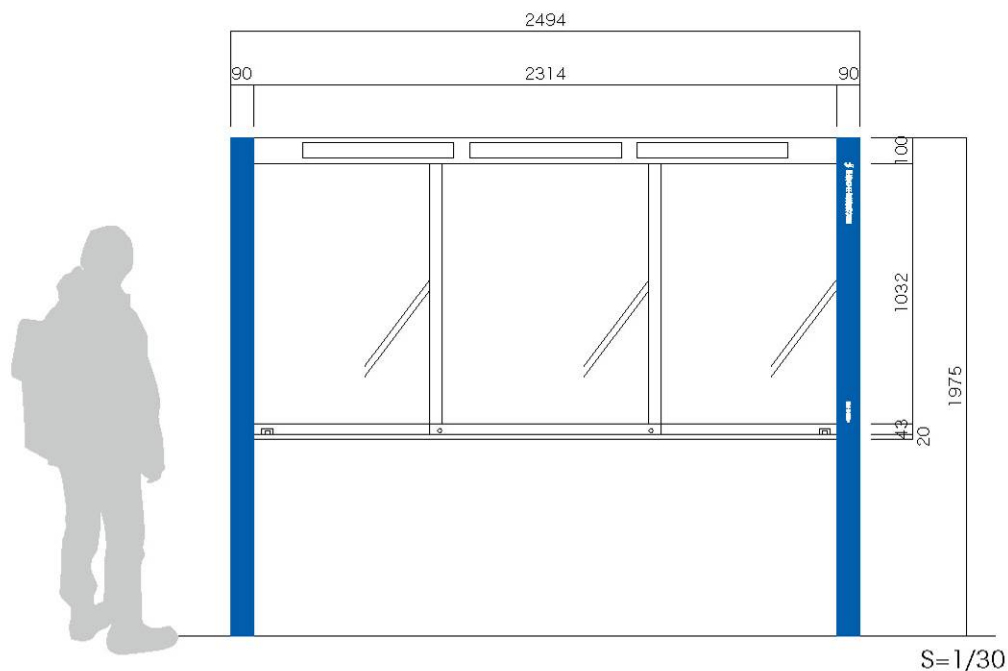
S=1/15

制作設置基準	
本体仕様	アルミ板
表示仕様	屋外用粘着シート・インクジェット出力・耐候性フィルム貼り
寸法	H700 W350
塗装色	板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	対象となる施設の周囲 等
表示内容	施設の名称・機能
その他	原則としてピクトグラム表示とする。

【参考】E 2 構造図



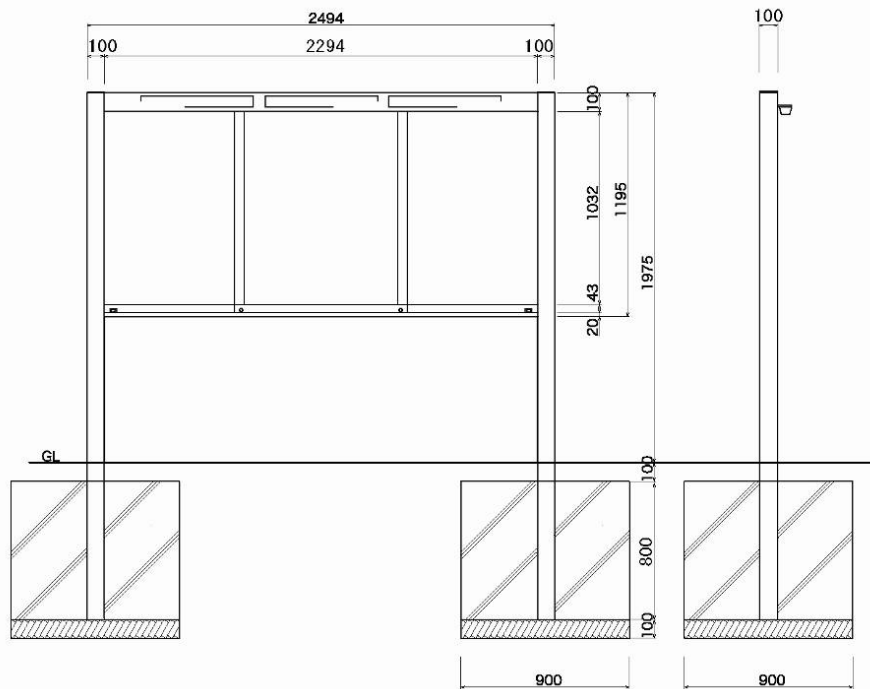
■ F 1 : 催事情報サイン（常設型） H2000×W2500



制作設置基準	
本体仕様	スチール加エドブツケ塗装仕上げ、ガラスカバー、鍵つき
表示仕様	—
寸法	H2000 W2500
塗装色	柱／D72-40T 板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	各ゲートの園内側 等
表示内容	イベント案内、お知らせ
その他	—

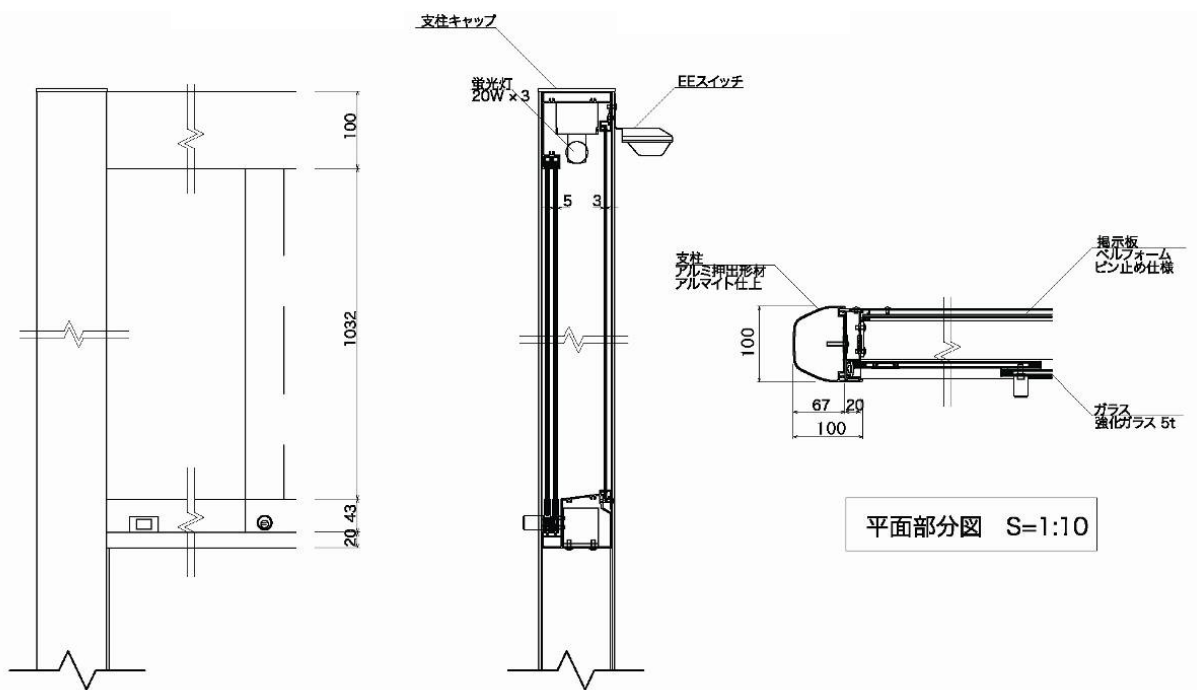
【参考】 F 1 構造図

■F1: イベント等情報提供ボード・催事サイン
構造図



正面図 S=1:40

側面図 S=1:40



正面部分図 S=1:10

側断面図 S=1:10

平面部分図 S=1:10

■【参考】F 2：催事誘導サイン（仮設型） H900×W200

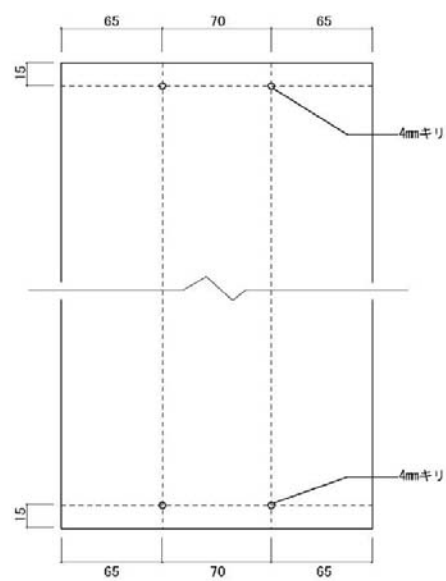


2～6文字の表記はマニュアル準拠の文字詰め
7文字以上の表記は5%刻みで適宜平体に調整

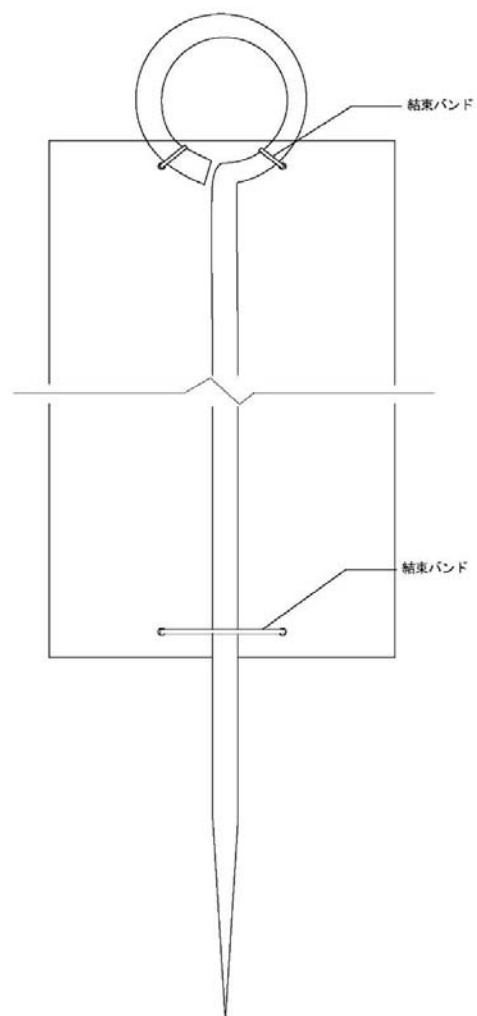
制作設置基準	
本体仕様	ベニヤ合板
表示仕様	屋外用粘着シート・インクジェット出力・耐候性フィルム貼り
寸法	H900 W200
塗装色	板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	園路わき
表示内容	イベント案内、お知らせ
その他	—

【参考】 F 2 構造図

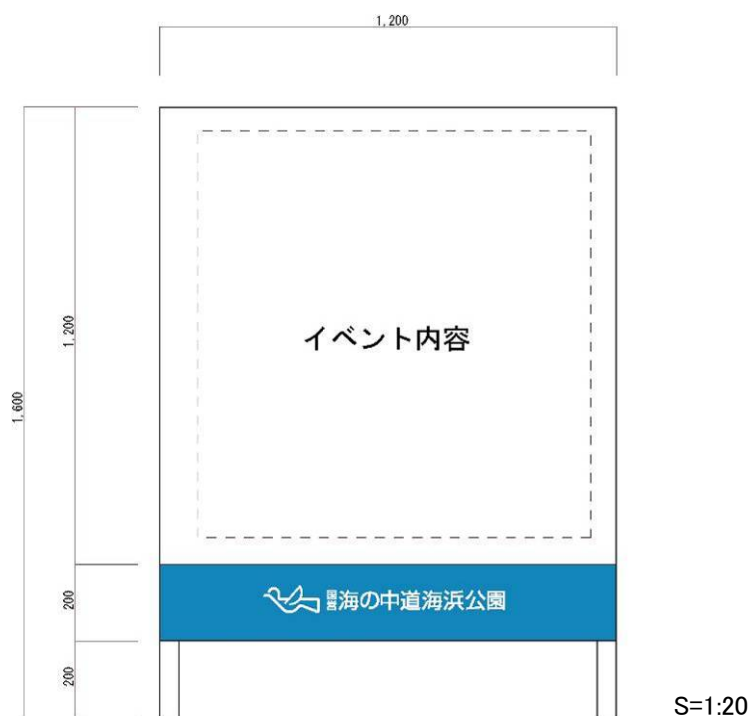
詳細図



取付イメージ



■【参考】 F 3 : 催事案内サイン（仮設型） H1600×W1200



掲示イメージ



【参考】F 3 イメージ図

掲示イメージ



制作設置基準

本体仕様	ベニヤ・木枠布張り
表示仕様	規定なし
寸法	H1600 W1200
塗装色	板面／DN-95(白)
表示色	文字／DN-10(黒)
設置場所	臨時表示位置
表示内容	イベント案内、お知らせ
その他	風で飛んだり傾いたりしないように設置は頑丈にする。

■ G 1 : 規制・警告・誘導サイン（自立型）H1400×W350（構造はE1と同様）



S=1/20

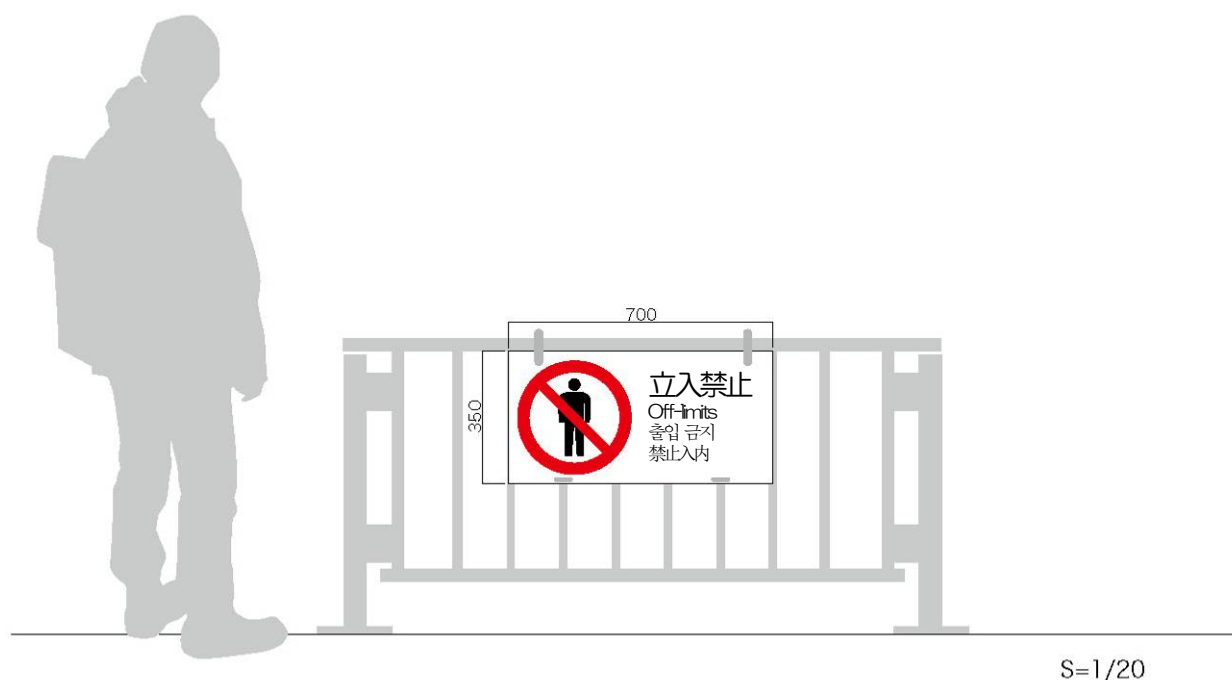
レイアウト基準

2～5文字の表記はマニュアル準拠の文字詰め
6文字以上の表記は 適宜改行と5%刻みの長体を併用し調整

制作設置基準	
本体仕様	スチール加工エドブツケ塗装仕上げ
表示仕様	屋外用粘着シート・インクジェット出力 耐候性フィルム貼り
寸法	H1400 W350
塗装色	柱／D72-40T 板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	対象となる施設の周囲等
表示内容	主要施設の方向
その他	原則としてピクトグラム表示とする。



■ G 2 : 規制・警告・誘導サイン（移動型） H350×W700



レイアウト基準

2～5文字の表記はマニュアル標準の文字詰め
6文字以上の表記は適宜改行と5%刻みの長体を併用し調整
例外的に設置取付箇所に応じて横位置サインを併用

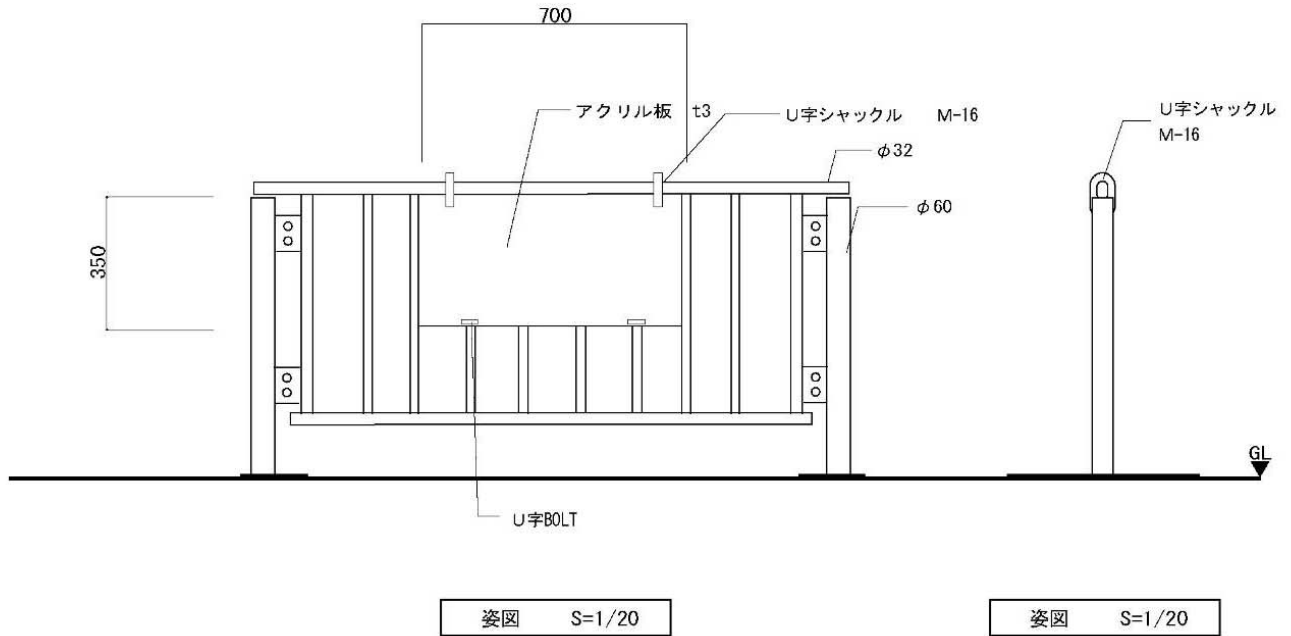


制作設置基準

本体仕様	アルミ板
表示仕様	屋外用粘着シート・インクジェット出力・耐候性フィルム貼り
寸法	H350 W700
塗装色	板面／DN-95
表示色	文字／ダークグレー(黒)
設置場所	対象となる施設の周囲 等
表示内容	禁止・警告、誘導内容
その他	原則としてピクトグラム表示とする。

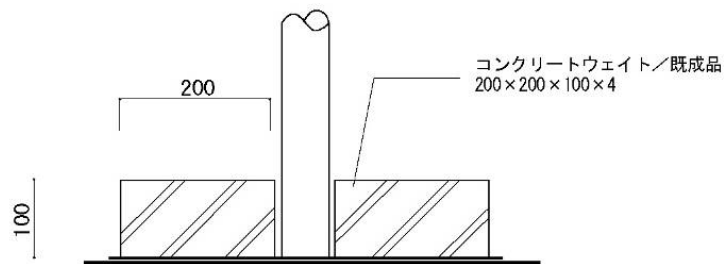


【参考】G 2 構造図



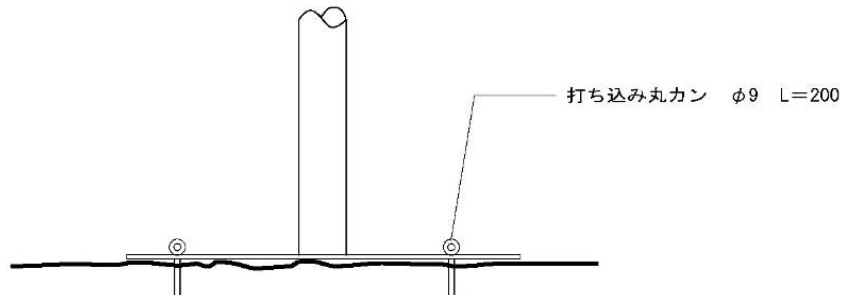
固定方法 S=1/10

アスファルト・コンクリート等の場合



固定方法 S=1/10

芝生・土等の場合



8. 通り名で道案内

- ・表示する情報は、「通りの名称」のみとする。
- ・設置型サインではなく、路面貼付型のサインとする。
- ・起点、終点、中間の3箇所を原則として、必要に応じて交差点等に追加する。

● 起点



● 中間



● 終点



制作設置基準

本体仕様	路面表示用シート
表示仕様	インクジェット印刷
寸法	H100 × W500
塗装色	板面／濃茶色 DIC-333
表示色	文字／白色 DIC-583
設置場所	通り名が設定されている園路の際
表示内容	通り名
その他	雨水や砂のかぶり等を防止するため、園路の端から10cm程度、園路中心側に設置する。

9. トイレサイン

トイレサインは、トイレ利用時のわかりやすさを向上させるために設置されるサインである。トイレサインの基準には、サインマニュアルで規定された基準のほか、法令・ガイドライン等（※）に基づきトイレサインにのみ適用される基準がある。

トイレサインの統一性を保つため、3.1 本マニュアルで規定するサインとは別に、本項目にてトイレサインを規定する。

※都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン、福岡県福祉のまちづくり条例、福岡市福祉のまちづくり条例など

9.1 トイレサインの種別と役割

本項目で規定するトイレサインの種別と役割は以下のとおりである。

表－9.1.1 トイレサインの種別と役割

サイン種別	役割
トイレ記名サイン（自立型）	・ トイレ施設位置の把握
トイレ記名サイン（壁面設置型）	・ トイレ種別（男子・女子・多目的）の案内 ・ トイレ内の設備情報の案内 ・ トイレの視認性向上 ・ 注意、禁止事項の発信 ・ トイレ内部構造を案内（設備配置図）
点字サイン	・ 視覚障がい者向けにトイレ内部構造、設備を案内

9.2 トイレサインの設置基準

＜トイレサインに適用する書体＞

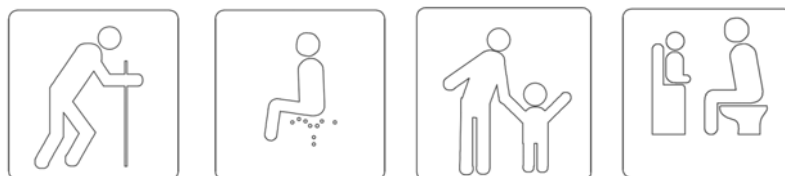
本マニュアル6. 指定書体（フォント）に基づく。

＜トイレサインに適用するピクトグラム＞

本マニュアル7. 指定ピクトグラムに基づく。

トイレサインに適用するピクトグラムは、指定ピクトグラムを使用するほか、JIS 規格に準拠するものとする。

【JIS 規格に準拠したピクトグラムの例】



＜トイレサインに適用する指定色＞

本マニュアル8. 指定色に基づく。

＜トイレサインの標準仕様＞

※以下に示す標準仕様は、10. サイン標準仕様と同様に参考扱いとし、設置場所の条件等に応じて、その場に応じて適宜変更できるものとする。

■トイレ記名サイン（自立型）

施設の視認性が悪い場合や施設がトイレとして認識されにくい場合は、必要に応じて本マニュアル 10. サイン標準仕様のうち、E1 記名サイン（自立型）に基づくサインをトイレ施設の近傍に設置し、トイレ施設への誘導を行う。

【設置例】



■トイレ記名サイン（壁面設置型）

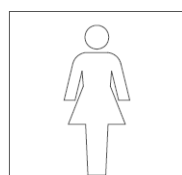
以下の目的のため、トイレ施設の壁面に設置する。

- (1) トイレ種別（男子・女子・多目的）の案内
- (2) トイレ内の設備情報の案内
- (3) トイレの視認性向上
- (4) 注意、禁止事項の発信
- (5) トイレ内部構造を案内（設備配置図）

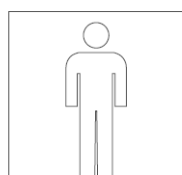
(1) トイレ種別（男子・女子・多目的）の案内

トイレ施設の入口付近に設置し、男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレの種別を示す。多目的トイレには、ピクトグラムを用いて「みんなが利用できるトイレ」であることを分かりやすく示す。

【製作例】



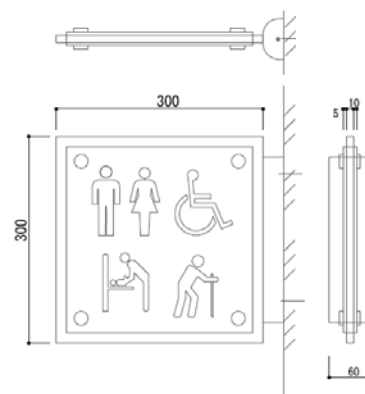
陶板製 300×300 厚 13



陶板製 300×300 厚 13



陶板製 450×300 厚 13

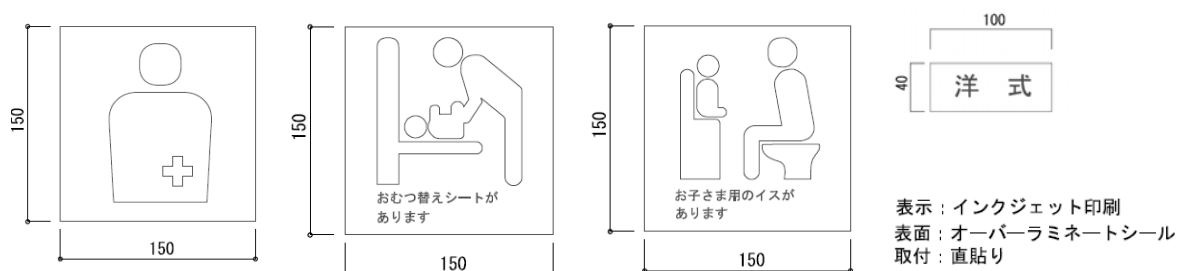


ブラケット：SUS加工 焼付塗装
基盤：SUS箱曲げ加工焼付塗装
表示：インクジェット印刷
表面：透明アクリル5t
：化粧ビス20Φ
取付：アンカー止め

(2) トイレ内の設備情報の案内

トイレ施設の入口付近に設置し、オストメイト、高齢者、妊産婦、乳幼児を連れた者等の使用に配慮した設備が備えられていることを分かりやすく示す。

【製作例】



(3) トイレの視認性向上

施設の視認性が悪く周辺の植栽の工夫でも視認性が向上しない場合や、施設がトイレとして認識されにくい場合は、自立型のトイレ記名サインを設置するほか、必要に応じてピクト付の大型壁面サイン（□900mm程度）を設置し、トイレの視認性を高める。

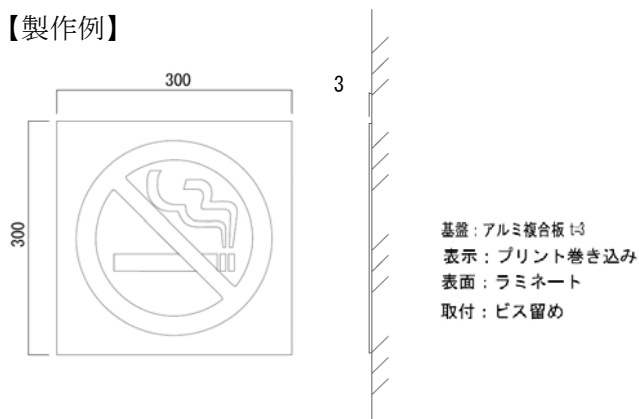
【設置例】



(4) 注意、禁止事項の発信

トイレ施設内の注意、禁止事項を示し、注意喚起を促す。

【製作例】



(5) トイレ内部構造を案内（設備配置図）

簡略化した平面図（設備配置図）をトイレの入口付近に設置し、内部構造を案内する。

トイレ規模や施設構造に応じ、以下のとおり設置箇所と盤面レイアウトを考慮する。

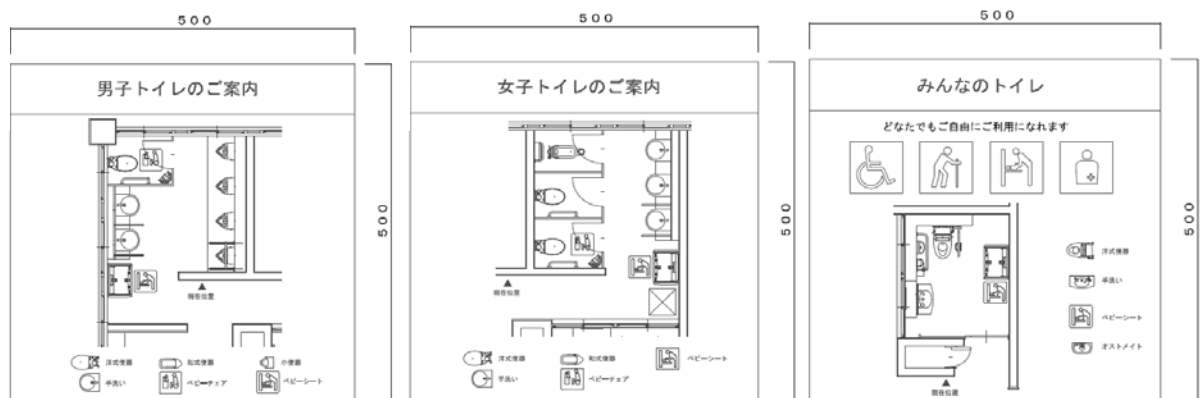
- i. 男子・女子・多目的の各トイレ入口に設置し、各々のトイレ内部構造を示す
- ii. トイレ施設の入口付近に設置し、男子・女子・多目的トイレ全ての内部構造を示す

なお、内部の設備は、表現を簡略化（模式化）する。

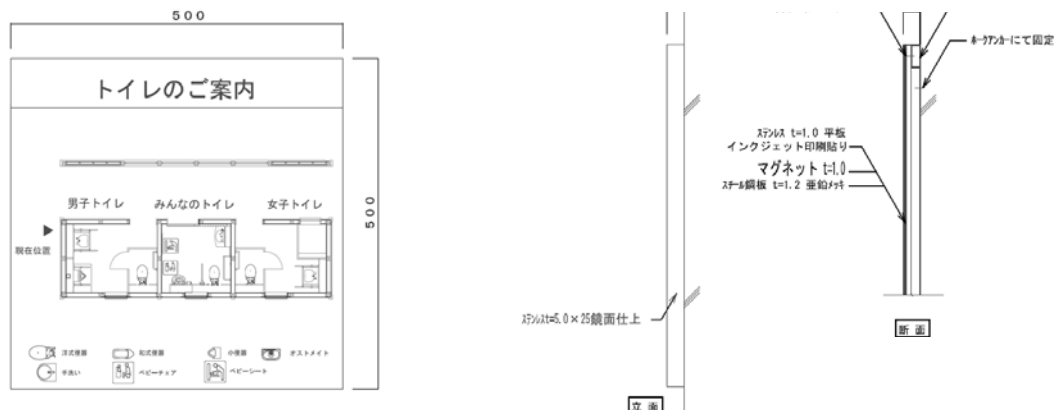
【模式化の例】



【i. タイプの製作例】



【ii. タイプの製作例】



■点字サイン

視覚障がい者と付添者、介護者の手が離れてしまうパーソナルスペースであるトイレには、**視覚障がい者向けに点字サインを設置する**。トイレの個室の中で必要となる点字サインについて明記する。

点字サインを設置する箇所は以下の通りとする。

(1) トイレ設備配置図

(2) パーソナルスペース内での洗浄スイッチの位置

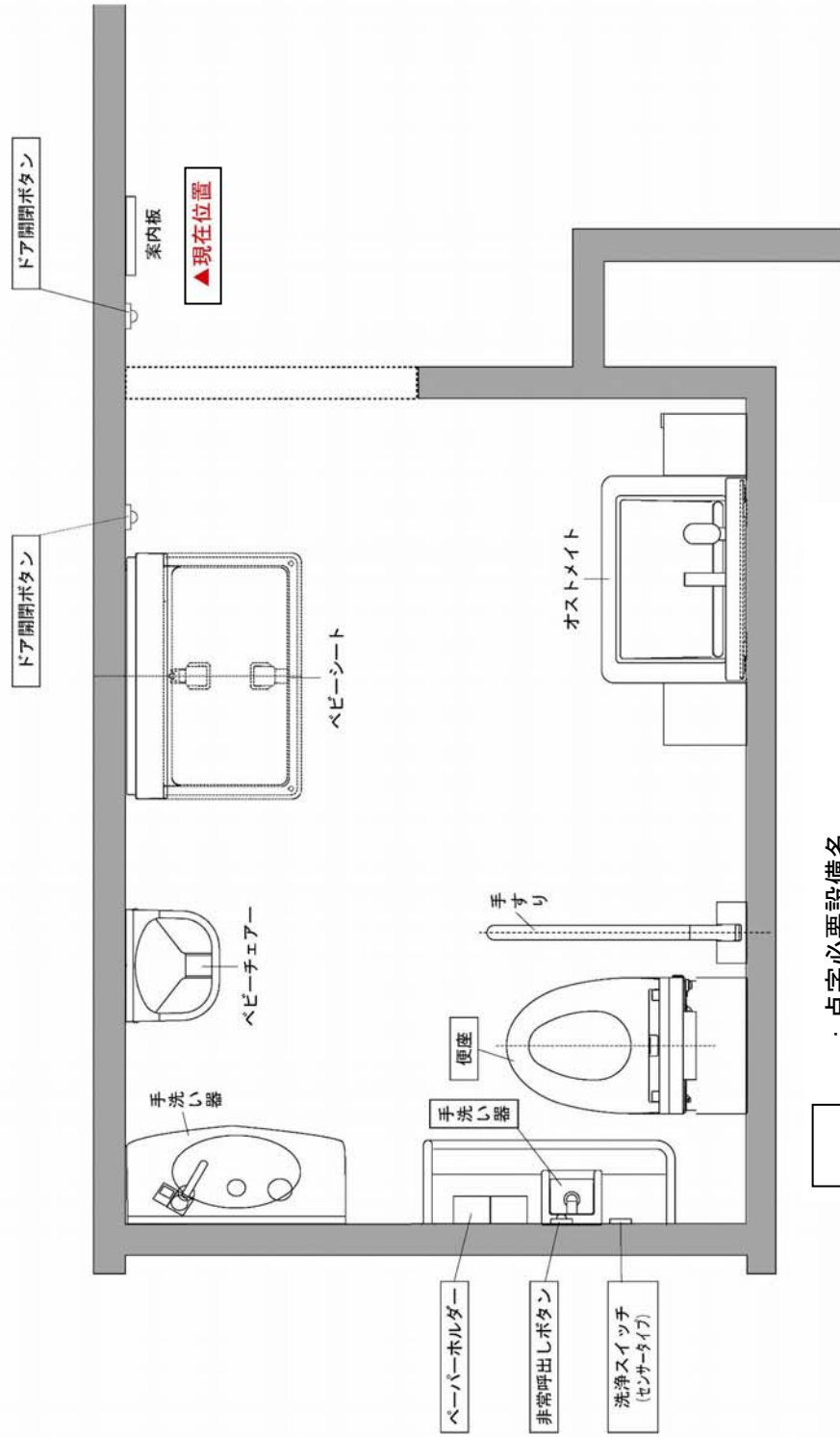
(1) トイレ設備配置図

表記する内容としては以下の設備名称を対象とする。

- ・ 現在位置
- ・ 便座
- ・ 手洗い器
- ・ 洗浄スイッチ(各種タイプ)
- ・ 非常呼出しボタン
- ・ ドア開閉ボタン

多目的トイレ設備配置図例

●多目的トイレ配置図（点字案内必要箇所）



：点字必要設備名

※参考図（西口圏内）

(2) パーソナルスペース内での洗浄スイッチの位置

多目的トイレ以外のパーソナルスペースで必要する点字サインは以下の通りとする。

- ・ 洗浄スイッチの種類・位置

【基本事項】

- ①視覚障がい者への情報提供としては、ペーパーホルダーの位置、洗浄スイッチが必要となる。
- ②対応策として、ペーパーホルダーは、手探りでも見つけられるため、上部に点字サインシールを貼り付けて洗浄スイッチの位置を明記する。
- ③貼り付けるシールは、下記に表記している 1～4 をシール化し、その組み合わせにより案内を行う。

1. 洗浄操作

名称	点字サイン
流す	ながす

3. 案内方向

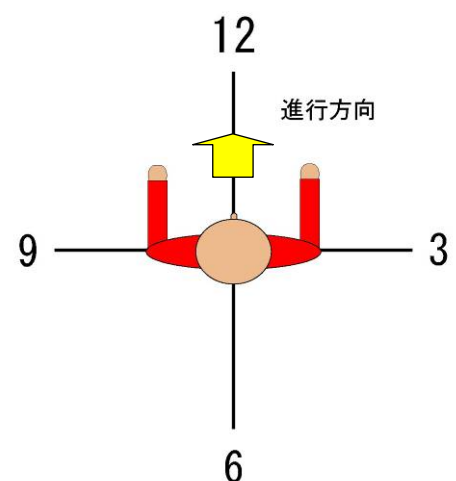
数字サイン											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

2. 洗浄操作スイッチの種類

名称	点字サイン	55
レバー (1)	れ ば ー	
レバー (2)	れ ば ー	
レバー (3)	れ ば ー	
ボタン	ぼ た ん	
センサー	せ ん さ ー	

4. 案内方法

名称	点字サイン
時の方向 例 5時の方向	じ の ほ こ ー

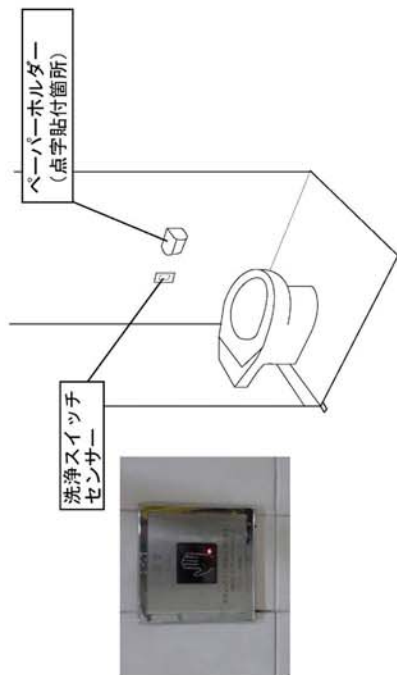


視覚障がい者を中心とした時計文字盤

例 1) 洗浄スイッチ点字表記例（センサータイプ）

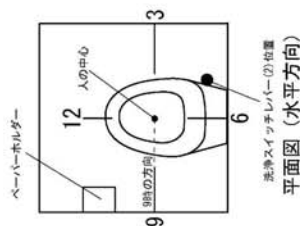
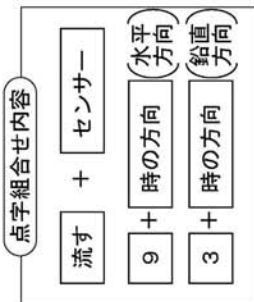
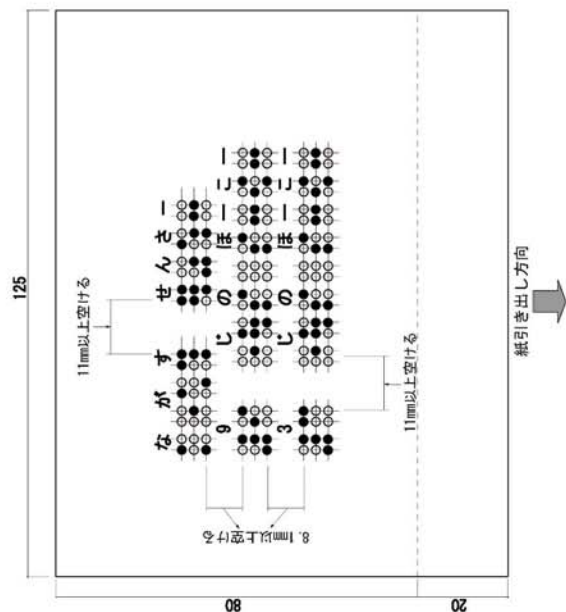
● 洗浄スイッチ点字表記例

◆ センサータイプ（壁設置タイプ）

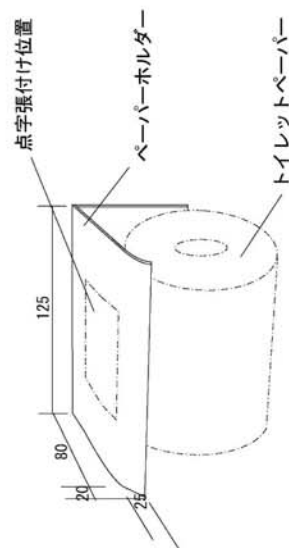


トイレ 洗浄スイッチイメージ図

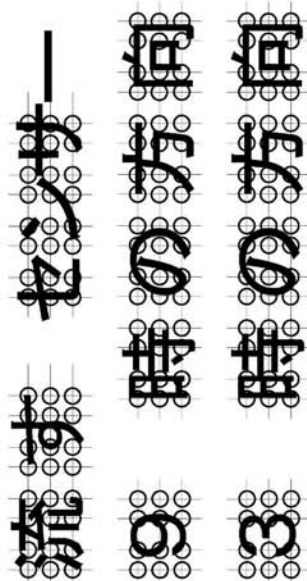
◆ ペーパーホルダー上部貼付例



◆ ペーパーホルダー点字サイン貼付けイメージ図



◆ 点字・墨字イメージ図



正面図（鉛直方向）

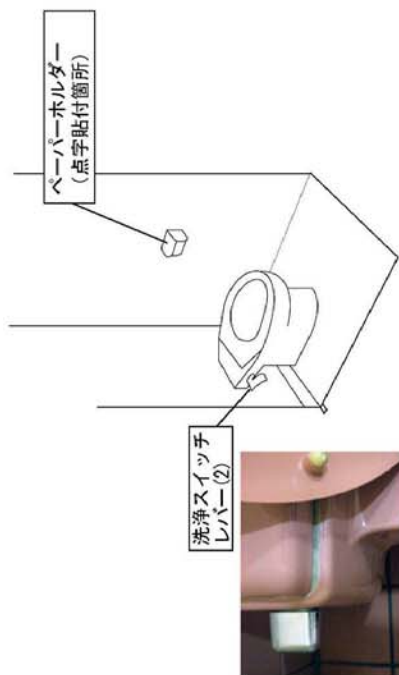
トイレ 洗浄スイッチ方向図

洗浄スイッチ点字表記例（センサータイプ）

例2) 洗浄スイッチ点字表記例（便座横設置型レバータイプ）

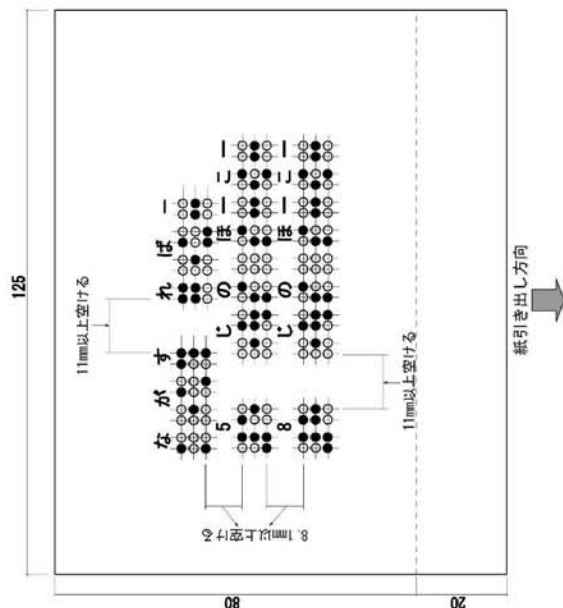
● 洗浄スイッチ点字表記例

◆ レバータイプ（便座横設置タイプ）



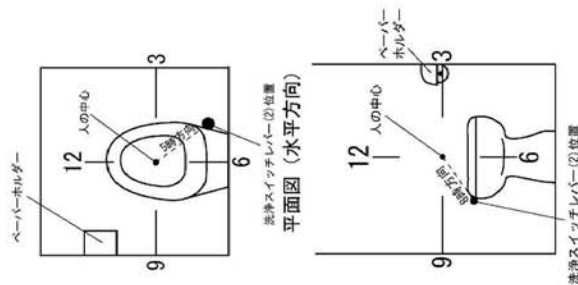
トイレ 洗浄スイッチイメージ図

◆ ペーパーホルダー上部貼付例



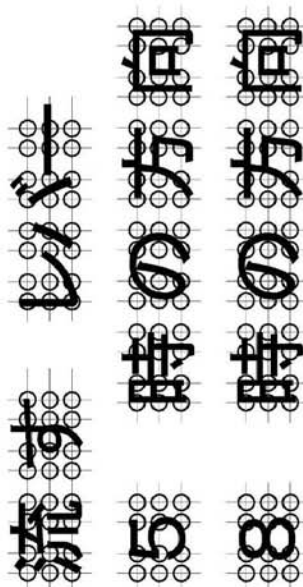
紙引き出し方向

点字組合せ内容			
流す	+	レバー	
5	+	時の方向	(水平方向)
8	+	時の方向	(鉛直方向)

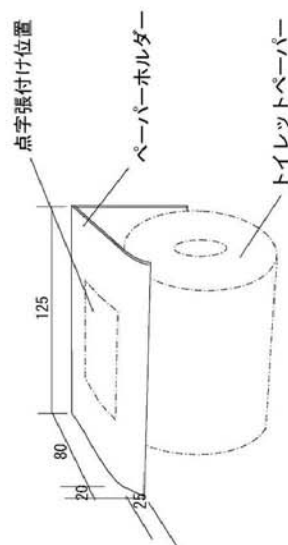


正面図（鉛直方向）
トイレ 洗浄スイッチ方向図

◆ 点字・墨字イメージ図



◆ ペーパーフォルダ点字サイン貼付けイメージ図



洗浄スイッチ点字表記例（レバータイプ）

参考資料 1. 新旧対応表

新サイン(平成 27 年度版)			旧サイン(平成 23 年度版サインマニュアル)		備考
A1	全体案内サイン	←	A1	全体案内サイン	
A2	地区案内サイン	←	A2	地区案内サイン	
B1	歩行者誘導サイン(版タイプ)	←	B1	歩行者誘導サイン(版タイプ)	
		× ←	B2	歩行者誘導サイン(ポールタイプ)	削除
C1	自転車誘導サイン	× ↙	C1	自転車案内サイン	削除
C2	自転車誘導サイン (ラウンドアバウト)	←	C2	自転車誘導サイン	追加
D1	駐車場内誘導サイン	←	D1	駐車場内誘導サイン	
E1	記名サイン(自立型)	←	E1	記名サイン(自立型)	
E2	記名サイン(壁面設置型)	←	E2	記名サイン(壁面設置型)	
F1	催事情報サイン(常設型)	←	F1	催事情報サイン(常設型)	
F2	催事誘導サイン(仮設型)	←	F2	催事誘導サイン(仮設型)	
F3	催事案内サイン(仮設型)	←	F3	催事案内サイン(仮設型)	
G1	規制・警告サイン(自立型)	←	G1	規制・警告サイン(自立型)	
G2	規制・警告・誘導サイン(移動型)	←	G2	規制・警告・誘導サイン(移動型)	

- ・ 歩行者、自転車、自動車のそれぞれにカテゴリーを区分した。
- ・ 利用者が多い自転車の案内性を高めるために、自転車用の誘導サインを新設した。
- ・ 駐車場用のサインはさまざまな規格があったため、統一した。

参考資料 2. 印刷の仕様

サインにおける印刷面は、利用者に情報を伝える最も重要な部分であるとともに、耐久性、コスト、ユニバーサルデザインの観点などが必要です。

下記に、サインの印刷の基本仕様を示しますが、新たな利用者ニーズや印刷技法の技術革新等によって、必要に応じて、最善の印刷技法を用いることとします。

■サインの印刷仕様

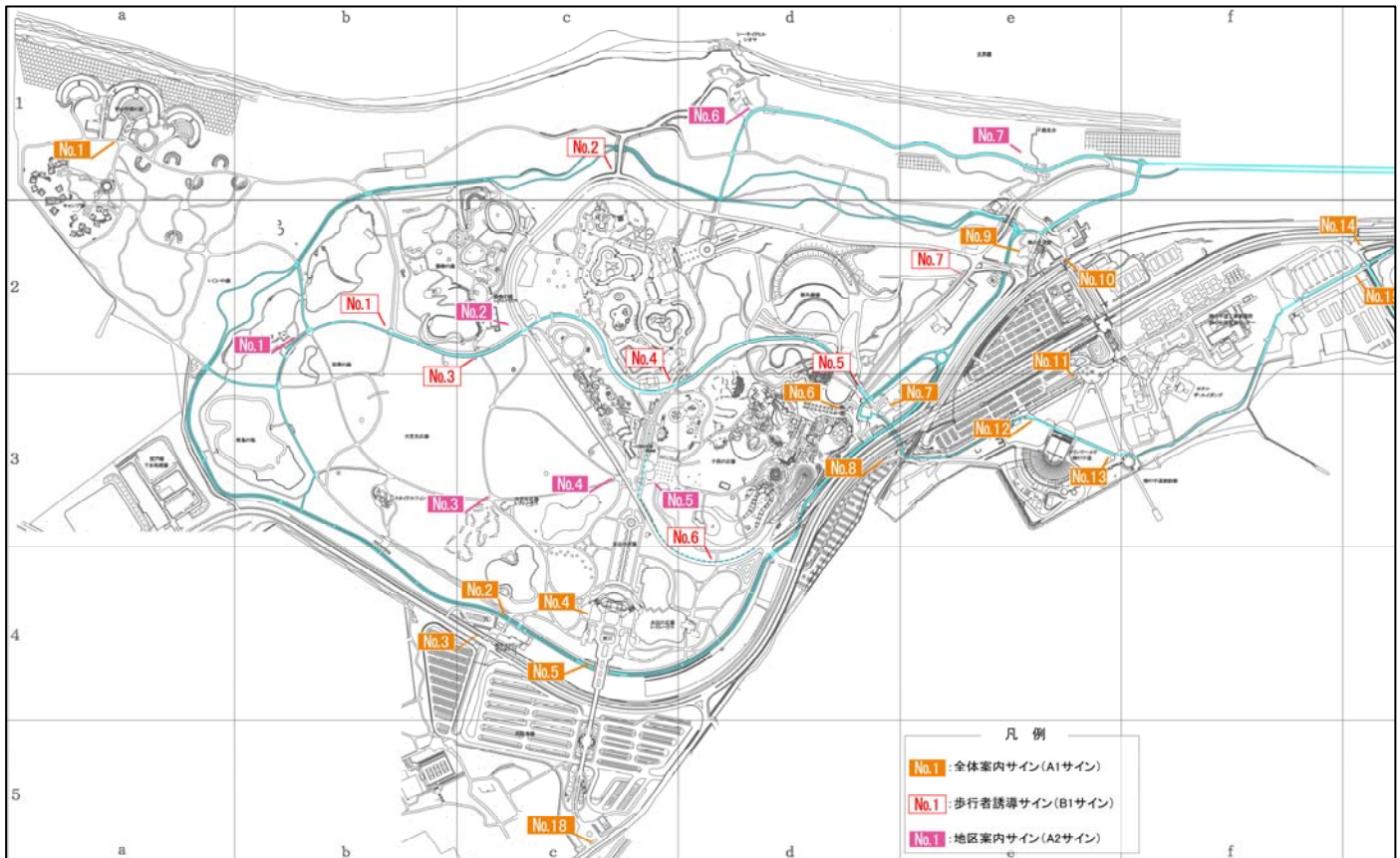
種類	参考価格	摘要
インクジェット印刷+耐候性 (UV) フィルム貼り	10 万/m2	標準的に使用するものとする。
インクジェット印刷+超耐候 性ポリウレタンシート貼り (落書き防止)	17 万/m2	園内マップを記載する A1、A2 に適用する。

■通りの名称の仕様

種類	参考価格	備考
耐摩耗性路面表示フィルムシート	1.5 万/枚	通り名の名称表示に使用する。

※ユニバーサルデザインの観点から、極力段差を生じないようにします。

参考資料3. A1、A2、B1サイン配置図(1)



参考資料3. A1、A2、B1サイン配置図(2)



参考資料 4. サイクリングコース(1)



参考資料4. サイクリングコース(2)



■ D 1 : 駐車場内誘導サイン



～西駐車場内誘導サイン(D 1)の考え方～

- A, B, Cの各駐車場には2箇所の名表示(③⑦、④⑥、②⑨)
- ⑧はゲートの分岐表示(目的地表示)。
- ①⑤は出口の行き先表示。

参考資料5. マニュアルの改訂作業

改訂の時期

本マニュアルは毎年改訂しなければならないというものではありませんが、改訂が必要となる事態もおおいに考えられます。その例を以下に挙げますと、

1. 新しい施設が導入され、独自のサインが考案されたとき。
2. フラワーピクニックのように大規模なイベントが新しく行われるようになり、積極的なPRのためにイベント独自のサインが考案されたとき。
3. 新規施設や新規開園エリアなど、表示する内容に変更が必要なとき

などが、予想されます。改訂の必要がでてきた都度に内容の追加・訂正を行って下さい。

改訂の責任者

事務局長	国土交通省 調査設計係長
事務局	国土交通省 工務係長

改訂方法

改訂が必要になったときに、事務局長が中心となって内容の追加・訂正を行って下さい。この際、改訂記録簿に必ず記入して下さい。

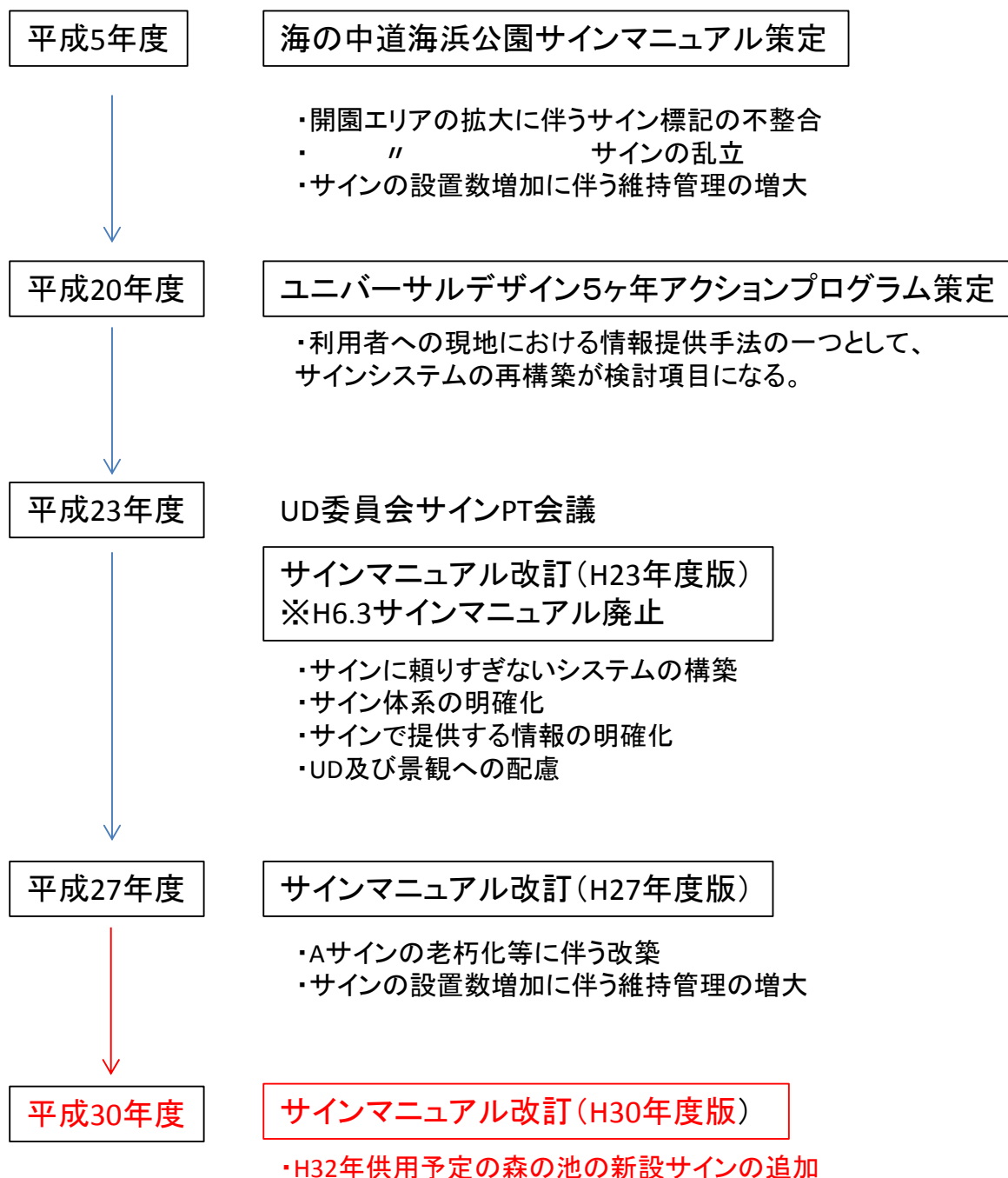
参考資料6. マニュアルの改訂記録簿

版数	改訂年月日	摘要	改訂責任者署名欄	
			調査設計係長	工務係長
初版	平成 24 年 2 月 28 日			
第 2 版	平成 25 年 2 月 28 日	サイン更新計画策定に伴う修正		
第 3 版	平成 27 年 2 月 29 日	サイン更新計画策定に伴う修正		
第 4 版	平成 31 年 3 月 8 日	森の池の供用に伴う修正		
第 5 版				
第 6 版				
第 7 版				
第 8 版				
第 9 版				
第 10 版				

(注) 改訂の際には、この改訂記録簿に必ず記入して下さい。

■平成 30 年度改定概要

●サインマニュアルの経緯



● 森の池サインの考え方

■ ルール

「森の池」までのサイン(森の池外)

- ・サインマニュアルに準拠する。

「森の池」内のサイン

- ・考え方はサインマニュアルに沿う。
- ・デザイン等は「森の池」のイメージに合わせる。

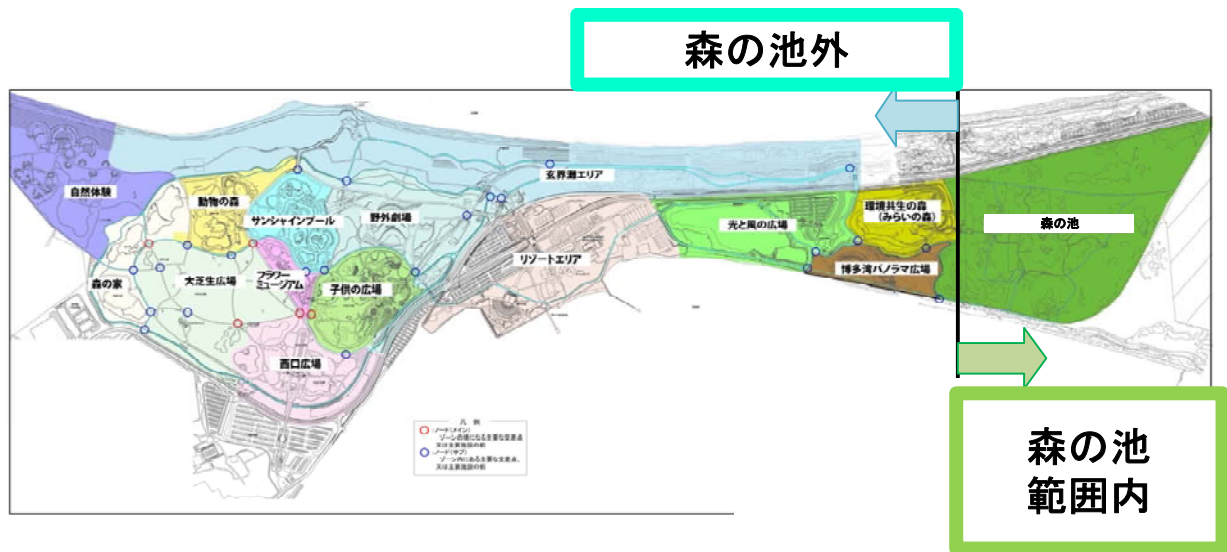


図 森の池サインの考え方

●森の池サインの概要

表 森の池サインの概要

エリア	サインの種類	目的と概要	マニュアルとの適合性	基数
森の池囲内	自転車誘導サイン	・自転車と歩行者兼用のサインとして、園路の分岐点に設置し、他エリアへの誘導を行う。	・考え方はマニュアルに準拠 ・デザイン等は「森の池」のイメージに合わせる	5箇所 10基
	規制サイン 【立入禁止】 【自転車進入禁止】	・通行止の園路や主要園路から派生する主要歩道への進入を規制するサイン		立:4基 自:8基
	記名サイン 【トイレ】 【自転車置場】	【トイレ】 ・視認性向上のため、トイレ施設の壁面に設置。	・マニュアルに準拠	1基
		【自転車置場】 ・視認性向上のため、自転車置場に設置	・考え方はマニュアルに準拠 ・デザイン等は「森の池」のイメージに合わせる	9基
	自転車園路路面表示	・自転車の通行を誘導するため、森の池の自転車歩行者兼用園路に路面表示(青線)を設置。		自転車歩行者兼用園路
	学習・解説サイン	・拠点の位置を示すとともに、森の池の特徴・魅力や拠点の使い方等を説明するサインとして利活用拠点とビジター拠点に設置	・マニュアル対象外 ・掲載内容及びデザインは「森の池」の雰囲気に合わせて。	3基
	ゲートサイン	・森の池の範囲を認識させるサインとして、森の池の入口に設置。		2基
森の池外	案内サイン (A1、A2)	・森の池の供用に伴い、部分貼り替えの方法で、A1、A2サインに森の池の情報を追加する(部分的貼り替え)。	・マニュアルに準拠	A1:18基 A2:7基

●森の池サインの設置場所

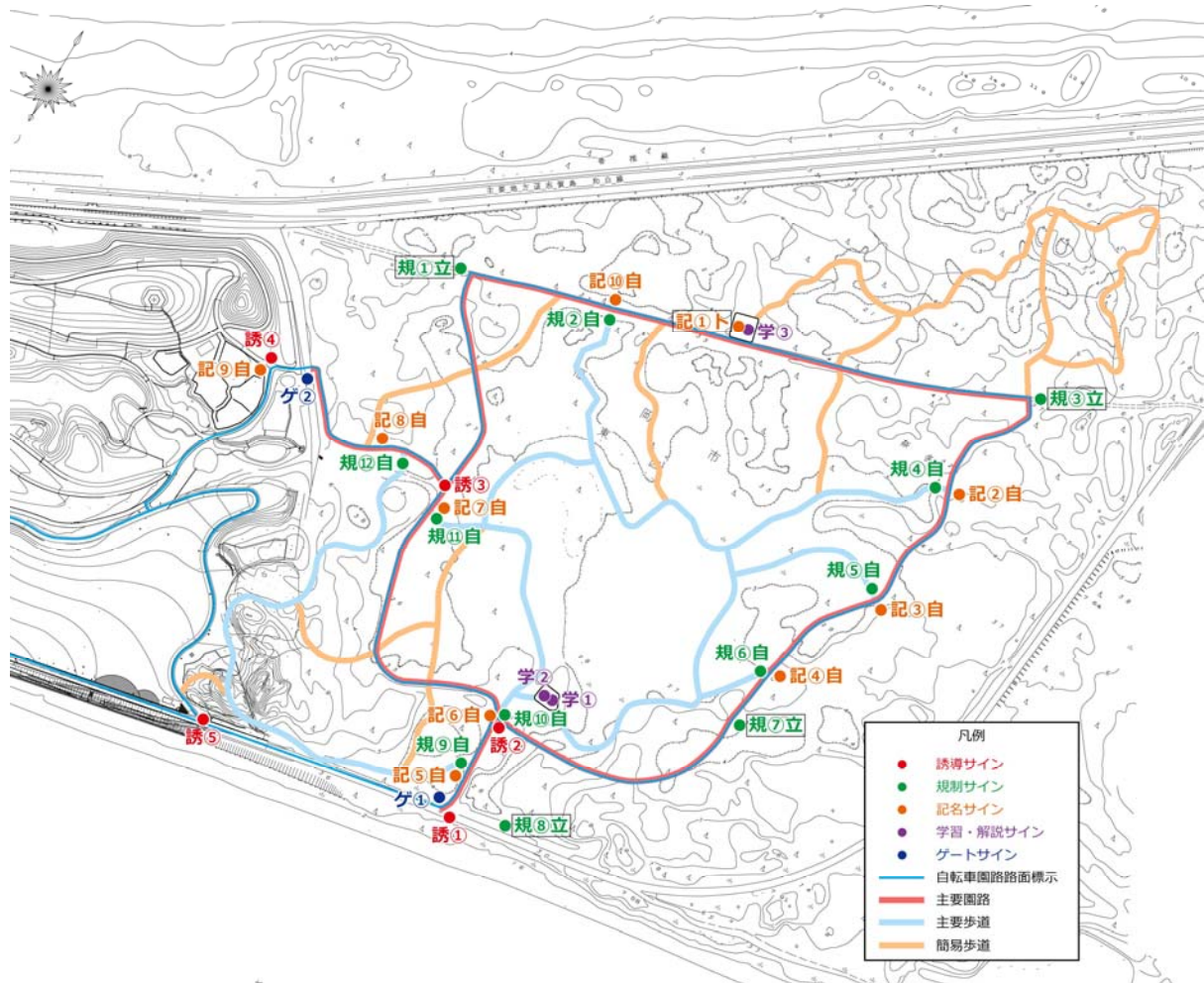


図 森の池サインの設置場所